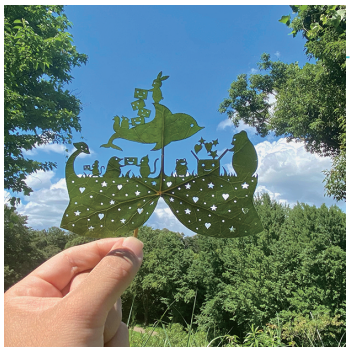
日本女医会

創立120周年記念誌

日本女医会百年史 追補版 2002-2022

公益社団法人日本女医会



表表紙「みんなに笑顔を届けるよ」

「幸せをみんなに配る」をテーマに作品を作りたいとずっと考えていました。
でも、幸せをどういう形で表現すればいいのか、とすごく悩みましたが、見た人に中身は何が入っているのかを想像してもらえる、「笑顔が描かれた箱」で表現した作品を作ることができました。
「何か」を届けることによってみんなが笑顔になる、という意味では、作品を投稿することによって皆さんに笑顔を届けている僕自身の葉っぱ切り絵人生にもつながっているかもしれないですね。

裏表紙「少しチクッとしまチュからね」

この作品は、僕がワクチン接種会場に行った際にひらめいた作品です。
お医者さんの作品は、何度か考えたことはあったのですが、医者だと分かるシルエットを葉っぱで作るのは結構難しくて…。
でも注射を持って表現すればお医者さんだと伝わりやすいのでは？と接種会場に行って感じ、制作に取り組みました。ウサギくんをお医者さんにするアイデアも考えたのですが、小さいネズミくんがはしごを使って注射を打っている方が面白いと思って、今回はネズミくんを主役にしました。
ちなみにタイトルは後から考えたんです。ネズミくんがお医者さんなので、「チュ」が入っている方が面白いと思ってこのタイトルにしました。

＜表表紙・裏表紙作品　作者＞

リト@葉っぱ切り絵

●プロフィール
葉っぱ切り絵アーティスト。1986 年生まれ。神奈川県出身。
自身の ADHD による偏った集中力やこだわりを前向きに生かすために、2020 年より独学で制作をスタート。SNS に毎日のように投稿する葉っぱ切り絵が注目を集める。TV 番組や新聞など国内メディアで続々と紹介されるほか、世界各国のネットメディアでも、驚きをもって取り上げられる。全国各地にて作品展を開催。

●書籍
葉っぱ切り絵コレクション『いつでも君のそばにいる　小さなちいさな優しい世界』2021 年 5 月（講談社）
葉っぱ切り絵メッセージカードブック『離れていても伝えたい』2021 年 12 月（講談社）
葉っぱ切り絵絵本『素敵な空が見えるよ、明日もきっと』 2022 年 8 月（講談社）
葉っぱ切り絵カレンダー 2023『小さな森の仲間たちの 12 ヵ月』 2022 年 9 月（講談社）

●リト@葉っぱ切り絵　公式 SNS アカウント
Instagram @lito_leafart　https://www.instagram.com/lito_leafart/?hl=ja
Twitter @lito_leafart　https://twitter.com/lito_leafart

～祝典～

2002 年創立百周年記念式典「医学会新聞」提供

皇后陛下

橋本葉子会長

2013 年創立 110 周年ならびに公益社団法人認定記念式典・祝賀会

日本女医会 120 周年の歴史

～国際女医会議～

2004 年 第 26 回国際女医会議（東京）

2004 年 第 26 回国際女医会議にて。ガーナからの参加者と橋本会長、平敷次々期国際女医会会長

2015 年 第 11 回国際女医会西太平洋地域会議ウェルカムパーティーにて。故山本纐子会長（前列中央）、故濱田啓子理事（前列最右）

2015 年 第 11 回国際女医会西太平洋地域会議（台北）

2016 年 第 30 回国際女医会議（ウィーン）

2017 年 第 12 回国際女医会西太平洋地域会議（香港）

2019 年 国際女医会創立 100 周年記念会議（ニューヨーク）

創始者・歴代会長

創始者　**前田園子**

初代会長　**吉岡彌生**
（1920～1959）

第２代会長　**佐藤やい**
（1959～1964）

第３代会長　**龍 知恵子**
（1964～1967）

第４代会長　**三神美和**
（1967～1985）

第５代会長　**山﨑倫子**
（1985～1994）

第６代会長　**佐藤千代子**
（1994～1998）

第７代会長　**橋本葉子**
（1998 ～ 2006）

第８代会長　**小田泰子**
（2006 ～ 2010）

第９代会長　**津田喬子**
（2010 ～ 2014）

第 10 代会長　**山本纊子**
（2014 ～ 2017）

第 11 代会長　**前田佳子**
（2017 ～ 2020）

第 12 代会長　**大谷智子**
（2020 ～ 2022）

第 13 代会長　**前田佳子**
（2022 ～　）

［目 次］

日本女医会創立120周年記念誌

日本女医会百年史追補版2002-2022

表紙について

口 絵

日本女医会120年の歴史
～祝典～ …… *1*
～国際女医会議～ …… *2*
歴代会長 …… *4*

挨拶・祝辞

［刊行にあたって］ 公益財団法人日本女医会 会長 前田佳子 …… *6*
［祝辞］ 国際女医会会長 Eleanor Nwadinobi …… *7*
［祝辞］ 国際女医会西太平洋地域副会長 Bong Ok Kim …… *8*

100周年から120周年のあゆみ *9*

2002（平成 14）年 ／*10*
2003（平成 15）年 ／*14*
2004（平成 16）年 ／*16*
2005（平成 17）年 ／*18*
2006（平成 18）年 ／*19*
2007（平成 19）年 ／*21*
2008（平成 20）年 ／*23*
2009（平成 21）年 ／*25*
2010（平成 22）年 ／*26*
2011（平成 23）年 ／*28*
2012（平成 24）年 ／*29*
2013（平成 25）年 ／*30*
2014（平成 26）年 ／*32*
2015（平成 27）年 ／*33*
2016（平成 28）年 ／*35*
2017（平成 29）年 ／*37*
2018（平成 30）年 ／*40*
2019（平成 31/令和元）年 ／*42*
2020（令和 2）年 ／*44*
2021（令和 3）年 ／*47*
2022（令和 4）年 ／*49*

資料編 *50*

歴代の役員一覧 …… *51*
日本女医会理事会一覧 …… *52*
日本女医会定時総会一覧 …… *55*
開催講演会一覧 …… *56*
日本女医会関連の受賞者等一覧 …… *61*
功労会員・永年会員一覧 …… *63*
国際女医会議開催一覧 …… *65*
日本女医会・支部活動の概要 …… *66*
日本女医会の定款等 …… *73*

索 引 …… *76*
編集委員・編集後記

日本女医会創立120周年を迎えて

会長　前田佳子

2022 年 4 月に日本女医会は創立 120 周年を迎えました。私たちは世界で一番歴史の長い女性医師の団体です。初めに、1902 年に会を設立された前田園子先生に始まり今日に至るまで、この長い歴史を支えてくださった会員の皆様方に深く感謝申し上げます。そしてこの歴史的瞬間に、多くの方々に 120 周年を共に祝っていただけることは、私にとっても望外の喜びです。

またこの度、創立 120 年の節目に、『日本女医会百年史』の追補版として『公益社団法人日本女医会 創立 120 周年記念誌』を発刊させていただくことにいたしました。日本女医会年表に加えて、社会情勢を反映するために「この年の主な出来事」を、特に重要な項目に関しては解説を記載しています。あらためてこの時代を振り返っていただく一助にしていただければ嬉しく存じます

120 周年記念誌発刊にあたり、20 年前に先輩方が編纂された『日本女医会百年史』を読み返しました。当時の橋本葉子会長は、「21 世紀は女性の時代、医療界では女性医師の時代」と述べられていましたが、医学部入試における女性差別や世界基準での日本の女性医師比率の低迷など、まだまだ女性医師の時代とは言い難い日本の現在です。私たちには、これまで以上にジェンダー平等に向け幅広い活動の加速が求められています。

100 周年という高い山を越えてきた日本女医会の活動は、日本の女性医師の歴史そのものであると言っても過言ではありません。これまでの多くの先人たちの絶え間ないご活動があったからこそ現在の私たちがあり、私たちの活動がこれからの後輩たちの活躍につながってゆくものと信じております。さらに高みを目指してまいりますので、今後とも日本女医会の活動に厚いご支援の程よろしくお願い申し上げます。

2022 年 11 月

Celebrating the 120th Anniversary of the Japan Women's Medical Association

Yoshiko Maeda M.D., Ph.D.
President of Japan Medical Women's Association

In April 2022, the Japan Medical Women's Association celebrates its 120th anniversary. We are the longest-established organization of women doctors in the world. First of all, I would like to express my deepest gratitude to all the members who have supported this long history, beginning with Dr. Sonoko Maeda, who founded the association in 1902, and continuing to today. It is my great pleasure to celebrate the 120th anniversary with so many of you at this historic moment.

On the occasion of the 120th anniversary of its founding, we have decided to publish "The 120th Anniversary Commemorative Book of the Japan Medical Women's Association" as a supplement to "The 100-Year History of the Japan Medical Women's Association". In addition to the chronology of the Japan Medical Women's Association, "Major Events of the Year" are included to reflect social conditions, and explanations are provided for particularly important issues. We would be happy if you could help us look back on this era.

In publishing the 120th anniversary commemorative book, I read over the "The 100-Year History of the Japan Medical Women's Association" compiled by our seniors 20 years ago. The president at that time, Yoko Hashimoto, stated that "the 21st century is the era of women and the era of women doctors in the medical field." However, today, Japan is still far from the era of women doctors, with discrimination against women in medical school entrance examinations and the stagnant ratio of women doctors in Japan by global standards. We are required more than ever to accelerate our wide-ranging activities for gender equality.

It is no exaggeration to say that the activities of the Japan Medical Women's Association, which has crossed the high mountain of its 100th anniversary, are the history of women doctors in Japan itself. We are here today because of the unceasing efforts of our predecessors, and we believe that our activities will lead to the success of our younger colleagues in the future. As we strive to achieve even greater heights, we ask for your continued support for the activities of the Japan Medical Women's Association.

November 2022

Greetings from the President of the Medical Women's International Association

Dr Eleanor Nwadinobi
President Medical Women's International Association
https://dr-eleanornwadinobi.com

My dear members of the Japan Medical Women's Association.
I bring you warm greetings as the President of the Medical Women's International Association (MWIA)
It is with immense pleasure that I heartily congratulate the Japan Medical Women's Association (JMWA) on the celebration of her 120th anniversary in April 2022.
I thank the President, Dr. Yoshiko Maeda for her leadership and kind invitation to send this congratulatory message.
JMWA is one of our cherished foundation members and became affiliated to MWIA after it was officially founded as an Association at a MWIA meeting in Geneva,1922.
Honorary members of MWIA from JMWA have included Rinko Yamazaki and Harumi Ono. Two treasured Past Presidents have been, Harumi Ono 1974–1976 and Atsuko Heishiki 2007–2010.
We are grateful to Past President Harumi Ono who start "Horani and Harumi Ono fund" which has been used to encourage regional meetings and to invite associations to search for new forms of regional contact between member associations.
Soon after the Japan Medical Women's Association celebrated their 100th Anniversary in 2002, you hosted the 26th Congress in 2003. I recall with nostalgia being at the Tokyo Congress, enjoying the hospitality of a host family. The Opening Ceremony was a grand affair with a violin concert and a delicious Japanese buffet crowned with presence of Empress Michiko.
On a personal note, I forged a special friendship with MWIA Past President Atsuko who I last saw in Vienna 2016. She passed not too long after that and I miss her so much. It was an honour for me to participate in a memorial event in her honour at the Congress in New York in 2019.
JMWA continues to play a leading role in health and women's issues in Japan and beyond. I am very excited and hopeful for the direction JMWA is headed in, especially as MWIA begins to increase our presence in the Western Pacific region. I am endlessly grateful for the part you have played in its growth, and for the passion each one of you has brought and the amazing relationships that have been built along the way.
I wish you a fruitful commemorative celebration. I hope this heralds the beginning of some useful exchanges, and look forward to future engagements.
Warmly,

祝辞

国際女医会会長　エレノア・ヌワディノビ

親愛なる日本女医会会員の皆様。

国際女医会（MWIA）会長として、心を込めてご挨拶を申し上げます。日本女医会（JMWA）が 2022 年 4 月に創立 120 周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。前田佳子会長のリーダーシップと、この祝辞を送る機会をいただいたことに感謝します。

JMWA は、1922 年にジュネーブで開催された MWIA 総会で正式に入会を承認され、MWIA の大切な団体会員の一つとなっています。

JMWA の名誉会員には、山崎倫子さん、小野春生さんがおられ、1974 年から 1976 年まで小野春生さん、2007 年から 2010 年まで平敷淳子さんが MWIA の歴代会長として名を連ねておられます。

また、小野春生元会長が創設した「ホラニと小野春生基金」は、地域会合を奨励し、会員協会間の新しい地域交流の形を模索するために利用されています。

2002 年に日本女医会が 100 周年を迎えた直後、2003 年に第 26 回国際女医会議を開催していただき、東京大会ではホストファミリーにお世話になったことを懐かしく思い出します。開会式は、美智子皇后のご臨席のもと、バイオリンコンサートと美味しい和食のビュッフェで盛大に行われました。

個人的なことですが、2016 年のウィーンで最後にお会いした MWIA 元会長の平敷淳子さんとは、特別な友情を育みました。その後すぐに彼女が亡くなったことを、とても淋しく思っています。2019 年にニューヨークで開催される大会では、彼女を偲ぶイベントに参加することができ、光栄に思っています。

JMWA は日本のみならず世界の健康問題や女性問題において主導的な役割を果たし続けています。特に MWIA が西太平洋地域での存在感を高め始めている今、JMWA の進むべき方向性に大きな期待と希望を抱いています。私は、JMWA の成長に皆さんが果たした役割、皆さん一人ひとりがもたらした情熱、そしてその過程で築かれた素晴らしい関係に、限りない感謝の念を抱いています。

この記念行事が実り多きものとなることを祈念しています。そして、これをきっかけに有益な交流が始まることを願いつつ、今後の活動に期待したいと思います。

心を込めて

Congratulatory Message

Bong Ok Kim, M.D., Ph.D.
Vice President for Western Pacific Region Medical Women's International Association (MWIA)

It is a great previlage and an honor for me to send this message to congratulate the 120th Anniverary of the Japan Medical Women's Association as Vice President of Medical Women's International Association (MWIA) representing Western Pacific Region (WPR). As Japan Medical Women's Association was founded in April, 1902 the Anniversary was in April 2022. Due to the Covid–19 pandemic, I understand, JMWA is celebrating the Anniversary on December 11, 2022.
I would like to take this opportunity to congratulate Dr. Yoshiko Maeda, who is the President of JMWA for her outstanding leadership and dedication to make this celebrating event very successfully on behalf of the members of Western Pacific Region of MWIA. My sincere appreciation goes to Dr. Maeda and the members of JMWA for the invitation for this congratulatiry message.
On the occasion of Anniversary like this it is good to review and learn the important and precious history of the organization. After the foundation of JMWA, Japanese members played an important role as a part of the founding members of MWIA when MWIA was founded in New York in 1919. We, as members of WPR, are very thankful to JMWA and proud of this contribution. And this was well recognized by the members of MWIA when MWIA celebrated its Centennial in New York in 2019.
JMWA has been working in many fields in Japan to improve health for children and women, to facilitate better education for female medical students and trainees, to expand leadership of female medical doctors and to empower women doctors, etc. as well as excellence in clinical practice, research, education and public services as medical doctors.
JMWA also has been actively working internationally, too as one of the leading National Associations of MWIA as well as in WPR. Two International Congresses of MWIA were held in Tokyo in 1976 and 2004. Great international leaders from JMWA devoted themselves for the development of MWIA and WPR into current strong international organization. And they are Dr. Harumi Ono, Dr. Rinko Yamazaki, Dr. Astuko Heishiki and Dr. Hiroko Yamamoto, to name only a few. Without their pioneering dedication to MWIA knowing the importance and power of international collaboration and cooperation, MWIA could not have grown into the organization as it is now. We are deeply indebted to JMWA and your members who had the global openness.
I am looking forward to seeing the growth and development of Japan Medical Women's Association to prepare for the future needs of medical women as well as the society with multiple challegies ahead in the years to come. Gender equality in medicine and society, bioethical challenges in medical practice, climate change and medicine and reaching sustainable developmental goals (SDGs) set by United Nations are some of the issues we need to work together for the better future of ours.
I wish every member of JMWA and Dr. Yoshiko Maeda health and wealth with all the best. Thank you very much (Arigato Gozaimasu).

祝辞

国際女医会西太平洋地域副会長　ボンオク・キム

この度は、西太平洋地域（WPR）を代表する国際女医会（MWIA）の副会長として、日本女医会の 120 周年をお祝いするメッセージを送らせていただくことを、大変光栄に思っております。日本女医会（JMWA）は 1902 年 4 月に設立され、2022 年 4 月に 120 周年を迎えられましたが、Covid-19 パンデミックの影響があって 2022 年 12 月 11 日に記念式典を行うと聞いています。

この場をお借りして、MWIA 西太平洋地域の会員を代表して、JMWA 会長である前田佳子先生の卓越したリーダーシップと献身により、この祝賀会が成功裏に開催されることをお祝いしたいと思います。また、このような祝辞を述べる機会を頂戴しました前田先生、JMWA の皆様に心より御礼申し上げます。

このような記念の日に、JMWA の重要で貴重な歴史を振り返り、学ぶことは良いことだと思います。JMWA の設立後、1919 年にニューヨークで MWIA が設立された際、日本人会員が MWIA の設立メンバーの一員として重要な役割を果たしました。私たち WPR のメンバーは、JMWA に大変感謝し、この貢献を誇りに思っています。そして、このことは、2019 年に MWIA がニューヨークで 100 周年を迎えた際に、MWIA のメンバーに再認識されました。

JMWA は、医師としての臨床、研究、教育、公共サービスにおいて卓越した能力を発揮すると同時に、子どもと女性の健康増進、女子医学生・研修生の教育向上、女性医師のリーダーシップ拡大、女性医師のエンパワーメントなど、日本の様々な分野で活動しています。

また、JMWA は WPR のみならず、MWIA の主要な国際団体の一つとして、国際的な活動も積極的に行っています。国際女医会議は、1976 年と 2004 年の 2 回、東京で開催されました。JMWA の偉大な国際的指導者たちは、MWIA と WPR を現在の強力な国際組織へと発展させるために力を尽くしました。小野春生先生、山崎倫子先生、平敷淳子先生、山本纊子先生など、数え上げればきりがないほどです。国際的な連携や協力の重要性とパワーを知っている彼らの先駆的な献身がなければ、MWIA が現在のような組織に成長することはなかったでしょう。世界に開かれた JMWA と会員の皆様に深く感謝いたします。

JMWA が女性医師としてだけでなく、社会の将来のニーズに備えて成長し、発展することを期待しています。医療と社会における男女平等、医療現場における生命倫理の課題、気候変動と医療、国連が定めた持続可能な開発目標（SDGs）の達成などは、私たちのより良い未来のために協力しなければならない課題の一部です。

JMWA の会員の皆様、そして前田佳子先生のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。ありがとうございました（アリガトウゴザイマス）。

100周年から120周年のあゆみ

2002
平成14年

この年のノーベル生理学・医学賞

Sydney Brenner［英］、H Robert Horvitz［米］、John E Sulton［英］／生物体の器官形成とプログラムされた細胞死に於ける遺伝的解明

日本女医会年表

2.25〜3.3　日本中東女性交流が行われ、ヨルダン、エジプト、パレスチナの女性団体が来日
3.10〜20　日本から、ヨルダン、エジプト、パレスチナを訪問
5.1　「世界最初の女性医師〜エリザベス・ブラックウェルの一生〜」発刊
5.10〜13　第7回国際女医会西太平洋地域会議（台湾台北市）
5.18　日本女医会創立百周年記念式典・祝賀会（東京・京王プラザホテル）
5.18　「日本女医会百年史」発刊
5.19　第47回定時総会・評議員会（東京・京王プラザホテル）出席者143名
講演会「新しい乳癌の治療の体験を通して」久田タカ（日本女医会理事）
5.–　月刊誌「ゆうゆう糖尿病」創刊
8.8〜16　日中友好チョー・オユー女子合同登山隊2002（日中国交回復30周年記念）
9.16〜20　第53回WHO西太平洋地域委員会（国立京都国際会議場）
10.6　第2回「十代の性と健康」指導者養成講座（東京・主婦会館プラザエフ）
10.26　学術講演会「高齢者糖尿病の管理の視点を問い直す」井藤英喜（東京都多摩老人医療センター）
11.10　第6回ブロック別懇談会（鳥取・米子国際ホテル）出席者7名

この年の主な出来事

2.8　ソルトレイクシティー冬季オリンピック・パラリンピック開催
4.1　完全学校週5日制　ゆとり教育スタート
5.31〜6.30　サッカー・ワールドカップが日本と韓国で共同開催、日本は初のベスト16
7.21　中国製ダイエット薬で女性が死亡
9.17　初の日朝首脳会談　日本人拉致認める
10.5　北朝鮮による拉致5人帰国
10.8　小柴昌俊氏（東大名誉教授）ノーベル物理学賞を受賞
10.9　田中耕一氏（島津製作所）ノーベル化学賞を受賞
10.25　石井紘基衆議院議員刺殺事件
10.28　臓器移植ネットワークが認定した心臓移植施設は東は東京女子医科大学、西は大阪大学と国立循環器病センターであったが、2001年の医療事故後に辞退した東京女子医科大学の代わりに東京大学と埼玉大学を追加

日本女医会創立100周年記念事業

2002年は日本女医会創立100周年にあたり、記念事業を企画、実行した。

1902年（明治25年）、済生学舎（東京）出身の前田園子や吉岡彌生が中心になり「女性の社会的地位の向上」「女性医師相互の親睦と研修」を目的に日本女医会を創立した。世界で最も歴史の長い女性医師の組織である。1913年には日本女医会雑誌が創刊された。

1998年10月24日の日本女医会理事会において、100周年記念事業の実施が可決され、100周年記念事業実行委員会（会長、副会長、各部より1名、実行委員長は石原幸子副会長）を設置、2002年5月18日に記念式典・祝賀会の挙行、「百年史」の出版が決まった。

2000年には、日本女医会のロゴマークが、デザインを会員より募集して作成された。

2001年8月18日には、100周年記念プレコンサートと公開講演会（講師：平敷淳子）を、文京シビックホールにて開催し、774,974円の収益を得た。

記念式典・祝賀会の準備は、実行委員会を含む全理事が1年以上前から熱心に活動して行われた。特に皇后陛下の招聘については会長を筆頭に特段の配慮と緊張をもって宮内庁と何度も会談を重ねた。2002年5月7日、宮内庁、皇后警察、警視庁、新宿署を

交えてリハーサルを行い、皇后陛下をお迎えするために万全の体制を整えて式典に臨んだ。

5月18日「創立百周年記念式典・祝賀会」（京王プラザホテル）

＜記念式典＞～皇后陛下をお迎えして～（5階　エミネンス　16：00～16：40）

美智子皇后陛下のご臨席を賜り緊張の中にも厳かに式典は始まった。

石原幸子副会長の開会の辞に始まり、国歌斉唱、橋本葉子会長が創立以来の歴史と、21世紀社会に貢献する重要な役割を認識していると決意の式辞を述べた。

続いて、皇后陛下から日本女医会と女医の活動に理解を示された心のこもったお言葉を賜り、一同感激の極みであった。

引き続き、厚生労働大臣坂口力氏、東京都副知事青山やすし氏、日本医師会会長坪井栄孝氏、国際女医会会長Dr. Shelley Rossから、女性医師のこれまでの努力と活動を高く評価し、更なる飛躍を期待しているという主旨の激励のご祝辞を頂戴した。

最後に、永年会員表彰でダイアモンド会員（最長老）唐沢寿氏、三神美和氏の2名とサファイア会員（50年以上）の263名が表彰された。

加藤竺子副会長の閉会の辞で記念式典は滞り無く終了した。

＜祝賀会＞（5階　コンコード　17:30～19:47　参加者350名）

山本文郎アナウンサーの司会で進行した。

橋川ふさ子副会長の開会の辞、橋本葉子会長の挨拶の後、先ず、内閣総理大臣小泉純一郎氏から男女共同参画を目指す小泉内閣として女性医師が活躍するのは大変喜ばしいという主旨のお祝いの言葉を頂き、また国際女医会副会長Dr. Jeanette Taitからは、日本女医会は女性医師や若いドクター達に大きな役割を果たしているという日本語も混じえたご祝辞をいただいた。

100周年記念植樹贈呈式が前国際女医会副会長Dr. Margaret Maxwellからあり、また、一会員より寄贈された日本女医会のロゴマーク入りの半被を着用して鏡開き、乾杯、東京都医師会会長佐々木健雄氏のご祝辞、そして祝電披露と進行した。

アトラクションは加藤登紀子コンサートでその美しい歌声は出席者の心にしみわたり感銘を受けたとの感想が多く寄せられた。

石原幸子副会長の閉会の辞で和やかに、また満足感と安堵のうちに閉会となった。

小泉純一郎首相

創立百周年記念式典

皇后陛下のおことば

日本女医会が創立百周年を迎え、この佳き日に、シェリー・ロス国際女医会会長を始め、日本各地から集まられた女医、及びその関係者とお会いいたしますことを嬉しく思います。

日本において、医療を営む女性は、遠く古代より存在しておりました。大宝律令（701年）の注釈書である令義解（りょうのぎげ）には、すでに「女医（にょい）」の二文字が記されており、8世紀前半には、女医を養成する「女医博士（にょいはかせ）」という職種も設けられていたことが伝えられています。江戸時代（1603～1867年）の初期には、野中婉（えん）を始め二、三の町医が名を留めており、江戸末期には、シーボルトの息女であり、オランダ医学を学んだ楠本いね子が、女医史に大きな足跡を残しました。しかし、近代医学が確立され、行政の諸制度が整った明治以降、正規に医師の資格を持ちつつも、女性が医師としての地位を社会に確立するまでには、長い苦難の歴史があったことが知られております。日本女医会が創立された明治35年（1902年）、日本では既に荻野吟子（ぎんこ）を始めとし、百名前後の女性が公認の開業免許を得、女医となっておりますが、当時の社会において、女医が医師として受け入れられることは決して容易なことではありませんでした。女医会の名の許に、各地の女医が集い、医学情報を交換し、討論を行い、良き医師となるべく互いに磨き合い、励まし合っている姿が想像され、胸を打たれます。

百年の歴史を通じ、日本女医会は、会員である女医の資

質の向上を願い、また、女医の存在が少しでも社会の福祉に役立つことを願って活動を続けてまいりました。過去40年余にわたり、女医の学術研究を助成するとともに、優れた医療貢献や、医療を通じての社会奉仕に対しては、賞をもってこれを評価し、ねぎらってきています。吉岡彌生賞、荻野吟子賞という、優れた先達の名を持つこれらの賞を与えられた女医たちは、どれ程に大きな励ましを得、更なる研究や活動に赴いていったことでしょう。また、私は、女医会がその初期より公衆衛生を重視し、公衆衛生活動に対し、常に助成を続けていることを嬉しく思っております。近代史上初の女医となり、自ら創設した女子医科大学に、かつて医学史上例のない予防医学の講座をつくり、自身衛生の講義を担当したエリザベス・ブラックウェルは、「どんな新しい薬剤も決して完全な予防の役目をしない」とし、改めて衛生学、公衆衛生学、予防医学に対する世人の関心を喚起したと言われています。百数十年を経た今日も、恐らくこの医学の基本に変わりはなく、日本女医会が、今後も日本及び世界の各地において地域の人々を病から守り、健康な暮らしを営む上の大きな力となって下さることを望んでおります。

百周年に当たり、女医会の多くの方々が、過去を振り返るとともに、女医会のこれからに思いを馳せておられることと思います。男女共同参画の時代に入った今、女医会の意味を考えることは、女性の権利と特性を、今後どのように考えていくかという大切な問題にかかわることであり、その答えも決して一様のものであるとは思いません。長い歴史を持つこの会を、これからの時代に更に意義深くあらしめるよう、会員が心一つに模索を続けられる中から、会がおのずから未来の姿を形づくっていくことを期待し、日本女医会の今後を見守っていきたいと思います。

終わりに当たり、医師という厳しい立場で、日々献身しておられる皆様の御労苦に感謝し、会員の皆様の健康と幸せをお祈りいたします。

創立百周年記念式典式辞

日本女医会会長　橋本葉子

薫風緑樹の候、この佳き日、皇后陛下ご臨席の下、各界の皆々様、会員の皆様方大勢のご参加を得て、茲に社団法人日本女医会創立百周年記念式典を挙行できますことを、嬉しく存じます。

江戸時代から明治時代に変わりました1868年（明治元年）に医師免許規則が改正され、女性で医師を志す者は、医術開業試験に合格するか、外国の医学校を卒業しなければなりませんでした。試験に合格するための養成機関として、東京には済生学舎と成医会講習所がありました。日本女医会は済生学舎出身の前田園子や吉岡彌生が中心となり、女性の社会的地位の向上を目的とし、同時に女性医師相互の親睦と研修を兼ねた会合を持つために、1902年（明治35年）に創立されました。1913年（大正2年）には日本女医会雑誌も創刊されました。

戦前の日本女医会は、初期の目的を果たしながら社会活動も活発に行われました。1927年（昭和2年）には普選達成デーに他の婦人団体とともに街頭のビラ撒きに参加しております。これは、選挙が厳正に行われるよう、また、婦人参政権取得の早期実現を訴える活動でありました。1928年（昭和3年）には、第1回汎太平洋婦人会議に吉岡彌生が保健問題の日本代表として参加、その講演は名演説であったと伝えられております、1935年（昭和10年）には医薬分業反対全国医師大会にたくさんの女性医師が参加しております。戦時中及び戦後の混乱期には日本女医会の活動は中断しておりましたが、1955年（昭和30年）に日本女医会再建第1回総会が開かれ、1957年（昭和32年）に戦後の日本女医会の組織が完成いたしました。1969年（昭和44年）には公益法人社団法人格を取得しております。

戦後の日本女医会は、女性医師相互の研鎖、親睦及び地位の向上、福祉の増進ならびに地域医療などの社会活動、国際交流と親善を三本柱として活動しております。そのために吉岡弥生賞や荻野吟子賞の授与、学術研究の助成、学術講演研修会や一般市民を対象とする公開講座の開催、健康・医学雑誌への協力、女性医師による青少年の健康支援事業、博覧会の開催期間中や災害時の医療サービス、世界で発生した災害に対する募金活動、国連NGO国内婦人委員会や男女共同参画社会委員会の活動、女性医師ならびに働く女性の環境整備支援など、可能な範囲で活動しております。

また、国際女医会加盟団体として、1976年（昭和51年）に第15回国際女医会議を東京で開催、1993年（平成5年）には第5回国際女医会西太平洋地域会議を京都で開催し、いずれも成功裡に終了いたしました。来る2004年（平成16年）には第26回国際女医会議を東京で開催することが決定しております。

百周年を機に、従来の活動に加えて、人材バンクの活用、医療情報誌の刊行なども軌道に乗せたいと考えております。21世紀は女性の世紀といわれております。専門職の集団であります日本女医会は、女性の視点から社会に貢献する重要な役割を持っていることを、この創立百周年を期して認識をあらたにし、実行していくことをお誓いし、式辞といたします。

創立百周年記念祝賀会　来賓祝辞

内閣総理大臣　小泉純一郎

本日は、お招きいただきましてまことにありがとうござい

ます。

今、小泉内閣におきましても男女共同参画時代、いわば構造改革は何も行政機関あるいは企業だけではないんですね。民間でできることは民間でやるんです。この女性も、男性と同じような、あるいは勝るとも劣らない能力を持っておられるわけですから、これからは暮らしの構造改革、これが男女共同参画社会の一つの大きな目標でもあります。

特に百周年といいますけれど、百歳というのは、夢のまた夢と思われていました。百まで生きるというのは、ところが最近では、もう百歳以上の方は一万一千人を超えましたね。しかも、その八割以上は、女性ですよ。いかに女性が強いか、物語っていると思うんでありますが、その中でも、学識、そして頭脳、見識、いわば一般の国民からみますと、トップ水準の方々が女医の皆さんであります。今後、ますます、健康に多くの国民の関心が向くと思います。

病気になってみて初めて健康のありがたさがわかる、と。私もたまには風邪くらいで休んでみたいと思う時があるんですが、一度風邪をひきますとね、早く治さなきゃいかんと、お医者さんのありがたさがすぐ分かるわけであります。いわば、皆さん方は最も国民に頼られる存在であり、命を預かる、病気を治す、健康になる、もっとも貴重なお仕事をされておられると思います。そういう自らのお仕事に誇りを持ち、これからもさらに進んだ医療の向上のためにご活躍をいただきたいと心から願っております。

百周年という大きな節目にあたりまして、今後ますます皆様方のご健勝と女医会のご発展を祈念申しあげまして、お祝いの言葉にかえさせていただきます。今日は本当におめでとうございました。（一部抜粋）

その他の記念事業

- 「日本女医会百年史」発行（B5版、269頁、ぎょうせい、定価2,500円）

橋本葉子会長、歴代及び現広報部員からなる編集委員会を中心に作成され2002年5月に出版された。

日本における女性医師の誕生から、1902年に創立された日本女医会の100年間のあゆみを1年ごとの年表と解説でまとめ、2つの女医会員による座談会、種々の関連資料などが収められている。その多岐にわたる詳細な記述から、編集委員の出版への意気込みが感じられ、百周年を迎える誇りと喜びが伝わってくる本である。

- 「世界最初の女性医師～エリザベスブラックウェルの一生～」発行 （四六判、219頁、定価1,500円（会員特別価格1,200円））

1944年に出版された「The First Woman Doctor: The Story of Elizabeth Blackwell, MD.」（Baker, Rachel著）を、大原武夫（会員の父上）、大原一枝（女医会会員）共訳により、2002年5月に出版した。

- 月刊誌「ゆうゆう糖尿病」発行（2002年5月～2004年6月）、年間購読料12,600円（税、送料含む）
- 十代の性教育等の医療啓蒙活動
  「十代の性と健康」指導医養成講座
- ティーンエイジャー向け性教育ビデオ及び小冊子を作成販売
- 日本女医会のロゴマークを会員よりデザインを募集して制作

会員から応募されたロゴマーク

- 記念オリジナルジュエリー、ブックマーカーを制作販売し、684,990円の収益を上げる。
- 「100周年記念式典ビデオ」300本、「JMS日本女医会百周年記念号」2,000冊制作

日本女医会百周年記念事業は、皇后陛下ご臨席のもとでの記念式典、記念誌出版、記念講演会開催、記念グッズ制作、ロゴマークの作成など多彩で、まさに世紀の大記念事業となった。事業費は会員及び企業等一般からの寄付金およそ4,000万円と式典参加費、その他雑収入計約5,000万円にて賄った。全理事が国内外に働きかけ成し遂げた、日本女医会史上最大級のイベントだったと言える。

2003
平成15年

この年のノーベル生理学・医学賞

P Lauterbur［米］、P Mansfield［英］／ MRI の発明に貢献

日本女医会年表

2.17～25　日本・中東女性交流事業を東京及び名古屋にて開催

3.2　第3回「十代の性と健康」指導医養成講座（栃木・宇都宮市役所大会議室）参加者186名

5.17　第48回日本女医会定時総会（東京・京王プラザホテル）出席者111名。役員改選にて橋本葉子会長が再任

特別講演「皇室継承の伝統文化について―雅楽の歴史」木村雅宥（宮内庁式武官）

9.21　第4回「十代の性と健康」指導医養成講座（横浜市）参加者100名

10.19　第5回「十代の性と健康」指導医養成講座（北海道・札幌医大記念ホール）参加者100名

11.9　第6回「十代の性と健康」指導医養成講座（岩手県医師会館）参加者198名

11.9　第7回　ブロック別懇談会（岩手・そば会席「東や」）出席者22名

12.7　第7回「十代の性と健康」指導医養成講座（岡山・ピューリティまきび）参加者124名

12.12　日本女医会名簿を発行

この年の主な出来事

春～　新型肺炎（SARS）中国などで大流行

3.20　米英軍イラク攻撃

3.23　アニメ「千と千尋の神隠し」が米アカデミー賞受賞

4.1　6歳以上69歳までの国民健康保険自己負担割合が2割から3割に

5.9　小惑星探査機「はやぶさ」打ち上げ（2010年6月13日地球に帰還）

5.23　個人情報保護法成立

8.25　住民基本台帳ネットワークシステムの稼働

12.1　地上デジタルテレビ放送東京・大阪・名古屋で開始

「十代の性と健康」の支援事業

2001年厚生労働省は「健やか親子21」と題して21世紀の母子保健の取り組みを提示し、それぞれの課題についての目標を設定して関係者、関係機関、団体が一体となって推進する行動計画を立てた。2001年4月に母子保健、児童福祉、学校保健、産業保健などの関係者、機関等の役割を明確にして、その計画促進のための統括的組織「健やか親子21推進協議会」が発足した。

この計画の主要課題の1つに「思春期の保健対策の強化と健康教育の推進」が挙げられ、この趣旨に賛同した日本女医会は、「性と健康を考える女性専門家の会」と協力して女性医師による十代の性と健康支援事業として「十代の性と健康の指導医養成講座」を社会福祉・医療事業団（現・独立行政法人福祉医療機構）の「子育て支援基金」から3年間の助成金を得て、また2002年より2004年度まで100周年事業基金より予算を得て開催した。

第1回は2001年10月28日、女性と仕事の未来館（東京）で開催した。

情報編として

- 「我が国の青少年の性の実態について」（小田洋美、家坂清子）
- 「性と健康に関する科学的知識」（早乙女智子）

戦略編として

- 「先進的な取り組み」（剱洋子）
- 「小学校低学年からの取り組み」（庄子晶子）
- 「パネルディスカッション」（櫻井馨、高橋裕子、桑島昭文）

を行い、活発な意見交換があった。また、一般対象向けに「性について学びそこねた大人たちへ」公開講演会を開催した。

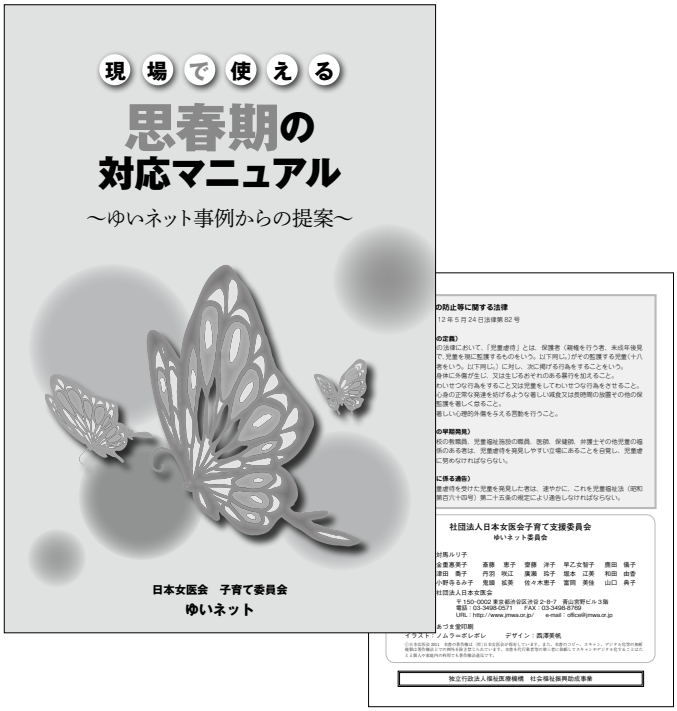
参加者は、女医会会員のみならず男性医師、保健師、養護教員など、150名と盛況で、以後も継続して以下のとおり開催した。

第2回　2002年10月6日　東京・主婦会館
第3回～第7回　2003年日本女医会年表に前掲
第8回　2004年1月25日　長野県文化会館
第9回　2005年1月16日　東京・女性と仕事の未来館
第10回　2007年3月25日　東京・京王プラザホテル

2008年からは、再び独立行政法人福祉医療機構の「子育て支援基金」より助成を受け、第2期事業として、「十代の性と健康支援ネットワーク作り事業」通称「ゆいネット」を企画し、札幌、盛岡、名古屋、岡山の4地区をモデル地区として事業を進めた。講演会、相談会、協議会などに、医療系大学、医師、学校、教育委員会、行政、警察、刑務所、児童相談所など、関連する幅広い領域から参加者があり、各地区で独自に発展していった。2011年度第3回理事会で、今後の日本女医会事業としては年1回のシンポジウム（講演会）を行い、各地の「ゆいネット」活動はそれぞれの自主活動に委ねることとなった。

一連の事業は、当初は「子育て支援委員会」が担い、2008年頃より「ゆいネット」の呼称が定着し、その後は正式に「十代の性と健康支援ネットワーク（ゆいネット）委員会」として活動していたが、2019年度からは「女性の健康支援委員会」に名称及び対象を変更して市民公開講演会を開催している。

なお、「十代の性と健康」は2008年以降「十代の性の健康」と表記が変更されている。



2011年 日本女医会発行の冊子「思春期の対応マニュアル」

講師の松本俊彦先生

2019年 ゆいネット講演会

2004
平成16年

この年のノーベル生理学・医学賞

Linda B. Buck［米］、Richard Axel［米］／匂いの受容体遺伝子の発見と嗅覚システムの分子メカニズムの解明

日本女医会年表

1.17　日本女医会学術講演会「日常診療に於けるリスクマネージメントのポイント」梅澤昭子（東京・京王プラザホテル）

1.25　第8回「十代の性と健康」指導者養成講座（長野県文化会館）参加者226名

5.15　第49回日本女医会定時総会（青森・ホテル青森）出席者88名
特別講演会「光老化最前線」花田勝美（弘前大学医学部皮膚科教授）

6.–　月刊誌「ゆうゆう糖尿病」が赤字がかさみ終刊となる

7.28〜8.1　第26回国際女医会議（東京・京王プラザホテル）

この年の主な出来事

3.30　厚生労働省が「働く女性が十分に能力を発揮できる社会の実現」を女性労働白書にまとめる

4.1　医師の卒後研修が義務化

5.22　北朝鮮拉致被害者の蓮池、地村、曾我さんの家族帰国

7.16　性同一性障害特例法が施行される

8.13　アテネオリンピック・パラリンピック開催

10.23　新潟県中越地震発災（M6.8）死者68人。新幹線史上初めて営業運転中に脱線（上越新幹線）

10.31　イラクで自衛隊の撤退を求めた聖戦アル＝カイーダ組織に拉致された香田証生さんが遺体で発見

11.19　厚生労働省は「痴呆」の呼称を「認知症」へ変更

12.9　イラク復興支援特措法に基づいたサマワへの自衛隊派遣1年延長決定

大成功をおさめた第26回国際女医会議

7月27日　京王プラザホテル44階「ハーモニー」にて、前夜祭が開催され、約200名の女性医師が出席した。ナイジェリア、ガーナ、ケニア、ウガンダなどのアフリカ諸国の先生方をはじめ、アメリカ、カナダ、オーストラリアの先生方も多数出席、さらにラオス、ウクライナ、ウズベキスタン、ブラジルなどからの参加もあった。また、国際女医会（MWIA）正式加盟国ではなかった中国の女性医師24名が、複雑な手続きを踏んで特別参加した。

7月28日〜8月1日　観測史上最高の気温が続く酷暑の中、東京の京王プラザホテルにて第26回国際女医会議が開催された。国際女医会会長はShelley Ross、テーマはMedicine in a New Life Styleであった。日本においては、28年ぶり2度目の開催となった。国内から233名、海外からは30カ国287名の合計520名（85名の同伴者を含む）が出席した。

7月28日　開会式は、京王プラザホテル・エミネンスホールに於いて、二村英仁氏によるバイオリンコンサートの音色から始まった。続いて、日本女医会の存在を象徴するかのように、日本人初の元国連難民高等弁務官緒方貞子氏による「人間の安全保障と保健医療」と題する基調講演が行われた。続いてShelley Ross国際女医会会長、小泉総理大臣（祝辞は、橋本葉子が代読）、坂口力厚生労働大臣、大塚俊郎東京都副知事、植松治雄日本医師会会長から祝辞をいただいた。

会場を移動してのオープニングレセプションパーティーは、皇后陛下（現上皇后美智子様）にご臨席賜り、500人以上の出席者を集め開催された。橋本会長の挨拶の後、歓談となり、来賓の方々、山崎倫子日本女医会名誉会長などの挨拶があった。皇后陛下は気品に満ちた和服姿で、来賓をはじめ大勢の参加者一人一人とお言葉を交わされた。皇后陛下のご臨席は、日本女医会百周年記念式典についで2度目、非常に光栄な事であった。

7月29日　1日目の学術講演会は、日本から大森安恵「女性と糖尿病」、その他ランチョンレクチャーは「子宮がんの画像について」、「関節リウマチの最近の

薬物治療」、「痴呆の最前線」などであった。

その夜、目白・椿山荘で、ガーデンパーティーが開かれた。参加予定人数250人が100人以上増え、雨上がりの日本庭園を、それぞれ楽しんだ。

7月30日　2日目の学術講演会は、日本から中村佳代子・齋藤加代子「遺伝子診断と治療」の演題で講演が行われ、その他ランチョンレクチャーは「国際的な感染症に対する対処法」、「片頭痛の最前線」、「乳癌の画像診断」などであった。

午後は国立成育医療センター、東京女子医科大学総合外来センター、聖路加国際病院、ゆうあいクリニック、ホスピア三軒茶屋などへの見学ツアーが行われた。

7月31日　最後の学術講演会、日本から津田喬子「女性と医学」、「思春期の性」、ランチョンレクチャーは「ヘルスプロフェッショナルとしての私の新しいフィールド、―アフガン難民との日々―」、「高血圧症

最新の治療戦略」、「孤立性肺結節・高解像度CTを用いた悪性の可能性」などであった。さらに、ジェンダーワークショップが開催され、日本からは、荒木葉子がコーディネーターを担当し討論を行った。

夜は第26回国際女医会議フィナーレ、ガラパーティーが、京王プラザホテル4階コンコードルームABCで、開かれた。始めは、東京都支部連合会提供によるホリ・ヒロシ氏による、源氏物語「夕顔の巻」の人形劇、そして、ディナーショー、最後に瀧本泰史氏によるシンセサイザーの演奏で盛り上がり終了した。

8月1日　閉会式が行われ5日間における国際女医会議は、幕を閉じた。

今回の会議で特筆すべきことは、組織委員会の事務局長を務めた平敷淳子ナショナルコーディネーター（NC）が、2007年～2010年までの国際女医会会長に選出された事である。日本からの国際女医会会長は第15回国際女医会議開催時に会長を務めた小野春生に次いで2人目となった。

また、東京女子医科大学の茶道部と華道部に協力頂き、開催期間の3日間、お手前や生け花の実演をお願いした。これは、学生にとって外国の女性医師と直接会話ができる経験となり、外国からの参加者にとっても日本文化の一端を知って頂ける、とても良いふれあいの場となった。

華やかに終わった国際女医会議であったが、何よりも苦慮したのは、財源の確保であった。想定予算は約6,000万円に対し、当時の会費収入は、2,000万円にも届かない状況であった。薬剤・医療機器メーカー、その他一般の方々のたくさんの御支援・御協賛を頂いた。更に、多くの女医会会員の寄付によって、この国際女医会議が大成功に導かれたと言える。

会場に到着し、橋本会長にお声をかけられる皇后陛下

故平敷淳子国際女医会会長（2007～2010）と役員の皆さん

2005
平成17年

この年のノーベル生理学・医学賞

Barry Marshall［豪］、Robin Warren［豪］／ヘリコバクター・ピロリおよびその胃炎や胃潰瘍における役割の発見

日本女医会年表

1.16　第9回「十代の性と健康」指導者養成講座（東京・女性と仕事の未来館）参加者約100名
2.12〜20　第15回中東女性交流会（東京・津田塾大学同窓会会議室）
2.20　働く女性のための育児環境整備支援事業研修会「病児保育の現状と展望」（東京・未来館ホール）参加者150名以上
3.6　第8回ブロック別懇談会（京都）出席者22名
5.21　第50回日本女医会定時総会（愛知・ウェスティンナゴヤキャッスル）出席者124名
講演会「日本人の心」平岩弓枝（作家）
10.22　学術講演会「睡眠治療の重要性」 伊藤洋（東京慈恵会医科大学　精神医学講座）参加者39名
11.10〜12　第8回国際女医会西太平洋地域会議（フィリピン・マニラ）出席者7名
11.13　働く女性のための育児環境整備支援ワークショップ「病児保育を考える」（大阪府医師協同組合新本館ビル8階大ホール）出席者194名
11.19　第9回ブロック別懇談会（群馬・マーキュリーホテル）出席者28名

この年の主な出来事

1.10　広島県の特別養護老人ホームでノロウイルス集団感染。7人死亡。この後全国でも発生
3.25　「愛・地球博」が愛知県で開催
4.25　JR福知山線脱線事故、107人死亡
6.19　18歳選挙権施行
7.30　日本医師会第1回男女共同参画フォーラムを日本医師会大講堂にて開催
10.14　郵政民営化法成立

第8回 国際女医会西太平洋地域会議

11月10〜12日　第8回国際女医会西太平洋地域会議が、Golden Health Care Towards The “Silvering” Yearsのテーマでフィリピンのマニラにて開催された。この西太平洋地域会議は国際女医会の西太平洋地域に参加している6か国が3年毎に順番で開催するものである。今回はフィリピン女医会の講演会、定時総会を兼ねており、韓国から12名、日本から7名、台湾から2名、オーストラリアから2名の出席があった。

初日午前は胎児や子どもの健康と将来の疾患について、午後は糖尿病などの生活習慣病に関すること、2日目午前は感染症予防とストレスマネージメント、午後は高齢化社会に向けての対策について30分〜1時間のプレナリー講演形式であった。各国の状況が興味深いとの報告であった。また、参加者からは、マニラでの街並みの様子やストリートチルドレンについての報告もありフィリピンの2極化の様子がうかがわれた。

国際女医会会長Gabrielle Casperはリーダーとしての6つのC：Care、Character、Conviction、Composure、Competition、Courage、とともに7つ目のCであるCommunicationが加わることによって人がさらに豊かになり、Communicationこそが今後の国際会議では最も必要とされる要素となるであろうと話された。また、参加理事から、国情は違っても女性医師として取り組むことが世界平和に向けた国を超えての協力につながるとの報告があった。

2006
平成18年

この年のノーベル生理学・医学賞

Andrew Z.Fire［米］、Craig C.Mello［米］／2本鎖RNAによる遺伝子発現抑制現象RNA interference（RNAi）の発見

日本女医会年表

1.22　働く女性のための育児環境整備支援事業公開シンポジウム「病児保育の未来へ向けて」（東京・女性と仕事の未来館）参加者135名。当事業は平成16年より独立行政法人福祉医療機構からの助成を受け活動、当シンポジウムは2年間の集大成として企画され、同機構より特に優れた事業と認められた

2.3　埼玉県で制定された第1回「さいたま輝き荻野吟子賞」を個人の部で平敷淳子理事が受賞

3.25　独立法人福祉医療機構「子育て支援基金」へ申請した「21世紀の子どものために小児救急医療の整備と提言」と、「長寿社会福祉基金」へ申請した「たんの吸引を安全に実施するための教育講習事業」の内定があり、それぞれ新たに、子育て支援委員会「21世紀の子どものために小児救急医療の整備と提言事業委員会」と、「長寿社会福祉委員会」を立ち上げる

4.28　猪口邦子少子化・男女共同参画担当内閣府特命大臣と面談し、「女性医師環境整備事業に対する要望書」を提出

5.20　定時評議員会（東京・京王プラザホテル）

5.20　第51回日本女医会定時総会（東京・京王プラザホテル）出席数97名。役員改選にて小田泰子が新会長に選出される
特別講演「お医者さまと私の舞台」中村富十郎（人間国宝）

6.28　内閣府男女共同参画局主催「男女共同参画担当大臣との懇談会」に松井理事が出席

9.30　第1回「たんの吸引」を安全に行うための講習会（東京・ホスピア三軒茶屋）

この年の主な出来事

1.11　薬害C型肝炎・原告と国が和解

2.10　石綿被害救済法が成立

2.23　トリノ冬季オリンピック・パラリンピック開催
荒川静香が日本フィギュアスケート初の金メダル獲得。「イナバウアー」は流行語大賞に

3.20　外務省は非接触型ICチップ内蔵の新型パスポート「IC旅券」を導入

5.27　インドネシア・ジャワ島中部でM6.3の大地震発生し、約6,000人死亡

7.15～24　平成18年7月豪雨発生。南九州地方、山陰地方、北陸地方、長野県等が被災。死者32人

10.9　北朝鮮が初の地下核実験を実施

10.28　自殺対策基本法が施行（内閣府の特別の機関として自殺総合対策会議が設置される）

11.16　国内で36年ぶりに「狂犬病」による死者が発生

11.21　スイスに本部を置く民間団体「世界経済フォーラム」が初めてジェンダーギャップ指数（GGGI）を報告。日本は115カ国中80位

12.15　防衛庁の防衛省への昇格法案が可決

ジェンダーギャップ指数（The Global Gender Gap Index：GGGI）

男女格差の度合いを示す指数で、この数値を公表している世界経済フォーラムは、男女格差の無い社会がより社会を発展させるとの認識から、男女格差（ジェンダーギャップ）の解消を目指して、(1) 男女格差を測定する指標を設定し、(2) それぞれの格差を示す数値を出してこれを基に、(3) 国別に順位をつける方式を開発した。指数は政治、経済、教育、健康の4つの分野を対象としており、2006年以降「ジェンダーギャップ指数（GGGI）」として毎年その数値を公表している。

日本は集計が始まった2006年は115カ国中80位で、G7では最下位であった。その順位は年々低下してきており、特に政治と経済の分野で順位が低いことが問題となっている。

日本のジェンダーギャップ指数順位の推移

年	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	21	22
調査国数	115	128	130	134	134	135	135	136	142	145	144	144	149	153	156	146
総合順位	80	91	98	101	94	98	101	105	104	101	111	114	110	121	120	116

子育て支援委員会「21 世紀の子どものために小児救急医療の整備と提言事業委員会」立ち上げ～「どうしよう子どもの救急」発刊

3 月 25 日　小児救急事業の拡充のために日本女医会として独立行政法人福祉医療機構「子育て支援基金」へ公募し、「21 世紀の子どものために小児救急医療の整備と提言事業」が採択され、助成金（約 1,000 万円）が交付された。「21 世紀の子どものために小児救急医療の整備と提言事業・委員会」を設立し、委員長として元副会長の石原幸子が指揮をとられ、当時の日本女医会の役員として活躍されていた小児科医の鹿田儀子、森川由紀子、山崎トヨが委員となり保護者向けに子どもの救急に対する冊子を作成する計画が立てられた。臨床経験の豊富な前神奈川支部長の山崎康子、元埼玉支部長の村田郁、保育園の小林ふみ子園長や保育士の神保直美さんも参加された。東京女子医科大学東医療センター小児科から日本女医会員である伊藤けい子と大谷智子も参加し、総勢 10 名の作成委員会を設けた。開業されているベテランの小児科医師である諸先生と実際の臨床現場で保護者が訴える救急項目を選び、対応策を理解しやすいようにイラストを交えて議論を重ね、待望の冊子『どうしよう子どもの救急』は 2007 年 3 月に完成した。日本女医会の刊行物として発刊し年月を経ているにも関わらず役立つ冊子として 12,000 部以上を販売し、現在も受注を頂いている。さらに 2012 年には当時の理事であり現神奈川支部長の小関温子の尽力にて英語版の完成に至った。この英語版は、2013 年 4 月の韓国で開催された国際女医会でも紹介された。その後、CD 版も制作し、保育園や地域での保健指導にも用いられている。

なお、当委員会は、2012 年 6 月より「小児救急事業委員会」に名称が変更された。

第 1 回「たんの吸引」を安全に行うための講習会（長寿社会福祉委員会）

9 月 30 日　独立行政法人福祉医療機構「長寿社会福祉基金」より助成を受け立ち上げた「長寿社会福祉委員会」による事業であり、第一回目の講習会は大坪公子委員長のもと、ホスピス三軒茶屋において午後 1 時 30 分より約 4 時間かけて開催した。受講者は 48 名であった。この事業の目的は、家族介護者、一般、医療関係者、ヘルパーを対象とし、介護者が「たんの吸引」を安全に行うことを目的にしている。初めての講習会のため、ビデオ講習でスタートした後、講義形式で、1：吸引の必要な病気・病態、2：吸引に必要な解剖学的知識と手技について、3：吸引を行うことの法的解釈等々介護施設での現状及び在宅介護における現状も含めて現場における課題そして感染防止のための手洗い…と各専門の講師の方々からお話を頂き、その後、各グループに分かれ、手洗いの実技練習後に、二人一組での、吸引の実技に移った。吸引の人形モデルを使い直接器具を手に取りながら、まさしく、「百聞は一見にしかず」で大変有効な講習会となった。この事業は看護師、薬剤師の方からの要望も多くその後、東京で 2 回、名古屋、仙台、大阪、山形、宇都宮、盛岡、八千代と各地で展開され、多くの参加者からは好評で、地域に密着した講習会に結び付いており、事業の目的を達成したと考えられる。なお、開催終了後には外部評価委員にて事業に関する認証を受けている。

2007
平成19年

この年のノーベル生理学・医学賞

Mario Capecchi［米］、Oliver Smithies［米］、Martin Evans［英］ ／特定の遺伝子の機能を失わせた『ノックアウトマウス』の作成に成功

日本女医会年表

2.4 第3回「たんの吸引を安全に実施するための講習会」（東京・練馬区役所）参加者92名

2.5 外務省「第19回日本・中東女性交流一行歓迎レセプション」に大坪公子理事が出席

3.25 第10回「十代の性と健康」指導者養成講座（東京・京王プラザホテル）参加者88名

3.30 佐藤千代子第6代元日本女医会会長ご逝去（享年79歳）

4.22 第10回ブロック別懇談会（三重・ホテルグリーンパーク津）出席者28名

5.19 定時評議員会（神奈川・パシフィコ横浜会議センター）

5.19 第52回定時総会（神奈川・パシフィコ横浜会議センター）出席数116名
特別講演「優しさ・確かさ・美しさ　総合愛情産業としての医療をめざして」田中康夫（作家・長野県知事）

6.23 第1回女性医師支援委員会を理事会終了後に開催

6.24 佐藤千代子先生を偲ぶ会（愛知・ウェスティンナゴヤキャッスルホテル）

7.14 第5回「たんの吸引を安全に実施するための講習会」（宮城・仙台市医師会館）参加者79名

7.31～8.4 第27回国際女医会議（ガーナ・アクラ、The La Palm Beach Hotel）テーマは「Women in the World of Medicine」。最終日の総会で平敷淳子理事が国際女医会会長に選出される

9.29 「子育て委員会」を佐賀市にて開催

9.30 第6回「たんの吸引」を安全に行うための講習会（大阪市）

10.13 国連NGO国内婦人委員会創立50周年記念シンポジウムに荒木葉子理事が出席

10.14 第7回「たんの吸引を安全に行うための講習会（寒河江市）報告

11.10 第1回軽井沢セミナー（長野・鹿島の森ホテル）参加者10数名

11.25 第8回「たんの吸引を安全に行うための講習会（宇都宮市）

12.9 第1回「医学を志す女性のためのキャリアデザインセミナー＝ペーパードクターにならないで＝」（東京・女性と仕事の未来館）参加者93名

この年の主な出来事

1.-～ 「不二家」、老舗「赤福」、「船場吉兆」などで食品偽装が相次ぎ発覚

2.16 年金記録未統合5,000万件が判明

3.27 東京女子医科大学の心臓手術で起こった医療事故（2001年3月）で人工心肺の操作をしていた医師に無罪判決

4.-～ 10～20代を中心に「成人麻疹（15歳以上）」の集団感染

7.16 新潟県中越沖地震発災（M6.8）死者11人、建物の全壊約1,200棟

7.29 参院選で自民党が歴史的惨敗、民主党が第1党に

9.26 安倍晋三首相の突然の辞任により福田康夫氏が第91代首相に就任

10.1 郵政民営化関連法により民営化実現

11.1 テロ対策特別措置法が期限切れとなり、インド洋上で給油活動をしていた海上自衛隊の部隊が撤収、6年間にわたる活動が中断した

11.20 京都大学の山中伸弥教授が人工多能性幹細胞（iPS細胞）の作成に成功と発表

女性医師支援委員会とキャリアデザインセミナー

6月23日 女子医学生および若手女性医師の育成・支援を目的に女性医師支援委員会を立ち上げ、12月9日に第1回医学を志す女性のためのキャリアデザインセミナー「ペーパードクターにならないで」を東京・女性と仕事の未来館で開催した。第1回のセミナーは内閣府「平成19年度チャレンジキャンペーン～女性高校生・学生の理工系分野への選択」関連行事と認められ、公的資金にて開催した。参加者は中学生から社会人まで年齢も多岐にわたり、総参加者数は女医会役員等を含め93名であった。2009年から

は「医学を志す女性のためのキャリア・シンポジウム」と名称変更した。また、202030※に向けたポジティブ・アクションの加速など、男女共同参画の機運が高まってきたことを踏まえて、2012年から女性支援委員会を男女共同参画委員会に名称を変更した。年1回シンポジウムを開催してきたが、2019年は台風19号が関東を直撃したため開催を中止した。2020年からはCOVID-19パンデミックの影響で対面開催が困難になり、講演とディスカッションを事前収録して、オンラインで配信している。本事業は2007年の開催から現在に至るまで、日本医師会男女共同参画事業よりの後援を受けている。

※202030：社会のあらゆる分野において、2020年までに、指導的地位に女性が占める割合が、少なくとも30％程度になるよう期待する」という目標（平成15年6月20日男女共同参画推進本部決定、『2020年30％』の目標）。しかし、2015年12月、第4次男女共同参画基本計画において、目標を15％にすると下方修正をし、事実上、202030の達成を断念した。2020年12月、第5次男女共同参画基本計画において、2020年代の可能な限り早期に指導的地位に占める女性の割合が30％程度となるよう目指すとし、203030を定めた。

軽井沢セミナー

60ページに一覧

11月10日 「軽井沢セミナー」は、2007年7月、元日本女医会副会長の石原幸子の提案により、当時の鹿田儀子理事とともに立ち上げられた同好会である。第1回は、2007年11月10日に軽井沢の鹿島の森ホテルにて懇談会が開催され、十数名の参加者により「日本女医会の今後を考える会」の趣旨で活発な意見交換がなされた。

翌年の第2回からは、1日目は講演会（講師は主に会員）と懇親会、翌日はゴルフのラウンド、または軽井沢観光を楽しむというプログラムで、毎年開催してきた。しかし、2019年の第13回を最後に、2020年、2021年は新型コロナウィルス感染拡大により中止している。

本会の運営は、会員有志により、当日参加費と寄付金のみを財源として行われている。美しい秋の軽井沢で、会員の交流と親睦を深めることができる、唯一の貴重な同好会である。

なお、同好会の新設にあたり、規約が制定された。

〈社団法人日本女医会同好会規約〉

第1条（設置）

（社）日本女医会に同好会を設置する。設置には理事会の承認を要する。

同好会の設置と活動報告は総会で行う。

第2条（目的）

（社）日本女医会の会員が相互の親睦を図り、（社）日本女医会の発展・拡大に寄与することを目的とする。

第3条（会員資格）

同好会（以下本会）は、（社）日本女医会の会員（学生会員を含）及びその家族をもって組織する。また、会員の推薦及び理事会での承認により賛助会員を置くことができる。

第4条（事務局）

本会の事務局は（社）日本女医会事務局に置く。ただし、事務、会計処理は同好会会員で行う。

第5条（会計）

本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

本会の経費は、同好会会費及びその他の収入をもって充てる。

〈日本女医会　軽井沢セミナー規約〉

1）本会の名称は「軽井沢セミナー」と称する

2）本会は、年一回、軽井沢に於いて開催する

3）参加資格：日本女医会会員及びその友人・知人・家族、会員の推薦する者であれば参加可能とする

4）目的：会員相互の親睦を図り意見交換をする場として日本女医会の発展に寄与する

5）本会を開催するにあたり、役員数名を設置し開会の準備・施行を行う

6）会費：当日参加費用のみとする

7）本会の事務局は、日本女医会の事務局に委託する

2008
平成20年

この年のノーベル生理学・医学賞

Harald zur Hausen［独］／子宮頸がんを引き起こすヒト・パピローマ・ウイルスの発見
Françoise Barré-Sinoussi［仏］、Luc Montagnier［仏］／ヒト免疫不全ウイルスの発見

日本女医会年表

1.20　第9回「たんの吸引」を安全に実施するための教育講習会（盛岡市）

2.19　第10回「たんの吸引」を安全に実施するための教育講習会（八千代市）

3.2　学術講演会「認知症を考える」（愛知県医師会館）参加者83名

5.18　第53回日本女医会定時総会（東京・京王プラザホテル）。出席者115名　会長に小田泰子が再選される
特別講演「現代の忘れもの」渡辺和子（学校法人ノートルダム清心学園理事長シスター）

9.21　第2回「医学を志す女性のためのキャリアデザインセミナー2008―キャリアもライフもピカピカに磨こう―」（東京・女性と仕事の未来館）　参加者74名

10.17～18　第9回国際女医会西太平洋地域会議（オーストラリア・メルボルン）　日本からの出席者13名

10.31～11.7　第23回日本・アラブ女性交流会。小田泰子会長・津田喬子副会長・平敷淳子国際女医会会長がヨルダン・エジプト・シリアを訪問

11.1　**第1回「『在宅高齢者の栄養管理』講習会―経管・胃瘻栄養の実際―」（愛知・名古屋市都市センター大研修室）　受講者78名**

11.8～9　第2回軽井沢セミナー（長野・ホテル鹿島の森）　参加者17名

11.23　第1回「ゆいネット」連絡協議会（北海道札幌市）　出席者25名

11.27　第2回「ゆいネット」協議会（盛岡市）　出席者24名

この年の主な出来事

4.1　後期高齢者医療制度スタート

4.-　百日咳の流行が過去10年で最高に

6.8　秋葉原通り魔事件

8.8　北京オリンピック・パラリンピック開催

9.24　福田康夫首相辞任、麻生太郎氏が第92代首相に就任

10.8　日本人4人（南部陽一郎・益川敏英・小林誠・下山脩）にノーベル賞

10.27　日経平均バブル後最安値の7,162円90銭

「在宅高齢者の栄養管理」講習会―経管・胃瘻栄養の実際―（長寿社会福祉委員会）

長寿社会福祉委員会は、嚥下障害のため経口摂取ができず経管栄養や胃瘻造設を余儀なくされている高齢患者が増加している現状を鑑みて、独立行政法人福祉医療機構からの助成をうけ、2008～09年度にかけて「在宅高齢者（嚥下障害者、胃瘻造設者）の栄養管理事業」の活動を行った。

委員会は、山本纊子委員長（藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院、現ばんたね病院院長、前理事）、秋葉則子理事、松井ひろみ副会長、大坪公子三軒茶屋病院院長、東口高志藤田保健衛生大学病院七栗サナトリウム外科学・緩和ケア教授、向井美恵昭和大学歯学部口腔衛生学－言語・嚥下専門教授で構成された。

事業の目的は、人工的栄養管理を要する在宅患者の家族、ヘルパー、人工的栄養管理未経験の看護師を対象に、栄養管理知識の普及と経管あるいは胃瘻栄養を安全に行うための知識と技術を教育し、高齢者の在宅医療の進展に寄与することであり、講演会と実技指導を行った。

7月4日の委員会において講習会用のDVD・テキストの作製を行い、講習会日程を決定した。11月1日に第1回講習会を名古屋にて開催し、以後、下記のごとく事業を展開した。

第2回　2009年2月7日　東京・持田製薬本社ルークホール　受講者120名

第3回　2009年6月13日　神奈川・崎陽軒ホール　受講者130名

第4回　2009年7月4日　岐阜・じゅうろくプラザ

受講者 86 名
第 5 回　2009 年 8 月 8 日　北海道・札幌医科大学
受講者 60 名
第 6 回　2009 年 11 月 7 日　群馬・サンビュー群馬
受講者 62 名
第 7 回　2010 年 2 月 14 日　富山・富山国際会議場
受講者 101 名

講習会はいずれも予定した募集人数をはるかにこえる多くの参加申し込みがあり、受講者の熱心な受講態度から、日頃行っている医療的ケアに対する介護職の不安と受講意欲の高さが感じられ本教育講習の必要性、重要性が明確になった。高齢者の増加に伴い、厚労省が 2009 年より介護職の医療ケア 11 項目を条件付きで医行為外と認定したことにより、介護職の責任、精神的負担が非常に増強している現状に対し、日本女医会長寿社会福祉委員会は、利用者、介護職が共に安心・安全な医療・福祉の確立を目指して本講習会を行った。受講者の満足度は高く大きな成果があった。

また、高齢者の栄養管理は、生命維持のみではなく嚥下機能低下による誤嚥性肺炎の予防に大きくかかわる問題であり、この事業は単に身体的な管理に終始することなく介護を担う家族やヘルパーに終末期の諸問題を考える機会になることが期待された。

2006 年度より外部機関からの助成金を受けて講習会事業を展開してきた長寿社会福祉委員会であったが、2010 年度から助成金を取得できず、2012 年度から日本女医会の自己資金より予算を組み、年 1 回の市民公開講演会を開催している。第 1 回の長寿社会福祉講演会は、2013 年 2 月 9 日に「高齢者医療を考える―急性期から在宅医療まで」と題し、東京・主婦会館プラザエフにて開催された。

長寿社会福祉委員会事業「在宅高齢者医療の栄養管理」講習会

2009
平成21年

この年のノーベル生理学・医学賞

Elizabeth H. Blackburn［米］、Carol W. Greide［米］、Jack W. Szostak［米］／寿命のカギを握るテロメアとテロメラーゼ酵素の仕組みを発見 がん治療薬の開発につながる

日本女医会年表

1.22 「ゆいネット」連絡協議会（愛知県医師会情報研究室）参加者28名

1.28〜2.4 第23回日本・アラブ女性交流事業。ヨルダン代表、エジプト代表各1名を迎え、連日外務省他表敬訪問、ねむの木学園見学、吉岡彌生記念館見学、高円宮妃表敬訪問、聖路加国際病院見学、東京女子医科大学病院見学等を行い、数回の各種歓迎会を開催した。メインは2月1日の公開フォーラム／学術講演会「リーダーシップの達成とその成果」（東京・女性と仕事の未来館）参加者122名

2.4 「ゆいネット」連絡協議会（岡山中央病院2階セミナー室）22名参加

2.7 第2回「在宅高齢者（嚥下障害者、胃瘻造設者）の栄養管理講習会」（東京・持田製薬本社ルークホール）

3.1 第11回ブロック別懇談会（奈良）出席者24名

5.17 第54回日本女医会定時総会（大阪・ホテルグランヴィア大阪） 出席者120名
講演会Ⅰ「Professionalismから考えるleadership」平敷淳子（国際女医会会長・埼玉医大名誉教授）
講演会Ⅱ『「まさかの坂」をこえて―多くの人との出会い―』水田祥代（九州大学理事・副学長）

6.13 第3回「在宅高齢者の栄養管理」講習会（神奈川・崎陽軒ホール） 参加者130名

6.24 「ゆいネット」第2回連絡協議会（北海道札幌市）

6.26 内閣府・男女共同参画局主催による「平成21年度男女共同参画社会づくりに向けての全国会議」にポスターを出展

7.4 第4回「在宅高齢者の栄養管理」講習会（岐阜・じゅうろくプラザ） 参加者86名

7.23 「ゆいネット」連絡協議会（岩手県民会館）

7.26 第1回日本女医会医学生chat roomを開催 学生8名、女医会3名が参加

8.8 第5回「在宅高齢者の栄養管理」講習会（北海道札幌市） 参加者60名

8.10 「あなたらしいキャリアを創ろう〜日本女医会からのメッセージ」を出版。執筆者24名中23名が日本女医会会員。真興交易医書出版部発行2,400円

9.6 第12回ブロック懇談会（福島）出席者28名

9.24 「ゆいネット」連絡協議会（北海道札幌市）

10.18 第2回「JMWA chat room」（日本女医会会議室）学生9名、女医3名、理事2名

10.24 東京女子医科大学の学園祭に日本女医会のポスター2枚展示

10.25 第3回医学を志す女性のためのキャリア・シンポジウム「女性が働き続けられる環境の実現に向けて」（東京・女性と仕事の未来館） 参加者92名
日本女医会誌が1958年の復刊より第200号を迎えた

10.31 第3回軽井沢セミナー（長野・軽井沢プリンスホテル） 参加者38名

11.7 第6回「在宅高齢者の栄養管理」講習会（群馬・介護老人施設「サンビューぐんま」）参加者90名

11.7 「ゆいネット」委員会（岡山・岡山中央病院）

11.13 「平成天皇陛下即位20年記念茶会」に小田泰子会長が招待を受け出席

11.15 第13回ブロック懇談会（兵庫県医師会館）出席者15名

12.7 長濱博行厚生労働副大臣に面会し「女性のための労働・保育・教育・環境の整備に関する要望書」を提出

この年の主な出来事

1.– 豚由来新型インフルエンザウイルスA（H1N1）のヒトへの感染が世界的に流行

3.10 日経平均株価終値がバブル崩壊後最安値を更新

3.27 2001年に起きた東京女子医科大学の人工心肺装置事故で操作担当医師に無罪判決

4.28 WHOが新型インフルエンザのパンデミックフェーズ4を宣言、日本は水際対策として降機前に乗客に機内検疫を開始、政府は「新型インフルエンザ対策本部」を設置し「基本的対処方針」を決定

5.9 新型インフルエンザの感染が初めて成田空港での検疫で3人に確認された。2010年3月までに国内での感染者約2,100万人、死亡者数198人

5.21 裁判員制度導入

6.12 WHOが新型インフルエンザH1N1のパンデミックフェーズ6を宣言し、世界的流行が顕著となった

6.25 人類史上最も成功したエンターティナーであるマイケル・ジャクソン死亡

8.30 衆院選総選挙で民主党が圧勝、民主党政権誕生。鳩山由紀夫氏が第93代首相に就任

10.9 オバマ米大統領がノーベル平和賞を受賞

2010
平成22年

この年のノーベル生理学・医学賞

Robert G. Edwards［英］／ヒトの体外受精技術の開発

日本女医会年表

1.17　第14回ブロック懇談会（石川県医師会館）出席者33名
2.14　第7回「在宅高齢者の栄養管理」講習会（富山国際会議場）参加者130名
3.7　「ゆいネット」報告会・セミナー（東京・持田製薬本社ルークホール）参加者10名
5.15　第55回定時評議員会（東京・京王プラザホテル）
5.16　第55回日本女医会定時総会（東京・京王プラザホテル）出席者104名。第3号議案　公益法人への移行については活発な質疑応答が行われた結果、承認可決された。役員改選が行われ、津田喬子が新会長に選任される
特別講演会「いのちに寄り添う―死生学の立場から―」藤井美和（関西学院大学死生学・スピリチュアリティ研究センター教授）
5.24　「ゆいネット」連絡協議会（北海道札幌市）
7.25　「ゆいネット」連絡協議会（岡山市）
7.28～7.31　**第28回国際女医会議（ドイツ・ミュンスター）**
9.2　「公益社団法人移行認定申請書」を内閣府公益認定委員会に提出
10.23　「ゆいネット」連絡協議会（岐阜市）
10.30　第4回軽井沢セミナー（長野・軽井沢プリンスホテル）
11.21　「ゆいネット」連絡協議会（名古屋市）
11.28　「ゆいネット」連絡協議会（盛岡市）
12.4　「ゆいネット」連絡協議会（土浦市）
12.5　第4回医学を志す女性のためのキャリア・シンポジウム「世界に羽ばたく日本の女性医師達！」（東京・女性と仕事の未来館）
12.21　三神美和第4代元日本女医会会長ご逝去（享年106歳）

この年の主な出来事

1.19　日本航空が会社更生法申請、負債総額は過去最大
2.12　バンクーバー冬季オリンピック・パラリンピック開催
3.-　新型インフルエンザワクチン大量余剰
4.-　診療報酬改定で勤務医の負担軽減を重点課題、患者への原則明細書発行推進
6.4　鳩山由紀夫首相が退任、菅直人氏が第94代首相に就任
7.17　改正臓器移植法が全面施行され、家族の同意による脳死下の臓器提供が可能に
10.1　たばこ税大幅増税、「禁煙外来」に注目高まる
12.-　ハイチでコレラ流行
12.30　外国為替市場では、年平均の円相場が1ドル87円75銭に上昇、変動制移行後初の80円台に

第28回 国際女医会議

7月28～31日　第28回国際女医会議はドイツのミュンスターで開催された。メインテーマはGlobalisation in Medicine―Challenges and Opportunities.で、公募演題のテーマは（1)性に関すること（2)嗜癖（3)感染症（4)栄養、ライフスタイルと疾患であった。日本からは、日本女医会理事10名を含む27名（医師18名・学生3名・同伴者6名）が参加した。

28日の開会式は、平敷淳子国際女医会会長の開会宣言で幕を開けた。万国旗が並べられた壇上には、平敷会長を中央に国際女医会の理事の方々が座られ、ドイツの厚生労働大臣の祝電、ドイツ医師会会長の挨拶、ヴェストファーレン地域医師会長の挨拶などが、クラシック音楽の生演奏とともに繰り広げられた。開会式に続いて基調講演が行われ、総口演題数98題、ポスター演題56題（うち学生部門14題）ある中で、日本からは、口演8題、ポスター5題（うち学生3題）の発表があった。学生の発表で優秀賞取得という快挙もなし得た。

夕刻に開催されたガラディナーでは、各国の参加者が民族衣装に身を包み、日本からの参加者も着物や浴衣を着て出席した。また平敷会長がソーシャルダンスを披露し、喝采を浴びた。

2011
平成23年

この年のノーベル生理学・医学賞

Bruce Beutler［米］、Jules A. Hoffmann［仏］／生物体の器官形成とプログラムされた細胞死に於ける遺伝的解明　自然免疫の活性化に関する発見
Ralph M. Steinman［加］／樹状細胞と、獲得免疫におけるその役割の発見

日本女医会年表

2.20　「ゆいネット委員会」（東京・持田製薬本社ルークホール）参加者100名以上
2.27　第15回ブロック懇談会（岐阜・じゅうろくプラザ）出席者28名
3.12、13　3月11日に発生した東日本大震災を受けてメールによる緊急役員会を開催
3.26　緊急役員会を日本女医会会議室にて開催。3.11東日本大震災に対する義援金の募集を決定
4.16　平成23年度第1回理事会において、東日本大震災を受けて5月26〜29日に東京で開催予定だった第10回国際女医会西太平洋地域会議の中止を決定
5.29　第56回日本女医会定時総会（東京・京王プラザホテル）出席者126名
特別講演会「放射線と日常生活」小野由子（東京女子医科大学画像診断学核医学教授）
総会後の交流会で、中止になった国際女医会西太平洋地域会議で発表予定であった4名の若手医師、医学生による発表が英語にて行われた
8.7　日本女医会臨時総会・評議員会（東京・京王プラザホテル）総会出席者39名、委任者607名、書面評決者444名、合計1,090名にて総会員数1,593名の2/3以上に達したため、審議の結果「定款改正」が承認された
9.4　第5回医学を志す女性のためのキャリア・シンポジウム「各大学における女性医師支援の成果と問題点」（東京・持田製薬本社ルークホール）
10.29　第5回軽井沢セミナー（長野・軽井沢プリンスホテル）参加者21名
11.2　公益社団法人の申請が完了

この年の主な出来事

1.14　菅直人第2次改造内閣が発足
2.6　大相撲八百長問題で65年ぶりに本場所が中止に
3.11　**東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）発災。宮城県沖でM9.0の地震と津波が発生。東京電力福島第一原子力発電所で原子炉4基がメルトダウン**
4.22　日本医師会など医療関係7団体が被災地支援の協議会を発足
4.27　生肉食で病原性大腸菌「O111」による集団食中毒が発生。死者4人。以来、生肉食が禁止に
4.29　震災で甚大な被害を受けた東北新幹線が全線運転再開
5.-　加水分解コムギ末を含有する「茶のしずく石鹸」による小麦アレルギー多発。同石鹸の自主回収決定
7.17　なでしこジャパンがサッカー女子ワールドカップで初優勝
9.2　菅直人首相が退任、第95代首相に野田佳彦氏が就任
10.31　歴史的な円高になる。1ドル75円32銭
11.27　大阪府と大阪市長ダブル選挙で橋下徹大阪府知事が任期半ばに大阪市長に鞍替え立候補当選し、大阪維新の会の大ブームが到来する

東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）関連の出来事

3月11日　14時46分、東北地方太平洋沖地震が発生。3つの震源断層面が次々に破壊された結果、マグニチュード9.0という日本国内の観測史上最大かつ、世界で4番目に巨大な地震が発生した。最大震度7を宮城県栗原市で観測し、高さ10m以上の津波が岩手県・宮城県・福島県を中心として太平洋沿岸地方に甚大な被害をもたらした。死者行方不明者は2万人以上となり戦後最大の自然災害となった。

東京電力福島第一原子力発電所において、東北地方太平洋沖地震による強い揺れや津波により、全電源喪失が起こり1号機から4号機の燃料プールの破壊や原子炉のメルトダウン（後にメルトダウン・メルトスルー）が起こり、人類史上最大の原子炉4機が破損されるという原発事故に発展、放射性物質が拡散し周辺住民が長期に渡り避難する事態となった。福島第一・第二原発事故の発生を受けて、後に廃炉決定となった。

3月13日　東京電力は東日本大震災および福島第

一・第二原発事故の発生による電力不足を口実に、輪番停電（通称：計画停電）を実施開始。都心三区を除く東京電力管内の計画停電で、節電が徹底された。

5月14日　静岡県の中部電力浜岡原子力発電所は菅直人内閣総理大臣の要請に従い、運転を中止した。これは横須賀港に停泊する在日米軍海軍による運転停止命令と言われている。

11月30日　福島県の佐藤雄平知事は、福島県内の原子炉10基全部を廃炉にすると発表した。

12月25日　九州電力管内の原発トラブルで九電の稼働原発が31年ぶりにゼロになった。

福島原発事故に起因し世界で原発停止の流れが加速。

5月25日　スイス政府は2034年までに原子力発電所を全廃する方針を閣議決定。

6月6日　ドイツ政府は2022年までの脱原発を閣議決定。

6月13日　イタリアで国民投票による脱原発が決定。

その後、韓国は2017年脱原発を閣議決定。台湾は2017年脱原発を法制化した。

■東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）における日本女医会の活動と義援金について

3月　日本女医会では、震災発生直後の3月12、13日にメールにより、また3月26日に日本女医会会議室において計3回の緊急役員会議を開催、震災対応について協議し、会員の皆様に義援金をお願いすることを決定した。2012年3月末までに総額1,089万円の募金があった。2011年5月より、津田喬子会長が義援金を携えて被災各支部を訪問した。

津田喬子会長の訪問先：5月25日　福島支部（郡山市）、5月26日　宮城支部（仙台市）、岩手支部（盛岡市、釜石市）、5月27日　青森支部（八戸市）、栃木支部（宇都宮市）、6月30日　岩手支部（陸前高田市）。また、7月16日には津田会長等理事3名が千葉支部（浦安市）を、9月3日には山本纊子会長等理事3名と監事1名が福島支部（郡山市）を訪問した。

義援金は、診療所等が被災された会員へのお見舞い金として、また各支部及び本部における次のような事業等に使用された。

〈岩手支部〉

- 陸前高田市の保育施設にピアノ1台を贈呈（2011年6月30日）
- 陸前高田市の保育所に「どうしよう子どもの救急」650冊を贈呈
- 日豪ジュニアプロジェクトに支援金を贈呈（2012、2013、2014年）

〈宮城支部〉

- 放射線事故に対しアンケート調査実施（2011年）
- 公開講演会「福島第一原子力発電所事故と放射線の人体への影響」を開催（2011年11月6日）
- 第6回日本禁煙学会学術総会に寄付金を贈呈（2012年）。日本女医会会員の山本蒔子が大会長を務めた
- 震災関連医学研究者2名に研究助成金を贈呈（2014、2015年）
- 被災地域住民の健康啓発事業として啓発ポスター・チラシを作成（2015年）
- 会員、行政による震災関連研修会を開催（2016年2月18日）

〈福島支部〉

- NPO法人ペップキッズ郡山に屋内遊具購入費を贈呈（2015年9月3日）

〈茨城支部〉

- 大洗町にて市民公開講演会「東日本大震災復興支援講演会」を開催。日本女医会より理事4名及び監事1名が出席（一般参加者100名以上、2015年7月20日）

〈栃木支部〉

- 東日本大震災における日本女医会栃木支部会員・看護師の健康状況調査を実施（日本女医会誌第220号に報告書を掲載）

〈千葉支部〉

- 旭市の重度心身障害児施設と香取市の准看護学校にお見舞い金を贈呈

〈日本女医会本部〉

- NPO法人全国自家用ヘリコプター協議会にMCA無線機4台を贈呈
- 日本女医会事務局にMCA無線機1台を設置
- 日本赤十字社に寄付金を贈呈
- 「3・11甲状腺がん子ども基金」に寄付金を贈呈（2017年6月）

2012
平成24年

この年のノーベル生理学・医学賞

John Gurdon［英］、山中伸弥［日］／成熟した細胞に対してリプログラミングにより多能性（分化万能性）を持たせられることの発見。人工多能性幹細胞（iPS細胞）の作製

日本女医会年表

2.25　第16回ブロック懇談会（佐賀・ホテルニューオータニ佐賀）参加者54名

3.15　第1回提言論文、受賞者3名（応募17名）

4.1　**日本女医会が公益社団法人を取得**

5.19　第57回公益社団法人日本女医会評議員会（仮称）・懇親会（岐阜・都ホテル）。同夜、長良川の鵜飼いを鑑賞

5.20　第57回公益社団法人日本女医会総会（岐阜・都ホテル）出席者115名。役員改選にて津田喬子が会長に再任
ランチョンセミナー「子宮頸癌ワクチン」対馬ルリ子（日本女医会理事）
講演会「難治性皮膚疾患の治療最前線―しなやかな治療戦略―」清島眞理子（岐阜大学医学部皮膚科教授）

8.18～19　第1回日本女医会MsACT委員会英語セミナー（東京・国際文化会館）参加学生6名

9.24～28　第63回WHO西太平洋地域委員会（ベトナム・ハノイ）に矢口有乃理事が出席

10.6　子育て支援委員会「十代の性の健康支援ネットワーク作り事業」・第3回ゆいネット岐阜連絡協議会、参加者74名

10.14　第6回医学を志す女性のためのキャリア・シンポジウム「男性医師から言いたいこと」（東京・持田製薬本社ルークホール）

10.27　第6回軽井沢セミナー（長野・グランディ軽井沢コンペルーム）参加者29名

11.13　UN Women（国連女性機関）事務局長ミチェル・バチェレ氏来日歓迎レセプションに渉外部宮崎理事出席

この年の主な出来事

3.9　2008.9～2009.2に起ったレーシック手術集団感染事件で、銀座眼科事件の被告眼科医師に禁錮2年の実刑が確定

5.-　近畿地方を中心に風疹の患者数が2008年以降で最多（国立感染研究所発表）

5.21　932年ぶり金環日食

5.22　東京タワーに代わる電波塔として東京スカイツリー開業、高さ634m、地上29階

7.27　ロンドンオリンピック・パラリンピック開催

9.11　政府が尖閣諸島の土地を購入

12.16　第96代首相に安倍晋三が就任し、第二次安倍政権誕生

公益社団法人に移行

2008年12月1日に公益法人制度改革関連3法が施行され、5年間の猶予期間としてその間に公益社団法人か一般社団法人かの選択が必要となった。移行法人担当事務として羽田円氏を招き、理事会および総会で繰り返し検討された。当時の役員の見解は、公益社団法人化することにより社会的地位の向上、管轄省庁が厚生労働省から内閣府に代わり税制上の優遇措置が受けられ寄付を授受しやすくなるという利点、一般社団法人では財産を維持することが困難であり、財産維持のためにも公益化を推進した。しかしながら、従来の支部と本部の関係は認められないなど定款の改正が必要になり、煩雑な準備で多くの時間を費やした。

2011年5月29日第56回社団法人日本女医会定時総会では、定款の変更について様々な質疑が行われた。定款の変更に賛成が過半数であったが、当時の定款においては定款改正には出席者の2/3以上が必要なことから2011年8月7日に臨時総会を招集するに至り、委任状および出席数の確保により定款改正の承認に至った。

その後も事業や規程の変更について検討し、2011年11月2日に公益社団法人への移行を申請した。翌2012年4月1日より公益社団法人を取得し、新定款には「医学に関する調査研究、医療の普及および女性医師相互の連携を図り、もって女性医師の社会的使命の遂行、公衆衛生の向上及び国民福祉の増進に寄与することを目的とする」とされている。

2013
平成25年

この年のノーベル生理学・医学賞

Randy Schekman［米］、James Rothman［米］、Thomas C.Sudhof［米］／細胞内で生成されたタンパク質を細胞核などの目的の場所まで運ぶ仕組み（小胞輸送）の解明

日本女医会年表

2.9　第1回長寿社会福祉委員会講演会「高齢者医療を考える～急性期から在宅医療まで～」（東京・主婦会館プラザエフ）参加者76名

3.17　十代の性の健康支援ネットワーク事業「ゆいネット」報告会・講演会（東京・主婦会館プラザエフ）参加者50名以上

3.24　**「創立110周年ならびに公益社団法人認定記念式典・祝賀会」（東京・京王プラザホテル）**

5.18　第58回日本女医会定時総会のエクスカーションとして東日本大震災の被災地石巻地区の視察ツアー、懇親会を開催

5.19　**第58回日本女医会定時総会（宮城・仙台国際ホテル）出席者88名**

第1回支部・本部連絡会開催。出席者50名

ランチョンセミナー「女性と睡眠時無呼吸症候群」成井浩司（虎の門病院睡眠呼吸器科部長）

公開講演会「東日本大震災の体験と災害医療」石井正（東北大学病院総合地域医療支援部教授）

7.20　十代の性の健康支援ネットワーク事業・ゆいネット北海道

7.23～8.3　第29回国際女医会議「Medical Women Advance Global Health」（韓国・ソウル）日本からの参加者50名（招待講演3題、一般講演23題：口演2題と学生ポスター3題が受賞）

10.4　第7回医学を志す女性のためのキャリア・シンポジウム「羽ばたく女性医師とともに考える―将来の夢に向かって」（東京・主婦会館プラザエフ）

10.13　十代の性の健康支援ネットワーク事業・ゆいネット岐阜とゆいネット名古屋合同講演会

10.21～25　第64回WHO西太平洋地域委員会（フィリピン・マニラ）、矢口有乃理事が出席

10.6　第7回軽井沢セミナー（長野・軽井沢プリンスホテル）参加者20名

11.17　十代の性の健康支援ネットワーク事業・ゆいネット茨城

12.4　国連NGO国内女性委員会主催の第68回国連総会第3委員会報告会に橋本葉子元会長、澤口彰子副会長、矢口有乃理事、渉外部部長宮﨑千恵理事が出席

この年の主な出来事

1.30　マダニ媒介感染症「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」による国内初の死亡例が確認された

3.7　厚生労働省「専門医の在り方に関する検討会」で専門医の認定と養成プログラムの評価・認定を行う「学会とは独立した中立的な第三者機関」を新たに設置する、総合診療医を基本領域の専門医として位置付けることを承認

6.14　子宮頸癌に対するHPVワクチンの積極的な勧奨の差し控えを決定

6.22　富士山が世界文化遺産に決定

7.30　ディオバン論文不正問題、東京慈恵会医科大学の調査委員会は、「Jikei Heart Studyの血圧値のデータに人為的なデータ操作があった」とする中間報告、9月7日には、Jikei Heart Studyの論文が撤回

8.1　世界初iPS細胞の臨床研究スタート

9.7　2020年オリンピック・パラリンピックの東京開催決定

10.1　消費税率8％への引き上げ決定

11.29　「復興のシンボル」として東北地方に1校のみ医学部新設を認可する基本方針が明らかに

12.10　特定秘密保護法が施行

日本女医会創立110周年ならびに公益社団法人認定記念式典・講演会・祝賀会

3月24日　京王プラザホテル（東京）にて開催された式典には131名が参列し、厚生労働大臣　田村憲久氏、内閣府男女共同参画担当大臣　森まさこ氏、日本医学会会長　高久史麿氏、日本医師会会長　横倉義武氏より祝辞を頂いた。さらに、国際女医会会長や事務局長、西太平洋地域会議代表からのビデオメッセージもあり国際色豊かに執り行われた。

式典に続く一般公開講演会では、2012年ノーベル医学生理学賞を受賞された山中伸弥教授のiPS細胞の臨床研究として最も進んでいる分野の理化学研究所網膜再生医療研究開発プロジェクトリーダー髙橋政代先生による記念講演会が行われた。「iPS細胞の

網膜変性疾患への応用」を聴講した262名に新しい治療による医学の進歩に大きな期待を与えた。

講演後に企画された祝賀会に137名が参加した。津田喬子会長の挨拶後に鹿児島大学医学部教授でテノール歌手米澤傑氏の独唱を鑑賞した。衆議院議員の鴨下一郎氏、東京女子医科大学理事長の吉岡博光氏、日本医師会常任理事男女共同参画担当の小森貴氏よりご祝辞を頂いた。ご来賓や関係者を交え橋本葉子前会長のご発声で鏡開きが行われた。最後は東京女子医科大学室内楽団の伴奏で東日本大震災の復興を願い「ふるさと」と「上を向いて歩こう」を会場全員で合唱し盛大に会が締めくくられた。

橋本葉子祝賀事業
実行委員会顧問

記念講演会の演者を囲んで

第1回支部・本部連絡会開催

5月19日　仙台国際ホテルにて行われた第58回公益社団法人日本女医会定時総会の開催前、午前9時30分に第1回支部・本部連絡会が行われた。公益社団法人を取得したことにより定款の一部改正が行われ、この改正において支部と本部との関係が見直されることになった。法律に従い、支部は公益社団法人という名称を名乗れず日本女医会○○支部という任意団体としての名称で共に活動することとされた。また、従来行われていた評議員会は法務上名乗ることはできず、総会から直ぐに理事会に繋がることとなった。これにより会員の意向を反映されないのではないかと危惧される意見もあり、支部と本部を繋ぐ目的で支部・本部連絡会を設けるに至った。会員からは28名、役員は22名出席し、約1時間にわたり支部名称許諾の件、各支部での会員減少や今後の発展のために多くの意見交換が成され、支部・本部連絡会についての規程も検討された。

第1回支部・本部連絡会

2014
平成 26 年

この年のノーベル生理学・医学賞

John O'Keefe［米］［英］、May-Britt Moser［ノルウェー］、Edvard I. Moser［ノルウェー］／脳内の空間認知システムを構成する細胞の発見

日本女医会年表

2.8　第 2 回長寿社会福祉委員会講演会「高齢者医療を考える」（神奈川・崎陽軒会議室）参加者 50 名

2.23　第 2 回 MsACT 英語セミナー（東京・国立市スペースフィオーレ）参加者 6 名

3.15　第 17 回ブロック懇談会（富山国際会議場）出席者 4 名

5.18　第 59 回日本女医会定時総会および支部本部連絡会（東京・京王プラザホテル）出席者 258 名。約 30 年ぶりの役員選挙で新理事 25 名と新監事 2 名が選出、山本纊子が新会長に選任。役員定数の変更を含む定款の変更案が承認される
特別講演会「雄と雌の葛藤から見た進化医学」長谷川眞理子（総合研究大学院大学教授）

6.13　「東京ゆいネット連絡会」（東京都市会館）

10.25　第 8 回軽井沢セミナー（長野・万平ホテル）参加者 28 名

10.25　ゆいネットシンポジウム「子どもたちを被害者にも加害者にもさせないために今！できること」（沖縄県男女共同参画センターてぃるる）
国際女医会関連のニュースを紹介する「国際女医会通信」連載開始（日本女医会誌復刊第 220 号～）

11.2　第 8 回医学を志す女性のためのキャリア・シンポジウム「男女共同参画の現状と今後の目標」（東京・持田製薬本社ルークホール）

11.16　第 18 回ブロック懇談会（岩手県医師会館）、出席者 19 名

12.13　ゆいネットシンポジウム「若者に増えている性感染症」（筑波大学）

この年の主な出来事

1.30　小保方晴子氏らが刺激惹起性多能性獲得細胞（STAP 細胞）を発見したとして学術雑誌 Nature に発表

2.7　ソチ冬季オリンピック・パラリンピック開催

2.21　東京女子医大病院でプロポフォール事故

4.1　消費税 8%に引き上げ

6.-～　西アフリカでウィルス性出血熱の一疾患のエボラ出血熱の感染拡大、死者数 11,313 人（死亡率 40%）

8.-　東京を中心にデング熱が拡大、感染者 160 人

9.27　御嶽山噴火、死者 57 人

8.20　平成 26 年 8 月豪雨による広島市の土砂災害、死者 77 人

11.7　赤崎勇氏、天野浩氏、中村修二氏がノーベル物理学賞を受賞

11.14　群馬大学病院の同一医師による腹腔鏡手術で 8 例の死亡例が判明

STAP 細胞騒動

刺激惹起性多能性獲得細胞（Stimulus-Triggered Acquisition of Pluripotency cell：STAP 細胞）は、動物の分化した細胞に害的刺激を与えて再び分化する能力を獲得させた細胞。理化学研究所の小保方晴子、笹井芳樹らによって発見され、2014 年 1 月 30 日付で論文 2 本が Nature 誌に報告された。生物学の常識をくつがえす大発見とされ世間から注目を浴び、体内での臓器再生等、別の可能性があることが期待されていた。一方、論文発表直後から様々な疑義や不正が指摘され、同年 7 月 2 日に著者らは Nature 誌の 2 本の論文を撤回した。その後も検証実験を続けていた理化学研究所は、12 月 19 日に「STAP 現象の確認に至らなかった」と報告し、実験打ち切りを発表。同 25 日に「研究論文に関する調査委員会」によって提出された調査報告書は、STAP 細胞・STAP 幹細胞・FI 幹細胞とされるサンプルはすべて ES 細胞の混入によって説明できるとし、STAP 論文は「ほぼ全て否定された」と結論づけられた。

2015
平成27年

この年のノーベル生理学・医学賞

William C.Campbell［愛］［米］、大村智［日］／線虫の寄生によって引き起こされる感染症に対する新たな治療法に関する発見
屠呦呦［中］／マラリアに対する新たな治療法に関する発見

日本女医会年表

1.26　ゆいネット岡山第7回協議会（岡山中央病院放射線がん治療センター）
2.28　第3回長寿社会福祉委員会講演会「認知症を考える」（東京・新宿住友ホール）参加者50名
2.28　第3回MsACT英語セミナー（東京・国立市スペースフィオーレ）参加者6名
4.24～26　第11回国際女医会西太平洋地域会議（台湾、台北市）日本女医会から参加者10名
5.16　群馬支部主催のエクスカーションで世界文化遺産・国宝「冨岡製糸場」見学ツアー、懇親会開催
5.17　第60回日本女医会定時総会及び支部本部連絡会（群馬・ホテルメトロポリタン高崎）出席者83名
ランチョンセミナー「群馬大学重粒子線治療について」清原浩樹（群馬大学重粒子線医学研究センター）
市民公開講演会「保育サポーターバンク制度の成果について―女性が輝いて働くために―」
「保育サポーターバンクの概要」今泉友一（群馬県医師会理事）
「支援の現場から―ともに輝く―」松山治子（群馬県医師会サポーターバンク子育て医師保育支援相談員）
「群馬県の女性医師の現状と今後の取り組み」歌代昌文（群馬県健康福祉部医務課医師確保対策室長）
「保育サポーターバンクに支えられて～大学勤務と子育て～」菊池麻美（群馬大学医学部附属病院医療人能力開発センター講師）
「保育サポーターが二世代の女性医師の就労を支援」斎藤知子（労働衛生コンサルタント・内科医）、岡本彩子（群馬大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科）
5.29　山崎倫子第5代日本女医会会長ご逝去（享年96）
10.11　第19回ブロック懇談会（鹿児島県医師会館）参加者5名、本部役員8名出席
10.24　第9回軽井沢セミナー（長野・万平ホテル）参加者24名
10.25　第1回「溝口昌子賞」の募集を開始
11.15　第9回医学を志す女性のためのキャリア・シンポジウム「ワークライフバランスについて先輩たちに学ぼう！」（東京・持田製薬本社ルークホール）
11.22　2015 NGO日本女性大会「めざそう！ 203050 平和な未来のために」（東京女子医科大学弥生記念講堂）日本女医会から12名参加

この年の主な出来事

3.14　北陸新幹線開業
5.-～7.-　韓国でMERSコロナウイルス感染が発生、感染者186人、死者数36人
6.1　2014年の医療事故を受けて東京女子医科大学病院と群馬大学病院の特定機能病院の承認取り消し
8.27　東北医科薬科大学の医学部新設が正式決定（宮城県仙台市）
10.5　マイナンバー制度始まる
11.7　梶田隆章氏がノーベル物理学賞を受賞
11.27　国際医療福祉大学の医学部新設が正式決定（千葉県成田市）
12.17　WHOが日本のHPVワクチン政策を批判「若い女性を子宮頸がん発症の危険に晒している」

第11回 国際女医会西太平洋地域会議

4月24～26日　台湾の台北市において、国際女医会西太平洋地域会議（Western Pacific Regional Conference of MWIA）が開催された。国際女医会西太平洋地域担当副会長の山本纊子日本女医会会長が、台湾女医会会長Sophie Leeと共に会議を運営した。会議の事前協議には、ナショナルコーディネーターの前田佳子が出席した。

本会議は台北市のEvergreen International Convention Centerにて開催され、日本女医会からは10名、全体では8カ国約400名の参加者があった。

オープニングセレモニーでは華やかな国旗パフォーマンス、ソプラノ歌唱、山本会長らの開会挨拶があった。続いて5題の基調講演が行われ、1題目に、山本会長が「長寿社会における高齢者への暴力」の演題

で講演した。

午後は6つのシンポジウムがあり、女性医師のワークライフバランスのシンポジウムで前田佳子が司会と「日本における女性泌尿器科医のワークライフバランス」の演題で講演した。

同夜、台北101の86階のレストランで、ガラパーティーが開催された。美しい夜景を眺めながらのディナー、各国の歌の披露で大盛況となり、最後は広い会場内を参加者全員が手を取り合い、ひと繋がりになって踊りながら練り歩き親交を深めた。

第5代日本女医会会長山﨑倫子先生ご逝去

5月29日　第5代日本女医会会長を務められた山﨑倫子先生が96歳で亡くなられた。先生は、国内外での卓越した業績と社会貢献、誠実さの溢れるお人柄で多くの尊敬を集めた偉大な女性医師であった。

山﨑倫子は、1919年生まれ。1943年、東京女子医学専門学校卒業。ハルビン医科大学付属市立病院、国立公衆衛生院勤務を経て、1956年、東京都武蔵野市に山﨑医院を開設。1981～1984年、汎太平洋東南アジア婦人協会国際会長。1982～1985年、国際連合第37～39回総会政府代表代理。1985～1994年、日本女医会会長。1987年～武蔵野市立北町高齢者センター所長。同センターは1995年に英国の故ダイアナ妃の訪問を受けた。

ご逝去後に日本女医会に遺贈された寄付金（1,000万円）を原資に、学術研究助成「山﨑倫子賞」を創設した。平成27年度第7回理事会（2016年2月20日）において「山﨑倫子賞」の新設を承認、平成28年度第6回理事会（2017年1月15日）において規程が承認され、平成28年度より学術研究助成最優秀者に授与している。

溝口昌子賞

2013年8月にご逝去された故溝口昌子先生のご遺志による寄付金（1,000万円）を原資に、女性医師のキャリアアップと永年勤続を目的とした学術助成金授賞制度を創設した。平成25年度第8回理事会（2014年2月15日）において学術研究助成「溝口昌子賞」の新設を承認、平成26年度第8回理事会（2015年3月15日）において規程が承認され、平成27年度より募集が開始された。

溝口昌子は、日本女医会会員であり、1984年より帝京大学医学部皮膚科教授、1991年より聖マリアンナ医科大学皮膚科教授を経て名誉教授を歴任。平成20年度吉岡弥生賞受賞。医療者、研究者、教育者の全てにおいて優れた業績と人望を備えた偉大な女性医師であった。

2015 NGO 日本女性大会に参加

日本女医会は、女性の地位向上・ジェンダー平等の実現をめざすNGOなど全国組織の団体が結集し、活動している団体である「国際婦人年連絡会」に加盟している。同連絡会は1975年に国際婦人年のテーマ「平等・開発・平和」を掲げ、第1回の国際婦人年日本大会を開催し、それ以降5年毎に開催しているNGO日本女性大会が、2015年11月22日に東京女子医科大学弥生記念講堂にて開催された。日本女医会から12名、全体で約350名の参加者があった。大会スローガンは「めざそう！203050平和な未来のために」で、2030年にはあらゆる場面で男女等しく活躍することを目標にしている。会のプログラムは、基調講演、活動報告、パネルディスカッション「私たちがめざす社会を創造する」などで、最後に山本纊子日本女医会会長が日本女性大会決議文を読み上げた。会場内には各加盟団体による展示があり、日本女医会は歴史と活動のポスターを展示し、冊子「どうしよう…子どもの救急」を展示販売した。

2016
平成 28 年

この年のノーベル生理学・医学賞

大隅良典［日］／オートファジーの仕組みの解明

日本女医会年表

1.17　十代の性の健康支援ネットワーク事業・ゆいネット活動支援（岐阜）
1.26　十代の性の健康支援ネットワーク事業・ゆいネット活動支援（岡山）
1.30　十代の性の健康支援ネットワーク事業・ゆいネット活動支援（茨城）
2.7　第 4 回 MsACT 英語セミナー（立川市）参加学生 4 名
2.13　第 4 回長寿社会福祉委員会講演会「認知症を考える」（愛知県医師会館）参加者 40 名
3.5　ゆいネット活動報告会・十代の性の健康支援ネットワーク事業講演会「こどもたちに、心と体の傷を負わせないで」（東京・ダイヤモンド社石山記念ホール）
3.7　吉馴茂子理事ご逝去（享年 75）
3.31　日本女医会名簿発刊
5.15　第 61 回定時総会及び支部本部連絡会（東京・京王プラザホテル）出席者 251 名
役員選挙で獲得票上位 21 人が理事に選出、会長選挙にて山本纊子会長が再任
特別講演「最新の女性下部尿路症状のプライマリ・ケア」高橋悟（日本大学医学部泌尿器科学系講座教授）
6.18　日本女医会選挙制度改革委員会が発足
7.-　平成 28 年熊本地震に対する義援金 121 万円を被災した熊本県及び大分県の会員と熊本県庁に寄贈
7.28〜31　第 30 回国際女医会議（オーストリア・ウィーン）日本からは会員 13 名、非会員 3 名が参加
9.3　平敷淳子元日本女医会理事、元国際女医会会長（2007-2010）ご逝去（享年 78）
10.22　第 10 回軽井沢セミナー（長野・万平ホテル）参加者 19 名
10.30　第 10 回医学を志す女性のためのキャリア・シンポジウム「変革は女性リーダーから」（東京・持田製薬本社ルークホール）
11.19　2017 年より会誌発行を年 4 回から年 3 回（1 月、5 月、9 月）に変更することを決定

この年の主な出来事

1.16　台湾総統選挙で蔡英文（サイ・エイブン）氏が初の女性総統
4.1　東北医科薬科大学医学部が医学部としては 35 年ぶりに開校
4.14・16　平成 28 年（2016 年）熊本地震発災（M6.5/7.3）死者 211 人
5.10　東京大学、慶應義塾大学（2016.8）、千葉大医学部（2016.9）の学生による集団強姦事件発覚
5.27　オバマ大統領、歴史的な広島訪問
6.15　イチローがプロ野球において日米通算 4,367 安打を達成、ギネスに認定された
6.19　18 歳選挙権施行
7.26　「津久井やまゆり園」で元職員が入所者 19 人を殺害
8.5　リオオリンピック・パラリンピック開催
8.25　東京都足立区の柳原病院の非常勤乳腺外科医が準強制わいせつ罪で逮捕
10.1　藤井聡太が史上最年少の 14 歳 2 ヶ月で四段昇格（プロ入り）し、ここから無敗で公式戦最多連勝記録（29 連勝）を樹立
11.4　地球温暖化対策の新たな枠組み「パリ協定」発行
12.9　韓国の朴槿恵（パク・クネ）第 18 代大統領に対する弾劾訴追が国会で可決

第 30 回 国際女医会議

7 月 29〜31 日　開催地：オーストリア、ウィーン大学
メインテーマ：「Generation Y〜Challenge of the future for female medical doctors〜」
会議参加者：学生を含め約 600 名。日本女医会からは山本纊子（会長）、諏訪美智子（副会長）、濱田啓子、鈴木かつ子、宮崎千恵、平敷淳子、小田泰子、角田由美子、小関温子、樋渡奈奈子、藤川真理子、安藤（ミッシェル）さくら、前田佳子の 13 名、学生 3 名（江川朋子、入江美穂、種子島七海）、日本女医

会非会員の河野恵美子、黒木崇子、計18名（敬称略）。

7月28日　各種委員会、役員会議、ナショナルコーディネーター会議、地域別会議、ヤングMWIAネットワーク会議を開催。18:00から大学の中庭でウェルカムレセプションを開催。

7月29日　開会式では主催者であるEdith Schratzberger-Vecseiオーストリア女医会会長の開会挨拶、音楽の街ウィーンをアピールするライブコンサートが行われた。ランチは大学の中庭を利用したブッフェスタイルで提供された。午後の総会で、次期会長立候補者の2名、イギリスのClarissa Fabreとナイジェリアの Eleanor Nwadinobiから立候補演説と投票が行われた。投票は各国の会費納入人数に応じて投票用紙が配布された。得票数が近接していたため、各々の得票数は発表されないまま再投票へ。再投票の場合には1票でも多い方が選出されることになっており、Clarissa Fabreが次期会長に決定。

並列セッションで山本纊子日本女医会会長が“Abuses to elderly people in longevity societies of western pacific countries”を発表した。夜の懇親会はウィーンの森の中のワイナリーで開催。

7月30日　並列セッションで午前に藤川真理子（Tackling dementia and promoting healthy living in the elderly through a Japanese public health center）、午後に前田佳子（Work-life balance of female urologists in Japan and the western pacific region）が口演発表。総会では次期国際会議（第31回）の開催地立候補7カ国からのプレゼンテーション。夜は郊外の会場でガラディナーが開催され、出席者は約400名。国際女医会会長が所属する韓国女医会会員によるパフォーマンスを披露。

7月31日　次期国際女医会議開催国の選挙が行われ、100周年記念式典が開催予定地のアメリカ・ニューヨークで同時開催が決定、次点は台湾の台北。台湾のプレゼンはニューヨークに負けず劣らず素晴らしいものであったが、100周年と別の開催国は現実的ではないとの判断だったと推測される。韓国のKyung Ah Park国際女医会会長からドイツのBettina Pfleiderer次期会長にバトンが渡され、閉会式と優秀賞の発表が行われた。54題のポスター発表の中から4題が優秀賞を受賞、その中の1題に日本女医会学生会員の種子島七海が選出され（The thin ideal internalization in medical female students in Japan）、賞金として500ユーロを授与された。他の3名はDr. Onyiye Anyanwu、Dr. Nikola Komlenac、Dr. Zainab Mangondato-Dimakuta。

第30回国際女医会議（ウィーン）

2017
平成 29 年

この年のノーベル生理学・医学賞

Jeffrey C.Hall［米］、Michael Rosbash［米］、Michael W.Young［米］／概日リズムを制御する分子メカニズムの発見

日本女医会年表

1.12　山本纊子第 10 代日本女医会会長（2014–2017）、元国際女医会副会長（2013–2016）ご逝去（享年 73）前田佳子副会長が会長代行に就任

1.29　第 5 回長寿社会福祉委員会講演会「加齢と視角―見える幸せ―」（東京・アルカディア市ヶ谷私学会館）参加者 57 名

1.30　十代の性の健康支援ネットワーク事業・ゆいネット活動支援（岡山）

2.19　第 20 回ブロック懇談会（長野・松本市中央公民館）出席者 25 名

2.23　十代の性の健康支援ネットワーク事業・ゆいネット活動支援（茨城）

3.11　十代の性の健康支援ネットワーク事業講演会「今、若い女性の心と身体の健康について何を支援すべきか」（東京・アルカディア市ヶ谷私学会館）

3.8　代表理事選挙で前田佳子会長代行が新会長に選任

5.1　明治から昭和にかけて発行された日本女医会誌の一部を紹介する「日本女医会アーカイブ」連載開始（日本女医会誌復刊第 230 号～）

5.13　埼玉支部主催のエクスカーションで川越へのバス旅行（喜多院と菓子屋横丁）夜は会員懇親会で東儀秀樹氏による雅楽演奏を鑑賞

5.14　第 62 回定時総会及び支部・本部連絡会（埼玉・パレスホテル大宮）出席者 71 名

理事の選出を地域別に定数を定めた「役員選出の規定の改正」承認、2018 年実施

ランチョン講演「原発事故後の福島の健康問題―甲状腺がんについて―」牛山元美（神奈川支部）

公開講演会「C 型肝炎ウイルスを飲み薬で消せる時代へ」名越澄子（埼玉医科大学総合医療センター消化器内科教授）

6.18　山本纊子先生を偲ぶ会（東京・京王プラザホテル）41 人が参列

6.–　3・11 甲状腺がんこども基金へ東日本大震災義捐金を寄付

8.25～27　第 12 回国際女医会西太平洋地域会議（香港）日本女医会から 10 名参加

10.21　第 11 回軽井沢セミナー（長野・万平ホテル）参加者 21 名

10.28　第 11 回医学を志す女性のためのキャリア・シンポジウム「ポジティブ・アクションのススメ」（東京・持田製薬本社ルークホール）

12.1　災害復興まちづくり支援機構（2004.11 設立）に賛助会員として加盟

この年の主な出来事

6.13　天皇譲位特例法成立

6.15　改正組織犯罪処罰法成立

7.5～6　平成 29 年 7 月九州北部豪雨発生、死者 40 人、全壊 336 棟

7.7　国連で 122 カ国の賛成を得て「核兵器禁止条約」が採択

7.18　聖路加国際病院名誉院長日野原重明氏ご逝去（享年 105）

9.8　首相官邸に「人生 100 年時代構想会議」設置

10.1　新専門医制度の専攻医登録開始（2018 年 4 月運用開始予定）

10.5　カズオ・イシグロ（石黒一雄、長崎市生、イギリス国籍）ノーベル文学賞を受賞

10.7　国際的 NGO 連合体「核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）」がノーベル平和賞を受賞

11.10　加計学園グループの愛媛県今治市における岡山理科大学獣医学部新設が認可

12.8　天皇陛下退位を 2019 年 4 月 30 日とする政令が閣議決定（在位期間 30 年 4 ヵ月、退位後の称号は上皇）

第 10 代日本女医会会長山本纊子先生ご逝去 / 山本纊子賞創設

1 月 12 日　山本纊子日本女医会会長が亡くなられた。会長として日本女医会の発展のために心血を注いで陣頭指揮をとられ理事会の運営にあたられていた最中のことで誰もが深い悲しみに沈んだ。

山本纊子会長は 1943 年広島県呉生まれ。名古屋大学医学部在学中にドイツのボン大学医学部に 1 年間

留学。1969 年名古屋大学医学部卒業後、名古屋第一赤十字病院勤務、米国の医師免許も取得し、米国シンシナティメイフィール神経研究所を経て、名古屋大学第一内科、藤田保健衛生大学に勤務。1988 年藤田保健衛生大学神経内科教授に就任。2009 年から同大学名誉教授、医療法人並木会並木病院院長を務め、2014 年第 10 代日本女医会会長に就任。3 人の子育てをしながら仕事を続け、生涯現役医師として医療に従事した。和を重んじ思いやりの心（恕）を説かれ、柔和で温かいお人柄は国内外より敬愛された。

逝去された山本纊子会長の遺志により寄附された基金 500 万円を元に山本纊子賞が設立された。2018 年 2 月に規程が承認され、2018 年度より募集が開始された。この賞は、若手女性医師の海外におけるグローバルな活躍の助成を目的として制定され、受賞対象は申請時に満 45 歳未満で、大学病院または総合病院などに常勤医として勤務しており、1 年以内に海外学会報告などの学術活動を行っている、または 1 年以内に行う予定の日本国に在住している女性医師（教授は除く）。臨床・基礎医学の別は問わない。原則一人あたり 10 万円が助成される。

山本纊子前会長を偲ぶ会（京王プラザホテル）

6 月 18 日　新宿京王プラザホテルにおいて故山本纊子前会長を偲ぶ会を開催した。祭壇は淡い色とりどりの花で飾られ、その中央にトレードマークの帽子を頭に乗せた先生が微笑み、両脇には支部の先生方から贈られた花が並び、まるで春の花畑のようであった。開会までの間に濱田理事、馬場理事が持参した日本女医会や国際女医会での先生の写真を拝見しながら思い出を語り合った。

ご家族を含めて 41 名が参列した。日本医師会常任理事の道永麻里先生、日本精神神経学会の榎戸芙佐子先生、日本神経内科学会の濱田啓子先生、日本女医会会長の前田佳子が別れの言葉を述べた。献杯の言葉は溝口秀昭東京女子医科大学名誉教授にお願いした。生前のご業績や様々なエピソード、そして早すぎる別れを惜しむ言葉を述べられた。最後にご家族を代表して夫の山本勇夫先生からご挨拶をいただき、散会となった。心温まる偲ぶ会であった。

（左）第 11 回国際女医会西太平洋地域会議、台北 101 の前で
（右）第 11 回国際女医会西太平洋地域会議にてスピーチ

山本纊子先生を偲ぶ会にて

第12回 国際女医会西太平洋地域会議

8月26〜27日　開催地：香港、香港島医師会館
メインテーマ：「Women・Health・Empowerment（女性・健康・社会進出）」
会議参加者：香港大学学生を含め200名以上。日本女医会からは前田佳子（会長）、濱田啓子、澤口聡子、渡邉弘美、中原千恵子、角田由美子、平山玖美子、青木正美、小関温子、牛山元美、計10名。

8月20日にフィリピン東海上で発生した台風13号が超大型となり8月23日に香港を直撃、死者も出るほどの被害を与え、まさに嵐を呼ぶ会議となった。初日の25日にはすでに天候は回復していたものの、街のあちこちには台風の爪痕が残されていた。そして、台風14号が帰国当日の8月27日に再び香港を襲い、帰国が危ぶまれる忘れられない会議となった。

8月25日　各国代表（会長・NC）によるビジネス・ミーティングを開催。国際女医会会長から2019年7月25〜27日にアメリカ・ニューヨークで開催される創立100周年記念国際女医会議について説明。メインテーマは「Medical women-Ambassadors of change in a challenging global world（女性医師、それは挑戦的な全世界における変革の大使）」。参加各国から前回の地域会議以降の活動や自国でのトピックスが報告された。日本が所属する西太平洋地域の次期（2019-2022）会長と会議開催国について話し合われ、会長はオーストラリアから選出、地域会議開催国は韓国に決定。会議終了後には他の参加者も一緒に、バス2台に分乗して観光（Tung Wah Hospital：東華医院、Man Mo Temple：東華三院文武廟）へ。夜はTamar Park（添馬公園）内のカフェでカジュアルな歓迎会を開催。

8月26日　全体会議の国際女医会会長の講演で幕を開け、続いてオープニングセレモニー、お祝いの挨拶の後は客席全体で写真撮影が行われた。ロビーではポスターが掲示され、日本からは3つの演題が採択された。日本女医会からは神奈川支部の牛山元美先生が東日本大震災の時に発生した原発事故後の小児の甲状腺癌スクリーニングの結果について報告した（Current status on childhood thyroid cancer after Fukushima nuclear power plant disaster–report from one clinician's point of view）。韓国や台湾、中国、ニュージーランド、オーストラリアの医師や香港の医学生から、発表内容に関して多くの質問があった。台湾の医師からは「台湾では国内の全原発を停止することに決めた。日本でも女医がもっと政治的な力を発揮して原発を止めなさい！」と激励された。

夜はガラディナーで、各国の余興が披露された。日本は現地に着いてからたった2日で準備をし、「2020東京五輪音頭」を披露した。進行の手伝いをしてくれた香港大学の医学生も途中から五輪音頭に参加しての大盛り上がりとなった。最後はDionne Warwickの“That's what friends are for（愛のハーモニー）”を全員で合唱して閉会となった。

パーティを楽しんでいたその間にも、台風14号は着々と香港に近づいてきたため、8月27日に予定されていた最終日の病院見学は中止となった。

2017年第12回国際女医会西太平洋地域会議（香港）

2018
平成 30 年

この年のノーベル生理学・医学賞

本庶佑［日］、James P.Allison［米］／免疫チェックポイント阻害因子の発見とがん治療への応用

日本女医会年表

1.20　十代の性の健康支援ネットワーク事業（ゆいネット）講演会「若い女性の心と体のケアを考える」（東京・アルカディア市ヶ谷私学会館）参加者 22 名

2.18　第 21 回ブロック懇談会（長崎県医師会館）出席者 25 名

3.12〜23　第 62 回国連女性の地位委員会（Commission on the Status of Women：CSW62）（ニューヨーク国連本部）、前田佳子会長が参加

3.17　ゆいネット岡山第 10 回協議会（岡山中央病院がんセンター）

3.18　第 6 回長寿社会福祉委員会講演会「健康寿命をのばすために」（東京・アルカディア市ヶ谷私学会館）参加者 49 名

5.20　第 63 回日本女医会定時総会および支部・本部連絡会（東京・京王プラザホテル）出席者 69 名。役員改選にて前田佳子会長が再任
公開講演会「女性医師の活動が医療のかなめ」樗木晶子（九州大学病院きらめきプロジェクトキャリア支援センター副センター長）

5.26　国際女医会西太平洋地域ビジネスミーティング。前田佳子会長が skype にて参加

8.2　東京医科大学の女子受験生一律減点報道を受け、Facebook にステイトメントを掲載、8 月 7 日には HP にも掲載

9.14　「週刊現代」掲載記事における女性医師誹謗中傷に関して、発行元の講談社に抗議文を内容証明郵便で送付

9.24　濱田啓子理事ご逝去（享年 69）、第 64 回日本女医会定時総会（札幌市）開催準備に尽力される最中、9 月 6 日の北海道胆振東部地震により被災、ブラックアウトに合い、復旧に全力を注がれていた

10.20　第 12 回医学を志す女性のためのキャリア・シンポジウム「我が国の男女共同参画―隣の芝生は青いですか？―」（東京・持田製薬本社ルークホール）

10.27　第 12 回軽井沢セミナー（長野・万平ホテル）参加者 20 名

この年の主な出来事

2.9　平昌冬季オリンピック・パラリンピック開催

6.4　「森友学園」への国有地売却の決済文書改竄問題で財務省職員 20 人を処分

6.18　大阪北部地震発災（M6.1）死者 6 人

6.28〜7.8　平成 30 年 7 月豪雨、西日本を中心に全国に被害が拡大、死者 263 人

7.23　埼玉県熊谷市で観測史上最高気温の 41.1 度

8.2　東京医科大学が 2011 年以降女子受験生を一律減点していたことを読売新聞が報道

9.6　北海道胆振東部地震発災（M6.7）死者 44 人

10.31　医療事故調査制度のスタートから 3 年間、累計 1,129 件が医療事故として医療事故調査・支援センターに報告

11.26　日本医学教育評価機構が、医学部入試不正が明るみになった東京医科大学の国際基準に基づく医学教育分野別評価の取り消しを決定

11.28　世界初のゲノム編集赤ちゃん（双子）が誕生、中国南方科技大学の賀建奎がヒト受精卵に HIV に感染しにくい遺伝子編集を施した

12.28　外傷性脊髄損傷患者に対する再生医療薬剤「自己骨髄間葉系幹細胞（ステミラック注®）」の製造販売が条件及び期限付きで承認

第 21 回ブロック懇談会（長崎県医師会館）

ブロック懇談会前に日本初の女医、楠本イネのお墓を訪問

2018 年 9 月 29 日に行われた濱田啓子理事のご葬儀

第 12 回 医学を志す女性のためのキャリア・シンポジウム

東京医科大学の女子受験生一律減点報道

東京医科大学が医学部の一般入試で女子受験生の得点を一律に減点していたと読売新聞が 8 月 2 日に報道し、同大学の内部調査委員会が調査結果を公表した。8 月 7 日、日本女医会は「日本は 2016 年 4 月に女性活躍推進法が施行され、国の政策として『一億総活躍社会』を目指している。女性という理由で入学試験の採点に不当に手を加えて門戸を閉ざすべきではない。公益社団法人日本女医会は、次世代の女性が女性であるという理由で学ぶ環境や働く環境を奪われないよう支援する」ステイトメントをホームページに掲載した。

その後厚生労働省が全国 81 大学を調査したところ複数の大学が不適切な得点調整をしている疑いが生じ、10 月 15 日に昭和大学、11 月 22 日に神戸大学、12 月 8 日に岩手医科大学、金沢医科大学、福岡大学、12 月 10 日に順天堂大学、北里大学、12 月 12 日に日本大学、聖マリアンナ医科大学が相次いで得点調整を公表し、計 10 大学の医学部が募集要項には記載のない不適切な得点調整を行っていたことが明らかとなった。東京医科大学は第三者委員会の勧告にしたがって平成 29・30 年度の入学試験で合格の可能性があった受験生 101 人に対して入学の意向を確認すると発表し、上位成績者から順番に 63 人目までが入学可能と説明した。この後、日本の複数の大学医学部において入学試験の得点操作が発覚し、文部科学省は東京医科大学以外の大学に対しても自主的な対応を求めた。

これに関連し、日本女医会はテレビや新聞といった様々なメディアからコメントを求められた。また、2019 年 2 月 27 日には「入試差別をなくそう！学生緊急アピール」主催の集会が参議院議員会館で開催され、前田佳子会長が代表して出席し発言を行った。

「公益社団法人日本女医会」の Facebook と Twitter 開設される

Twitter のアカウント：
@jmwa1902

Facebook の URL：
https://www.facebook.com/jmwa1902

2019
平成31年 令和1年

この年のノーベル生理学・医学賞

William G. Kaelin Jr.［米］、Gregg L. Semenza［米］、Sir Peter J. Ratcliffe［英］／細胞に必要な酸素量を感知し調整する「低酸素応答」の仕組みを発見した

日本女医会年表

2.24　第22回ブロック懇談会（ホテルグランヴィア大阪）参加者27名

2.26　天皇陛下御即位30年祝賀式典茶会に前田佳子会長が出席

3.3　ゆいネット市民講演会「ダメ、ゼッタイ！十代の薬物乱用・依存」（東京・アルカディア市ヶ谷私学会館）参加者24名

3.5　HPに新コラム「日本女医会 温故知新」インタビュー掲載開始

3.17　第7回長寿社会福祉委員会講演会「目指せ！健康長寿」（東京・アルカディア市ヶ谷私学会館）参加者36名

3.11～22　第63回国連女性の地位委員会（Commission on the Status of Women：CSW63）（ニューヨーク国連本部）前田佳子会長が参加

3.22　映画「一粒の麦　荻野吟子の生涯」（山田火砂子監督）の制作発表記者会見に前田佳子会長が出席

5.17　荻野吟子先生ゆかりの北海道せたな町を前田佳子会長ら5名が訪問

5.19　第64回日本女医会定時総会および支部・本部連絡会（北海道・札幌グランドホテル）出席者41名。日本女医会事務所の移転案が承認される
公開講演会「女性が活躍するための戦略」山本明美（旭川医科大学皮膚科学教授）

6.16　第23回ブロック懇談会（山梨・常盤ホテル）参加者21名（山梨支部14名、理事7名）

6.25　内閣府主催「男女共同参画に関する懇談会」に前田佳子会長が出席。佐賀支部浅見豊子が内閣府「女性のチャレンジ賞」受賞

6.26　本部事務所移転

7.13～15　復興まちづくりキャンプ2019に参加、有志で救護班ボランティアとして協力

7.25～29　国際女医会創立100周年記念会議（アメリカ・ニューヨーク）日本から30名参加
国際女医会会長にClarissa Fabre（イギリス）が就任

8.22　前田佳子会長が片山さつき男女共同参画担当内閣府特命大臣と面談。女性医師問題解決の方策について助言

10.5　第13回軽井沢セミナー（長野・万平ホテル）参加者20名

10.12　第13回医学を志す女性のためのキャリアシンポジウムは台風19号直撃のため中止

11.12　独立行政法人国立女性教育会館『女性と医学展』にて日本女医会の歴史と前田佳子会長ら日本女医会会員の紹介が展示された

12.3　国際女医会会長のClarissa Fabreが辞任、次期会長のEleanor Nwadinobi（ナイジェリア）が就任

この年の主な出来事

1.1　医師免許証に旧姓の併記が可能となった

1.21　医学部入試で不適切な事案があった私立8大学の2018年度経常費補助金（私学助成金）の減額または全額不交付を決定

2.1　インフルエンザ患者報告数が過去最多（定点あたり57.09）となった

3.14　不適切な臍帯血の提供を禁止するための「造血幹細胞移植法」施行

4.1　風しん追加的対策実施開始

5.1　徳仁天皇が即位、「平成」から「令和」に改元

5.29　厚労省が2040年を展望し、誰もがより長く元気に活躍できる社会の実現のため、「雇用・年金制度改革」「健康寿命延伸プラン」「医療・福祉サービス改革プラン」を発表

10.1　消費税10%、軽減税率導入

10.26　映画「一粒の麦　荻野吟子の生涯」が完成し、全国で上映スタート

11.23　ローマ教皇フランシスコ来日

本部事務所移転

1981（昭和56）年より日本女医会本部として所有していた青山宮野ビル（東京都渋谷区渋谷2-8-7 301、302号室）をビル老朽化および管理状況不備のため売却し、2019（令和1）年6月26日、新事務所（東京都渋谷区千駄ヶ谷1-3-19 ロワレール千駄ヶ谷202号室）へ移転した。

国際女医会創立100周年記念会議

7月25〜28日　アメリカ・ニューヨークのブルックリンマリオットホテルにおいて国際女医会創立100周年記念会議が開催された。世界各国より1,000人以上の参加者があり、日本女医会からは家族等を含め30名が出席した。本会議では日本から口演2題、ポスター9題が採択され、崎山比早子が優秀演題3位に入賞した。

7月25日　国際連合本部内で“Women's Health：Building Blocks for sustainable Development Goals”が開催された。また、ブルックリンではMWIA役員会議、ナショナルコーディネータ会議、地域別会議、オープニングレセプションが行われた。

7月26日　開会式では、MWIA会長のBettina Pfleiderer、アメリカ女医会会長のRoberta Gebhard、同副会長のPadmini Murthyが挨拶された。続いてMWIAの元会長と前会長によりMWIAの100年史が歴史的な写真映像とともに紹介され、歴史の重みに接し感無量であった。日本からはMWIA元会長の小野春生先生、平敷淳子先生、元西太平洋地域担当副会長の山本纊子先生が紹介された。

午後の分科会では、藤川眞理子（Tackling diabetes at national and local level in Japan）と前田佳子（Nationwide survey results on working environment of the woman doctors in Japan）の2演題が口演発表された。ポスター発表では、崎山比早子、牛山元美、永田万由美、西田菜央、中村恭子の発表があった。

7月27日　前日同様に分科会とポスター発表があり、矢口有乃、小出彩香、永井多賀子、澤口聡子がポスター発表を行った。

夜のガラパーティーは1,000人以上の参加者、招待客等が一堂に会し盛大に行われた。印象的だったのは、韓国の美しいサンドアート・パフォーマンスで、場面に合わせて砂で描く見事な絵物語に全員が魅了された。国別パフォーマンスで日本女医会は浴衣や着物ドレスで東京音頭を披露、他国の参加者も一緒に踊り、友好を深めた。

7月28日　役員改選があり、2019〜2022年の会長はイギリス女医会のClarissa Fabre、事務局長はアメリカ女医会のPadmini Murthyが就任、次期会長にはナイジェリア女医会のEleanor Nwadinobiが選出された。閉会式では、各種表彰式も行われ、50年以上の会員に贈られるGolden Jubilee賞を日本人21名が受賞した。そして今大会の優秀演題第3位を崎山比早子が受賞した。

また、100周年記念企画として作成されたファブリック・コラージュと各国の衣装をまとったテディベアが会期中会場に展示され、日本女医会の作品（制作：馬場安紀子）が高評価を受けMWIAのアーカイブになった。

各国の衣装をまとったテディベア

国際女医会創立100周年記念会議

2020
令和2年

この年のノーベル生理学・医学賞

Harvey J.Alter［米］、Michael Houghton［英］、Charles M.Rice［米］／C型肝炎ウイルスの発見

日本女医会年表

1.25　第1回女性の健康支援事業講演会「一緒に学びませんか？―子宮頸がんワクチン（HPVワクチン）について―」（東京・アルカディア市ヶ谷私学会館）参加者30名

2.3　ゆいネット岡山第12回協議会（岡山中央病院）参加者13名

2.16　第8回長寿社会福祉委員会講演会「そのシミにご用心～皮膚の老化と皮膚がんについて～」（東京・アルカディア市ヶ谷私学会館）参加者40名

4.7　**「日本女医会緊急事態宣言」を発信**

5.17　**第65回日本女医会定時総会（LINEによるオンライン開催）参加者20名。役員の改選が行われ新理事13名と新監事2名が承認され、理事の互選により大谷智子が新会長に就任。支部からの投稿によるバーチャル支部・本部連絡会をネット上で開催。講演会は中止**

8.8　**国際女医会西太平洋地域第1回ビジネスミーティング、前田佳子NC（監事）が出席**

8.22　国際女医会主催「北京＋25」を記念したバーチャル会議、前田佳子NC（監事）が出席

10.10　**国際女医会西太平洋地域会議ビジネスミーティング、前田佳子NC（監事）が出席**

10.23　第13回医学を志す女性のためのキャリア・シンポジウム「国際基準で考える男女共同参画―SDGs 5. ジェンダー平等を実現しよう―」日本女医会として初めてオンライン開催。参加者41名

11.8　日本女医会が加盟する国際婦人年連絡会が2020 NGO日本女性大会「女性の権利を国際水準に！」を対面とYouTubeの併用で開催（東京・昭和大学上條記念館）参加者約400名。日本女医会から6名参加

12.5　**国際女医会西太平洋地域会議ビジネスミーティング、前田佳子NC（監事）が出席**

この年の主な出来事

1.15　**国内1例目となる新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染例を確認**

3.11　**WHOがCOVID-19パンデミックを宣言**

3.22　東京オリンピック・パラリンピックの1年延期を決定

3.13　新型コロナウイルス対策の特別措置法成立

4.1　望まない受動喫煙の防止を図るための健康増進法の一部を改正する法律が全面施行

4.7　新型コロナウイルス感染症第1回緊急事態宣言発出（緊急事態措置4月7日～5月25日）、東京の新規感染者数89人

5.4　**新型コロナウイルス感染症専門家会議が「新しい生活様式」を提言**

6.23　スーパーコンピューターの計算速度で「富岳」が世界一に

7.3～31　熊本県を中心とした令和2年7月豪雨発生、死者77人

7.16　将棋の藤井聡太7段が史上最年少（17歳11カ月）で初タイトル獲得

8.17　静岡県浜松市で観測史上最高気温に並ぶ41.1度

9.16　安倍内閣総辞職、安倍晋三首相が退任（連続在職日数2,822日と歴代最長）
菅義偉氏が第99代内閣総理大臣に就任

10.16　映画「鬼滅の刃」興行収入最速100億円突破

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）

2019年12月に中国湖北省武漢市で発生した謎の肺炎「新型コロナウィルス感染症（COVID-19）」の影響を受け、人々の日常生活は従来とは大きく変わってしまった。2020年1月15日に日本国内で初めて新型コロナウィルス感染が確認され、1月25日には外務省が渡航禁止勧告を発令した。WHOのTedros事務局長は1月30日に国際的緊急事態を宣言し、3月11日にはCOVID-19がパンデミック（世界的な大流行）に至っているとの認識を示し、各国に対し一層の対策強化を求めた。

日本の感染は2020年4月11日（全国感染者数のピーク）の第1波から始まり、第2波8月7日、第3

波2021年1月8日、第4波5月8日、第5波8月20日、第6波2022年2月3日、第7波8月となっている。ウィルスの変異株も感染拡大に影響しており、パンデミックが始まった頃のオリジナルを武漢株と呼び、第4波ではアルファ株、第5波ではデルタ株、第6波ではオミクロン株（BA.1）、第7波ではオミクロン株（BA.2、BA.5）がその主体を占めた。

日本のエッセンシャルワーカー、非正規雇用従事者には女性が多く、COVID-19パンデミックは女性を直撃した。外出自粛やリモートワークの普及は在宅時間が長くなることからDV被害の増加につながり、内閣府の報告では2020年度の相談件数は過去最多となった。また、社会的経済的不安から婚姻数と出生数も大きく減少した。

COVID-19への日本女医会の対応、「日本女医会緊急事態宣言」など

政府が緊急事態宣言を発令したその日、日本女医会も、全ての医療従事者、女性及び社会的弱者が新型コロナウイルス感染症に関わる様々な被害から守られるよう、全10項目からなる「日本女医会緊急事態宣言」を行った。日本女医会誌復刊第239号に掲載すると共に、内閣総理大臣、厚生労働大臣、新型コロナ対策担当大臣、内閣府男女共同参画特命担当大臣、日本医師会、一部政党や議員にも要望として郵送した。

1. 全ての医療従事者に血中抗SARS-CoV-2抗体検査キットの配布
2. 新型コロナウイルスPCR検査へのアクセス環境の改善
3. 臨時病院の設置もしくは既存の空きベッドの利用促進
4. 医療従事者の定年退職者や離職者に対する再雇用促進
5. ひとり親への迅速な経済支援
6. 非正規雇用、フリーランス、ナイトクラブなどで働くサービス業（水商売）といった性別や職業での差別のない、世帯単位ではなく個人に対する経済支援
7. 路上生活者（いわゆるホームレス）、ネットカフェなどにおける生活者への支援
8. ドメスティックバイオレンス（DV）被害の相談窓口の継続および被害者の一時保護への柔軟な対応
9. 妊娠女性への配慮と支援
10. 開業医療機関への補助

また、日本女医会では、JOHNS HOPKINSのデータに基づき、手洗いの徹底や人との密接な接触の回避、社会的距離の維持など、COVID-19に感染しないために各人がとるべき基本的事項を『日本女医会が推奨する「あなた自身をCOVID-19から守るための10箇条」』としてまとめ、HPへの掲載およびポスターとして全国に発信した。

国際女医会西太平洋地域ビジネスミーティング

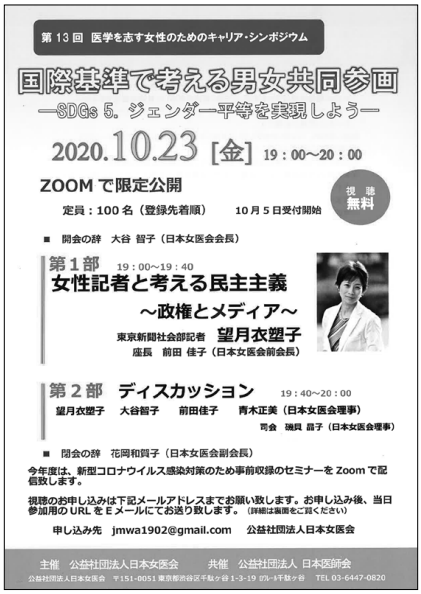
西太平洋地域には2020年時点でオーストラリア、韓国、台湾、フィリピン、日本、香港、中国が加盟しており、それ以外に個人会員としてベトナムが参加している。COVID-19パンデミックによって国際的な活動が制限される中、西太平洋地域ではオーストラリアのDesiree Yap副会長の下、2020年8月から隔月でオンライン会議を導入した。2020年に3回、2021年に6回開催した。パンデミック前は国際女医会議および西太平洋地域会議開催期間にのみ地域会議を開催していたが、パンデミックでオンライン化が促進されたことでより緊密なコミュニケーションが取れるようになった。今後も継続していく方針が共有されている。

求められる行動変容オンライン化への対応が急務に

５月４日　政府の新型コロナウイルス感染症専門家会議が、手洗い、マスクの着用、身体的距離の確保、いわゆる「三つの密（密閉空間、密集場所、密接場面）」の回避、オンライン会議やテレワークの導入などを推奨する「新しい生活様式」を提言。家庭と社会の両面で感染拡大の防止と社会経済活動の維持との両立を図るための行動の変容が求められることとなった。

日本のネット事情の遅れが明らかとなった中、特に急がれたのがオンライン化への対応である。医療現場では、いち早く新型コロナウイルス感染症の拡大に際しての時限的・特例的な取扱いとして、初診から電話や情報通信機器を用いた診療により診断や処方を行うことなどが認められ、対応可能な医療機関で取り入れられた。

COVID-19 パンデミックの影響は、日本女医会も例外ではなく、2020 年に予定していた会合や講演会などの多くは、中止や延期、実施方法の変更を余儀なくされ、オンライン化への対応が急務であった。緊急事態宣言により集会活動が制限される中、5 月 17 日の第 65 回定時総会は、会長及び一部の理事以外は通信用アプリ LINE によるオンライン参加の形で開催された。また、日本女医会では、今後の感染状況が不透明であることに鑑み、後援会やブロック会議懇談会などをソーシャルメディアによる配信で行うことを計画し、新たに SNS 担当を配置した。



初のオンラインによるキャリア・シンポジウム

2020 NGO 日本女性大会

2021
令和3年

この年のノーベル生理学・医学賞

David Julius［米］、Ardem Patapoutian［米］／温感と触覚の受容体の発見

日本女医会年表

2.6　国際女医会西太平洋地域会議ビジネスミーティング、前田佳子 NC（監事）が出席

2.7　第 2 回女性の健康支援事業講演会「新型コロナウイルス感染症〜私達はどう向き合うか〜」（オンライン開催）参加者 90 名

2.21　第 9 回長寿社会福祉委員会講演会「あなたと共に歳をとる腎臓の話〜慢性腎臓病（CKD）にならないために〜」（オンライン開催）参加者 50 名

2.27　国際女医会ワークライフバランス特別グループによる「COVID-19 パンデミック下での WLB の達成」（オンライン開催）

4.10　国際女医会西太平洋地域会議ビジネスミーティング、前田佳子 NC（監事）が出席

5.16　**第 66 回日本女医会定時総会（オンライン開催）出席者 49 名**
支部・本部連絡会（オンライン開催）出席者支部 17 名、役員 14 名
市民公開講演会「思春期からはじまる女性の健康 update」（オンライン開催）望月善子（もちづき女性クリニック）参加者 70 名

6.5　国際女医会西太平洋地域会議ビジネスミーティング、前田佳子 NC（監事）が出席

8.20〜21　**国際女医会西太平洋地域会議 2021（韓国・ソウル、初のバーチャル開催）。8 月 21 日に西太平洋地域ビジネスミーティング開催。いずれも前田佳子 NC（監事）が参加**

10.9　国際女医会西太平洋地域会議ビジネスミーティング、前田佳子 NC（監事）が出席

10.29　**第 14 回医学を志す女性のためのキャリア・シンポジウム「あきらめない」（オンライン開催）参加者 100 名**

11.27　第 10 回長寿社会福祉委員会講演会「高齢者の睡眠障害について〜以前に比べて寝付けない、長く眠れないのは歳のせい？〜」（オンライン開催）降矢芳子（東京女子医科大学東医療センターリハビリテーション科教授）

12.8　国際女医会西太平洋地域会議ビジネスミーティング、前田佳子 NC（監事）が出席

この年の主な出来事

1.7　第 2 回新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言発出（緊急事態措置 1 月 8 日〜3 月 18 日）

2.12　東京オリンピック・パラリンピック大会組織委員長森喜朗氏が女性蔑視発言で辞任、女性蔑視発言が海外メディアでも大きき報道される

2.17　国内で新型コロナワクチン（mRNA ワクチン）接種始まる

3.30　世界経済フォーラムがジェンダーギャップ指数（GGGI）を発表、日本は 156 カ国中 120 位

4.23　第 3 回緊急事態宣言発出（緊急事態措置 4 月 25 日〜6 月 20 日）

7.3　静岡県熱海市で土石流発生、死者・行方不明者 27 人

7.8　第 4 回緊急事態宣言発出（緊急事態措置 7 月 12 日〜9 月 30 日）

7.23　過去にない原則無観客かつバブル方式という形で東京 2020 オリンピック・パラリンピックを 1 年延期で開催

9.1　政府のデジタル政策の司令塔となるデジタル庁が発足、長は首相、初代デジタル大臣は平井卓也氏

10.4　岸田文雄氏が第 100 代首相に就任

11.26　2022 年度より HPV ワクチンの積極的勧奨再開を決定、2022 年 4 月 1 日からキャッチアップ接種も開始

11.19　二刀流のエンジェルス大谷翔平がメジャー MVP

進むオンライン化、取り組みと今後の課題

感染拡大を予防する「新しい生活様式」が広がる中、リモートワーク、オンライン会議、オンライン授業など社会経済活動の様々な場面で新しい形態が急速に普及した。

国際女医会では、COVID-19 パンデミックの影響で延期されていた国際女医会西太平洋地域会議（当

バーチャル開催となった国際女医会西太平洋地域会議 2021

西太平洋地域ビジネスミーティング

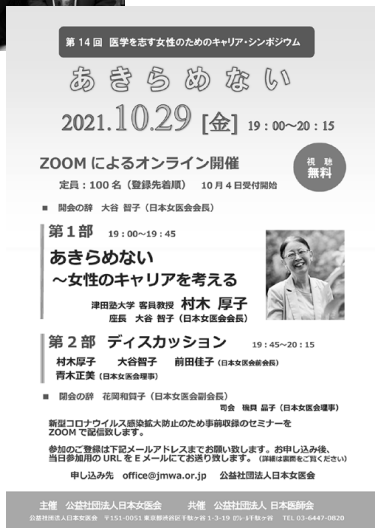
初予定は 2020 年 10 月に韓国ソウルで開催）が、8 月 20 日から 21 日にかけてバーチャル開催という新しい形で実現された。

日本女医会も、前年 4 月の緊急事態宣言後、試行錯誤を繰り返しながらオンライン化への対応に当たった。取り組みの当初においては、インターネット利用への不安や抵抗感が見られたものの、実践を重ねることで次第に慣れ、日本女医会が主催する理事会や講演会などはオンラインでの開催が定着した。2021 年 4 月には、従来の SNS 担当を格上げし、新たに「IT 部」を設置。IT 部を中心にホームページのリニューアルや講演会のオンライン配信などの取り組みが進められた。5 月 16 日の第 66 回日本女医会定時総会は初めて Web 会議ツール Zoom を利用したオンラインで開催された。総会では、大谷智子会長から今後の会の運営に SNS を活用する、各支部との連携、日本女医会から発信する新たな企画を打ち出すといった内容が述べられ、オンライン化を推進する方向性が示された。10 月 29 日には、男女共同参画委員会主催の「第 14 回医学を志す女性のためのキャリア・シンポジウム」が、Zoom と動画共有サイト YouTube を併用し、オンラインで開催された。

オンライン化の取り組みの効果は、会員等の COVID-19 への感染リスクを低減させるだけにとどまらない。会員等の業務効率の向上に寄与するとともに、会議等への参加者拡大の可能性を期待させるものである。

従来、会員等が総会等の会議に出席するための時間の確保や交通費・宿泊費等の費用負担が課題となっていたが、オンライン開催の導入によって、会議等に出席する際の時間や交通費等の経済的負担を大幅に削減することが可能となり、世界中からの参加も可能となった。また、講演会等のオンデマンド配信の取り組みによって、会場に行かなくても都合のよい時間に何度もじっくりと講演を聴くことができるようになったなど、オンライン化の進展を歓迎する声が多く聞かれた。しかし、その一方では、現地に赴き対面でこそ新しい情報交換ができるといった意見や対面での活気あふれる会議の開催を待ち望む声も聞かれる。セキュリティの確保や法的問題が生じた場合の対応、インターネット利用が困難な会員等への対応など課題も少なくない。

今後は、会員相互の親睦を深めることを大切にした上で、オンライン化における諸課題への対応やソーシャルネットワーキングサービス（SNS）を活用した更なる変革・挑戦が求められる。


第 14 回 医学を志す女性のためのキャリア・シンポジウム
あきらめない
2021.10.29 [金] 19：00〜20：15
ZOOM によるオンライン開催
視聴 無料
定員：100 名（登録先着順） 10 月 4 日受付開始
■ 開会の辞 大谷 智子（日本女医会会長）
第 1 部 19：00〜19：45
あきらめない
〜女性のキャリアを考える
津田塾大学 客員教授 村木 厚子
座長 大谷 智子（日本女医会会長）
第 2 部 ディスカッション 19：45〜20：15
村木厚子 大谷智子 前田佳子（日本女医会総会長）
青木正美（日本女医会理事）
■ 閉会の辞 花岡和歩子（日本女医会副会長）
司会 織田 晶子（日本女医会理事）
新型コロナウイルス感染拡大防止のため事前収録のセミナーを
ZOOM で配信致します。
参加のご登録は下記メールアドレスまでお願い致します。お申し込み後、
当日参加用の URL をＥメールにてお送り致します。（詳細は裏面をご覧ください）
申し込み先 office@jmwa.or.jp 公益社団法人日本女医会
主催 公益社団法人日本女医会 共催 公益社団法人 日本医師会
公益社団法人日本女医会 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 1-3-19 ビュー千駄ヶ谷 TEL 03-6447-0820

2 度目のオンライン開催となったキャリア・シンポジウム

2022
令和4年1〜3月

この年のノーベル生理学・医学賞

Svante Pääbo［スウェーデン］／絶滅したヒト族のゲノムと人類の進化に関する発見

日本女医会年表

1.30　第24回ブロック懇談会（鳥取、オンライン開催）　出席者20名

2.5　第3回女性の健康支援事業講演会「コロナ禍における予期せぬ妊娠を考える―緊急ピル等も含めて―」（オンライン開催）安達知子（愛育病院院長）

2.26　国際女医会西太平洋地域会議ビジネスミーティング。前田佳子NC（監事）が出席

3.2　ロシアによるウクライナ軍事侵攻に反対する声明（日本語・英語）をHPに掲載

この年の主な出来事

1.9　海部俊樹元首相ご逝去（享年91）

1.15　トンガで海底火山噴火

2.1　元東京都知事石原慎太郎氏ご逝去（享年89）

2.4　北京冬季オリンピック・パラリンピック開催

2.12　藤井聡太九段が史上最年少（19歳6カ月）で五冠目のタイトルを獲得

2.24　ロシアがウクライナに軍事侵攻

3.11　強制不妊訴訟で逆転勝訴。国に1,500万円の損害賠償命令

3.23　ウクライナ大統領ゼレンスキー氏が日本の国会でオンライン演説

ロシアによるウクライナ軍事侵攻に反対する声明

1945年に国際連合の設立根拠として採択された国連憲章は、「武力による威嚇又は武力の行使」を禁止している。これは「武力不行使原則」といって、世界中の国が遵守すべき慣習国際法としても成立している。

1991年にソビエト社会主義共和国連邦が内部分裂を起こし解体した時にロシアとウクライナも独立した。2月24日、ロシアがその共に独立した隣国ウクライナに侵攻した。

ロシアのプーチン大統領はこれまでもウクライナ領のクリミア半島を占領して強引にロシアに組み込み、ウクライナ東部にいて独立を目指す親ロシア派の武装組織を支援してきた。さらに今回はウクライナをNATOに入れさせないために、軍事侵攻を行ったとみられている。いかなる理由があろうとも、武力で一方的に現状を変えさせようとするのは許されることではない。

ウクライナでもゼレンスキー大統領は18〜60歳の男性に「国民総動員令」をかけたため、女性や子供だけで近隣国に避難することとなった。人権や人命を奪い、常に弱い立場の女性や子供が犠牲になることは看過出来ない。日本女医会はロシアの軍事侵攻に対して右記の反対声明を出した。

公益社団法人日本女医会

2月24日に始まったロシアのウクライナへの侵攻は罪なき多くの尊い命を奪い、日に日に被害が拡大しています。

武力によって他国の主権を蹂躙し、人権をないがしろにし人命を奪う暴挙に対し、常に犠牲になる女性と子供のために、私たち女性医療者はここに反対を強く表明します。

The Japan Women's Medical Association

Russia's invasion of Ukraine, which began on February 24, has taken many innocent lives, and the damage is growing day by day.

For the sake of the women and children who are always victims of such violent acts that violate the sovereignty of other countries by force, neglect human rights, and take human lives, we, women medical professionals, hereby express our strong opposition.

資料編

歴代の役員一覧

2003(平成15)

会長
橋本 葉子
副会長
石原 幸子
加藤 竺子
鹿田 儀子
理事
内潟 安子
大坪 公子
古賀 詔子
斎藤 加代子
澤口 彰子
澁谷 きよみ
角田 由美子
中山 眞知子
濱田 啓子
船越 由美子
平敷 淳子
松井 ひろみ
村田 郁
森川 由紀子
山崎 トヨ
山崎 康子
山本 纊子
山本 蒔子
監事
川田 喜代子
橋川 ふさ子
ナショナルコーディネーター
平敷 淳子

2006(平成18)

会長
小田 泰子
副会長
鹿田 儀子
角田 由美子
山崎 トヨ
理事
荒木 葉子
内潟 安子
大塚 貞子
大坪 公子
古賀 詔子
坂本 雅子
澁谷 きよみ
高原 照美
田中 優子
塚田 篤子
対馬 ルリ子
津田 喬子
西嶋 攝子
濱田 啓子
藤川 眞理子
村田 郁
森川 由紀子
山本 纊子
山本 蒔子
山崎 康子
吉馴 茂子
監事
川田 喜代子
松井 ひろみ
ナショナルコーディネーター
内潟 安子

2008(平成20)

会長
小田 泰子
副会長
津田 喬子
松井 ひろみ
山崎 トヨ
理事
秋葉 則子
安部 由美子
荒木 葉子
内潟 安子
小関 温子
川村 富美子
古賀 詔子
澤口 彰子
澁谷 きよみ
高原 照美
田中 優子
塚田 篤子
対馬 ルリ子
濱田 啓子
藤川 眞理子
宮﨑 千惠
宮本 治子
矢口 有乃
山田 邦子
山本 蒔子
吉馴 茂子
監事
中井 紀子
森川 由紀子
ナショナルコーディネーター
内潟 安子

2010(平成22)

会長
津田 喬子
副会長
古賀 詔子
松井 ひろみ
山本 纊子
理事
秋葉 則子
安部 由美子
大谷 智子
小関 温子
川村 富美子
澤口 彰子
諏訪 美智子
高原 照美
塚田 篤子
対馬 ルリ子
濱田 啓子
藤川 眞理子
細川 美智子
前田 佳子
宮﨑 千惠
宮本 治子
矢口 有乃
山崎 トヨ
山田 邦子
横須 賀麗子
吉馴 茂子
監事
中井 紀子
森川 由紀子
ナショナルコーディネーター
矢口 有乃

2012(平成24)

会長
津田 喬子
副会長
小関 温子
澤口 彰子
対馬 ルリ子
理事
大谷 智子
川村 富美子
古賀 詔子
齊藤 惠子
諏訪 美智子
高原 照美
田辺 晶代
塚田 篤子
中田 惠久子
馬場 安紀子
濱田 啓子
藤川 眞理子
前田 佳子
宮﨑 千惠
宮本 治子
矢口 有乃
山本 纊子
横須賀 麗子
吉馴 茂子
監事
松井 ひろみ
山崎 トヨ
ナショナルコーディネーター
矢口 有乃

2014(平成26)

会長
山本 纊子
副会長
大谷 智子
小関 温子
塚田 篤子
理事
岩﨑 惠美子
江畑 理佳
川村 富美子
齊藤 惠子
澤口 聡子
鈴木 カツ子
諏訪 美智子
田中 優子
田辺 晶代
津田 喬子
中川 やよい
中田 惠久子
花岡 和賀子
馬場 安紀子
樋渡 奈奈子
福下 公子
藤川 眞理子
前田 佳子
宮﨑 千惠
矢口 有乃
吉馴 茂子
監事
松井 ひろみ
山崎 トヨ
ナショナルコーディネーター
前田 佳子

2016(平成28)

会長
山本 纊子(~2017.1)
前田 佳子(2017.3~)
副会長
大谷 智子
諏訪 美智子
前田 佳子
理事
赤澤 純代
泉 美貴
磯貝 晶子
今村 純子
岩﨑 惠美子
内潟 安子
小泉 ひろみ
澤口 聡子
鈴木 カツ子
対馬 ルリ子
中田 惠久子
花岡 和賀子
馬場 安紀子
濱田 啓子
福下 公子
宮﨑 千惠
監事
塚田 篤子
津田 喬子
ナショナルコーディネーター
前田佳子

2018(平成30)

会長
前田 佳子
副会長
諏訪 美智子
馬場 安紀子
理事
青木 正美
磯貝 晶子
澤口 聡子
塚田 篤子
中田 惠久子
花岡 和賀子
濱田 啓子
樋渡 奈奈子
藤谷 宏子
村上 京子
芳川 た江子
監事
大谷 智子
沖村 英佳
ナショナルコーディネーター
前田 佳子

2020(令和2)

会長
大谷 智子
副会長
花岡 和賀子
馬場 安紀子
理事
青木 正美
磯貝 晶子
木村 友美
塚田 篤子
中田 惠久子
野村 明子
樋渡 奈奈子
藤谷 宏子
村上 京子
芳川 た江子
監事
沖村 英佳
前田 佳子
ナショナルコーディネーター
前田 佳子

2022(令和4)

会長
前田 佳子
副会長
青木 正美
藤谷 宏子
理事
磯貝 晶子
牛山 元美
大谷 智子
木村 友美
塚田 篤子
野村 明子
樋渡 奈奈子
宮坂 晴子
望月 善子
芳川 た江子
監事
大関 ひろ美
村上 京子
ナショナルコーディネーター
前田 佳子

理事会一覧

年	開催日	回	開催場所	出席者	特記事項
2002	1月26日	H13年度第８回	京王プラザホテル	22	100 周年記念式典について協議（継続審議）
	2月23日	H13年度第９回	京王プラザホテル	18	
	3月23日	H13年度第10回	京王プラザホテル	24	「子育て支援基金」助成金により作成した十代の性教育ビデオを試写
	4月20日	H14年度第１回	京王プラザホテル	24	2004 年国際女医会議組織委員会発足を承認（事務局長：平敷理事）
	6月15日	H14年度第２回	京王プラザホテル	20	荻野吟子生家長屋門修復事業に寄付金拠出。100 周年特別会計を報告
	7月27日	H14年度第３回	日本女医会会議室	22	
	9月21日	H14年度第４回	日本女医会会議室	16	
	10月26日	H14年度第５回	日本女医会会議室	18	
	11月16日	H14年度第６回	日本女医会会議室	15	月刊誌「ゆうゆう糖尿病」の制作を日本医療企画より広研印刷へ変更を承認
	12月21日	H14年度第７回	日本女医会会議室	19	
2003	1月25日	H14年度第８回	日本女医会会議室	19	
	2月15日	H14年度第９回	日本女医会会議室	20	
	3月15日	H14年度第10回	日本女医会会議室	19	
	4月20日	H15年度第１回	京王プラザホテル	22	
	6月21日	H15年度第２回	日本女医会会議室	21	映画「葉っぱのフレディ」の名義後援を承認
	7月19日	H15年度第３回	日本女医会会議室	23	「環境調査小委員会」による「三十代医師の労働環境調査」を実施
	9月20日	H15年度第４回	日本女医会会議室	20	
	10月18日	H15年度第５回	日本女医会会議室	15	
	11月15日	H15年度第６回	日本女医会会議室	20	
	12月20日	H15年度第７回	日本女医会会議室	16	「ゆうゆう糖尿病」が毎月の赤字のため廃刊を検討
2004	1月17日	H15年度第８回	京王プラザホテル	18	
	2月21日	H15年度第９回	日本女医会会議室	16	
	3月13日	H15年度第10回	日本女医会会議室	18	「ゆうゆう糖尿病」の６月終刊を決定
	4月17日	H16年度第１回	京王プラザホテル	19	理事会後、国際女医会議のシミュレーションを業者監修のもと行う
	6月19日	H16年度第２回	京王プラザホテル	21	理事会後、国際女医会議のリハーサルを行う
	7月20日	H16年度第３回	京王プラザホテル	18	
	9月18日	H16年度第４回	日本女医会会議室	20	
	10月16日	H16年度第５回	日本女医会会議室	17	国際女医会議のビデオ制作を承認
	11月20日	H16年度第６回	日本女医会会議室	14	
	12月18日	H16年度第７回	日本女医会会議室	17	
2005	1月15日	H16年度第８回	京王プラザホテル	20	
	2月26日	H16年度第９回	日本女医会会議室	17	
	3月12日	H16年度第10回	日本女医会会議室	17	
	4月23日	H17年度第１回	日本女医会会議室	16	
	6月25日	H17年度第２回	日本女医会会議室	16	
	7月23日	H17年度第３回	日本女医会会議室	20	
	9月10日	H17年度第４回	日本女医会会議室	19	
	10月22日	H17年度第５回	京王プラザホテル	20	
	11月26日	H17年度第６回	日本女医会会議室	17	
	12月17日	H17年度第７回	日本女医会会議室	17	
2006	1月28日	H17年度第８回	日本女医会会議室	20	「女性医師環境整備事業に対する要望書」を猪口邦子少子化・男女共同参画担当内閣府特命大臣に提出することを決定
	2月25日	H17年度第９回	日本女医会会議室	20	
	3月25日	H17年度第10回	日本女医会会議室	19	
	4月22日	H18年度第１回	日本女医会会議室	14	「子育て支援委員会」と「長寿社会福祉委員会」立ち上げ
	6月24日	H18年度第２回	日本女医会会議室	24	「子育て支援委員会」が「小児救急マニュアル」本発行を計画
	7月22日	H18年度第３回	京王プラザホテル	17	定款改訂委員会発足
	9月2日	H18年度第４回	日本女医会会議室	22	
	10月28日	H18年度第５回	日本女医会会議室	24	
	11月25日	H18年度第６回	日本女医会会議室	19	
	12月16日	H18年度第７回	京王プラザホテル	19	
2007	1月21日	H18年度第８回	日本女医会会議室	23	
	2月24日	H18年度第９回	京王プラザホテル	23	
	3月24日	H18年度第10回	京王プラザホテル	23	「どうしよう…子どもの救急」発行

年	開催日	回	開催場所	出席者	特記事項
2007	4月21日	H19年度第1回	京王プラザホテル	19	女性医師支援委員会発足を提案
	7月22日	H19年度第3回	京王プラザホテル	20	
	9月8日	H19年度第4回	日本女医会会議室	21	福祉医療助成金の申請を決定（「在宅高齢者の栄養管理」及び「十代の性の健康」）軽井沢セミナー開催を承認
	10月20日	H19年度第5回	日本女医会会議室	19	
	11月17日	H19年度第6回	日本女医会会議室	22	
	12月16日	H19年度第7回	日本女医会会議室	22	「医師会役員に女性医師起用の要望書」を日本医師会への提出を決定
2008	1月26日	H19年度第8回	日本女医会会議室	23	
	2月23日	H19年度第9回	日本女医会会議室	24	
	3月23日	H19年度第10回	ルークホール	23	
	4月26日	H20年度第1回	日本女医会会議室	23	
	6月28日	H20年度第2回	日本女医会会議室	24	
	7月26日	H20年度第3回	京王プラザホテル	22	
	9月20日	H20年度第4回	日本女医会会議室	25	
	10月25日	H20年度第5回	日本女医会会議室	22	
	11月15日	H20年度第6回	日本女医会会議室	21	「賛助会員」制度設置を承認
	12月14日	H20年度第7回	京王プラザホテル	22	日本女医会から書籍の出版企画が可決
2009	1月24日	H20年度第8回	日本女医会会議室	23	
	2月28日	H20年度第9回	日本女医会会議室	24	
	3月28日	H20年度第10回	日本女医会会議室	20	
	4月25日	H21年度第1回	日本女医会会議室	25	
	6月20日	H21年度第2回	日本女医会会議室	21	
	7月18日	H21年度第3回	日本女医会会議室	23	
	9月12日	H21年度第4回	日本女医会会議室	22	出版本「あなたらしいキャリアを創ろう」の各医学部への寄贈を決定
	10月17日	H21年度第5回	日本女医会会議室	23	
	11月14日	H21年度第6回	日本女医会会議室	19	公益法人化準備専任者・羽田円氏出席
	12月20日	H21年度第7回	京王プラザホテル	24	
2010	1月16日	H21年度第8回	日本女医会会議室	23	羽田氏より新公益制度に沿った定款を学習
	2月20日	H21年度第9回	日本女医会会議室	20	「新公益法人に沿った定款」作成
	3月20日	H21年度第10回	日本女医会会議室	19	理事会として公益社団法人への移行を決定
	4月17日	H22年度第1回	日本女医会会議室	20	「新公益法人に沿った定款」を検討
	6月19日	H22年度第2回	日本女医会会議室	26	第 10 回国際女医会西太平洋地域会議実行委員会案提出
	7月17日	H22年度第3回	京王プラザホテル	19	法人申請書類を検討。会員名簿発行を検討
	9月11日	H22年度第4回	日本女医会会議室	25	「公益社団法人移行認定申請書」提出を報告
	10月17日	H22年度第5回	日本女医会会議室	22	
	11月20日	H22年度第6回	日本女医会会議室	21	第 10 回国際女医会西太平洋地域会議の参加受付開始
	12月19日	H22年度第7回	日本女医会会議室	23	
2011	1月29日	H22年度第8回	京王プラザホテル	25	公益法人申請の再申請を決定
	2月19日	H22年度第9回	日本女医会会議室	20	
	3月12、13日	緊急役員会	メール会議		東日本大震災対応を協議
	3月26日	緊急役員会	日本女医会会議室		同上
	4月16日	H23年度第1回	日本女医会会議室	24	第 10 回国際女医会西太平洋地域会議（東京）の中止を決定
	6月18日	H23年度第2回	日本女医会会議室	20	8 月 7 日・臨時総会の開催を決定。提言論文事業承認
	8月7日	H23年度第3回	京王プラザホテル	23	ゆいネットの各地域の自主活動への移行を決定
	9月17日	H23年度第4回	日本女医会会議室	21	
	10月16日	H23年度第5回	日本女医会会議室	19	
	11月19日	H23年度第6回	日本女医会会議室	22	公益社団法人申請完了の報告
	12月18日	H23年度第7回	京王プラザホテル	23	理事会後、義援金で購入した無線機の説明があった
2012	1月21日	H23年度第8回	日本女医会会議室	22	長岡公認会計士の紹介と公益社団法人の会計に関する質疑応答
	2月18日	H23年度第9回	日本女医会会議室	25	公益法人化に伴う入会案内の変更を承認
2012	3月17日	H23年度第10回	日本女医会会議室	22	
	4月21日	H24年度第1回	日本女医会会議室	25	
	6月16日	H24年度第2回	日本女医会会議室	23	各委員会を「男女共同参画事業委員会」「小児救急事業委員会」に改称。創立 110 周年記念ならびに公益社団法人認定記念祝賀会（仮称）準備委員会を立ち上げる
	9月15日	H24年度第3回	日本女医会会議室	20	
	11月17日	H24年度第4回	日本女医会会議室	19	評議員会が「支部・本部連絡会」に改称される
2013	1月20日	H24年度第5回	京王プラザホテル	20	
	2月16日	H24年度第6回	京王プラザホテル	19	「110 周年記念式典～準備会」を「110 周年～実行委員会」に移行
	3月16日	H24年度第7回	日本女医会会議室	21	

年	開催日	回	開催場所	出席者	特記事項
2013	4月20日	H25年度第1回	日本女医会会議室	21	
	5月19日	H25年度第2回	仙台国際ホテル	21	
	6月15日	H25年度第3回	日本女医会会議室	20	副会長の担当変更が提案される
	7月21日	H25年度第4回	日本女医会会議室	22	
	9月21日	H25年度第5回	日本女医会会議室	20	副会長の担当変更を承認
	11月16日	H25年度第6回	日本女医会会議室	20	
2014	1月19日	H25年度第7回	京王プラザホテル	23	
	2月15日	H25年度第8回	日本女医会会議室	16	定款の改定案を承認
	3月16日	H25年度第9回	日本女医会会議室	23	役員旅費規定の改訂（自己負担）を承認
	4月19日	H26年度第1回	日本女医会会議室	23	
	6月21日	H26年度第2回	日本女医会会議室	23	
	7月19日	H26年度第3回	日本女医会会議室	20	
	9月20日	H26年度第4回	日本女医会会議室	22	
	11月15日	H26年度第5回	日本女医会会議室	20	支部担当理事の配置を提案
2015	1月18日	H26年度第6回	京王プラザホテル	20	
	2月21日	H26年度第7回	日本女医会会議室	21	
	3月15日	H26年度第8回	日本女医会会議室	15	溝口昌子賞規定　支部担当理事を承認
	4月18日	H27年度第1回	日本女医会会議室	21	
	6月20日	H27年度第2回	日本女医会会議室	18	
	7月18日	H27年度第3回	日本女医会会議室	21	
	9月19日	H27年度第4回	日本女医会会議室	18	
	11月14日	H27年度第5回	日本女医会会議室	21	
2016	1月17日	H27年度第６回	京王プラザホテル	17	
	2月20日	H27年度第７回	日本女医会会議室	20	
	3月19日	H27年度第８回	日本女医会会議室	20	
	4月16日	H28年度第1回	日本女医会会議室	24	
	6月18日	H28年度第２回	日本女医会会議室	15	
	7月16日	H28年度第３回	日本女医会会議室	19	選挙制度改革委員会発足
	9月17日	H28年度第４回	日本女医会会議室	16	
	11月19日	H28年度第５回	日本女医会会議室	15	会誌発行回数の年3回への変更を承認
2017	1月15日	H28年度第６回	日本女医会会議室	17	山崎倫子賞規定を承認
	2月18日	H28年度第７回	日本女医会会議室	15	山本纊子会長を偲ぶ会開催を承認
	3月18日	H28年度第８回	日本女医会会議室	16	代表理事選挙にて前田佳子会長代行が新会長に選任される
	4月15日	H29年度第１回	日本女医会会議室	17	役員選挙制度改正案を承認
	6月17日	H29年度第２回	日本女医会会議室	15	
	7月15日	H29年度第３回	日本女医会会議室	13	
	9月9日	H29年度第４回	日本女医会会議室	17	
	11月18日	H29年度第５回	日本女医会会議室	9	
2018	1月21日	H29年度第６回	京王プラザホテル	18	
	2月17日	H29年度第７回	日本女医会会議室	14	山本纊子賞規定を承認
	3月17日	H29年度第８回	日本女医会会議室	15	功労会員及び永年会員表彰規定を承認
	4月21日	H30年度第１回	日本女医会会議室	14	
	6月16日	H30年度第２回	日本女医会会議室	16	メーリングリスト作成を承認。青山宮野ビルの老朽化と管理状態問題が浮上
	7月21日	H30年度第３回	日本女医会会議室	14	映画「一粒の麦」への名義後援を承認。120 周年記念誌の発行を承認
	9月15日	H30年度第４回	日本女医会会議室	14	
	11月17日	H30年度第５回	日本女医会会議室	13	
2019	1月20日	H30年度第６回	京王プラザホテル	13	学生会員規定の改訂を承認
	3月16日	H30年度第７回	日本女医会会議室	14	
	4月20日	R１年度第１回	日本女医会会議室	12	リニューアルされた荻野吟子賞の副賞が披露される
	6月15日	R１年度第２回	日本女医会会議室	14	青山宮野ビルの事務所売却と事務局の移転先を承認
	7月20日	R１年度第３回	日本女医会会議室	12	
	9月21日	R１年度第４回	日本女医会会議室	13	
	11月16日	R１年度第５回	日本女医会会議室	13	賛助会員規定（新設）を承認
2020	1月19日	R１年度第６回	日本女医会会議室	12	
	3月21日	R１年度第７回	オンライン開催	12	
	4月7日	臨時	オンライン開催	12	第 65 回定時総会はオンライン開催に決定
	4月18日	R２年度第１回	オンライン開催	13	
	6月20日	R２年度第２回	オンライン開催	12	

年	開催日	回	開催場所	出席者	特記事項
2020	7月18日	R2年度第3回	オンライン開催	15	
	8月31日	臨時	オンライン開催	15	
	9月19日	R2年度第4回	オンライン開催	15	
	10月15日	臨時	オンライン開催	14	
	11月21日	R2年度第5回	オンライン開催	15	
2021	1月17日	R2年度第6回	オンライン開催	14	第 66 回定時総会はオンライン開催、栃木開催は延期と決定
	3月20日	R2年度第7回	オンライン開催	13	
	4月17日	R3年度第1回	オンライン開催	14	
	6月19日	R3年度第2回	オンライン開催	14	
	7月17日	R3年度第3回	オンライン開催	15	
	9月18日	R3年度第4回	オンライン開催	15	120 周年記念誌（日本女医会百年史追補版）編集委員会発足
	11月20日	R3年度第5回	オンライン開催	15	

定時総会一覧

開催日	回	開催場所	出席者	備考
2002年5月19日	第47回	京王プラザホテル	143名	
2003年5月17日	第48回	京王プラザホテル	111名	役員改選にて橋下葉子会長が再任
2004年5月15日	第49回	ホテル青森	88名	
2005年5月21日	第50回	ウェスティンナゴヤキャッスル	124名	
2006年5月20日	第51回	京王プラザホテル	97名	役員改選にて小田泰子が新会長に選出される
2007年5月19日	第52回	パシフィコ横浜会議センター	116名	
2008年5月18日	第53回	京王プラザホテル	115名	会長に小田泰子が再選される
2009年5月18日	第54回	ホテルグランピア大阪	120名	
2010年5月15日	第55回	京王プラザホテル	104名	役員改選が行われ、津田喬子が新会長に選任される
2011年5月29日	第56回	京王プラザホテル	126名	公益法人化に必要な「社団法人日本女医会定款の変更」について承認されるも、定款改正に必要な定数を満たさず、後日臨時総会、評議員会を開催することとなった
2012年5月20日	第57回	岐阜・都ホテル	115名	役員改選にて津田喬子が会長に再任される
2013年5月19日	第58回	仙台国際ホテル	88名	第1回支部・本部連絡会を開催。出席者50名
2014年5月18日	第59回	京王プラザホテル	258名	約30年ぶりの役員選挙にて、新理事25名、新監事2名が選出され、山本纊子が新会長に選任される。役員定数の変更を含む定款の変更案が承認される
2015年5月17日	第60回	ホテルメトロポリタン高崎	83名	
2016年5月15日	第61回	京王プラザホテル	251名	役員選挙にて21人が理事に選出され、会長選挙にて山本纊子会長が再任された。夜には同ホテルにて東京都支部連合会の企画による会員懇親会を行い、ジョン・チャヌ氏による華麗なバイオリンコンサートを堪能した
2017年5月14日	第62回	パレスホテル大宮	71名	理事の選出を地域別に定数を定めだ役員選出の規定の改正」が承認され、2018年から実施されることとなった
2018年5月20日	第63回	京王プラザホテル	69名	役員改選にて、前田佳子会長が再任される。功労会員、永年会員が初表彰される。2019年5月19日
2019年5月19日	第64回	札幌グランドホテル	41名	日本女医会事務所の移転案が承認される
2020年5月17日	第65回	オンライン	20名	5.25　日本女医会臨時理事会で代表理事（会長）の選出が行われ、大谷智子理事が第12代日本女医会会長に就任
2021年5月16日	第66回	オンライン	49名	

開催講演会一覧

●学術講演会

開催年月日	会議名	開催場所	講演名	講師名（肩書）
2002（平成 14）10.26	平成 14 年度学術講習会研修会	東京都多摩老人医療センター	高齢者糖尿病の管理の視点を問い直す	井藤英喜（東京都多摩老人医療センター院長）
			細胞の老化・死と個体の老化・疾病・死についての基本的理解のために	佐藤秩子（愛知医科大学加齢医学研究所）
2004（平成 16）1.17	平成 15 年度学術講演会	東京・京王プラザホテル	日常診療に於けるリスクマネージメントのポイント	梅澤昭子（東北大学病院医療安全推進室副室長）
2005（平成 17）10.22	平成 17 年度学術講演会		睡眠治療の重要性	伊藤洋（東京慈恵会医科大学精神医学講座）
2008（平成 20）3.2	平成 19 年度学術講演会	愛知県医師会館	認知症を考える　目で見る認知症	山本纊子（日本女医会学術部）
			認知症の人とどう向き合うかーケアのこつー	中村祐子（社会福祉法人仁至会認知症介護研究・研修大府センターソーシャルワーカー、名古屋大学大学院教育発達科学研究科博士課程）
2009（平成 21）2.1	第 23 回日本・アラブ女性交流事業公開フォーラム 平成 21 年度学術講演会	東京・女性と仕事の未来館	医療におけるリーダーシップの達成とその成果	大森安恵（東京女子医科大学名誉教授、同大学糖尿病センター前所長）
			ヨルダンにおける女性への教育など	ファリズ（ヨルダン放射線医）
			エジプトを統治した７人の女性など	ヘルミー（エジプト国家母子評議会上席顧問）
			日本における男女共同参画プログラムの実情と今後について	上川陽子（前内閣府男女共同参画・少子化担当特命大臣）
			シリアの女性の社会進出と国家支援など	アリ（シリア代理大使）

●国際女医会議学術講演会

開催年月日	会議名	開催場所	講演名	講師名（肩書）
2004（平成 16）7.29–7.31	第 26 回国際女医会議学術講演会	東京・京王プラザホテル	女性と糖尿病	大森安恵（東日本循環器病院糖尿病センター長、東京女子医科大学名誉教授）
7.29			遺伝子診断と治療①遺伝子イメージング	中村佳代子（慶應義塾大学医学部放射線科講師）
7.30			遺伝子診断と治療②神経筋疾患における DNA 技術の臨床応用	齋藤加代子（東京女子医科大学附属遺伝子医療センター教授）
7.31			女性と医学、思春期の性	津田喬子（名古屋市立大学大学院研究科危機管理医学（麻酔・蘇生学）助教授）

●その他講演会

開催年月日	会議名	開催場所	講演名	講師名（肩書）
2013（平成 25）3.24	創立 110 周年ならびに公益社団法人認定記念公開講演会	東京・京王プラザホテル	iPS 細胞の網膜変性疾患への応用	髙橋政代（理化学研究所　網膜再生医療研究開発プロジェクトリーダー）

●医学を志す女性のためのキャリアデザインセミナー／キャリアシンポジウム

開催年月日	回	開催場所	メインテーマ	講演名	講師名（肩書）	備考
2007（平成 19）12.9	第 1 回	東京・女性と仕事の未来館	ペーパードクターにならないで	女性医師のキャリアデザイン	山本由紀子（AVM 東京キャリアアドバイサー）	
				女性医師の支援について	菊岡修一（厚生労働省医政局総務課保健医療技術調整官）	
				大学病院で臨床医として働く	大谷智子（東京女子医科大学東医療センター小児科）	
				女性総合医療を目指して開業医として働く（？）	対馬ルリ子（ウイミンズウエルネス銀座クリニック院長、産婦人科）	
				診療コーディネータ育成と女性医師登用への取り組み	福島裕之（慶應義塾大学医学部小児科医局長）	
				耳鼻科から感染症専門家へ、そして行政職として働く（？）	岩﨑惠美子（仙台市副市長、熱帯医学、耳鼻科）	

開催年月日	回	開催場所	メインテーマ	講演名	講師名（肩書）	備考
2008 （平成 20） 9.21	第 2 回	東京・女性と仕事の未来館	キャリアもライフもピカピカに磨こう	女性医師の現状とキャリアデザインのすすめ	荒木葉子（荒木労働衛生コンサルタント事務所所長）	
				【女性医局】における女性医師支援	長瀬淑子（株式会社グランツ　取締役）	
				保育とワークシェアによる女性医学研究者支援	斎藤加代子（東京女子医科大学付属遺伝子医療センター所長、教授）	
			先輩女性医師のキャリアを聞こう	ママでも救命救急医！	並木みずほ（東京女子医科大学救命救急センター助教、救急医学）	
				行政職としての女性医師の働き方	住友眞佐美（東京都福祉保健局保健政策部長）	
				留学を経てグローバルな医療をめざす	新明裕子（聖マリアンナ医科大学医長、血液腫瘍内科）	
				こころの平和と社会の平和　政治家・臨床医・意識変革活動	水島広子（対人関係療法専門クリニック院長、前衆議院議員、AHJ 代表、精神科医）	
				女性のための「私のクリニック」を開設して	平田雅子（私のクリニック目白院長、皮膚科・美容皮膚科・内科）	
2009 （平成 21） 10.25	第 3 回	東京・女性と仕事の未来館	女性が働き続けられる環境の実現に向けて	日本医師会「女性医師の勤務環境の現況に関する調査報告」	秋葉則子（日本女医会　理事）	
				Website「ママはお医者さん」での試み–子育て中女性医師の現場の切実な声	岡崎みさと（国際医療福祉大学三田病院乳腺センター）	
				妊娠・出産・育児中の女性医師が働きやすい環境づくり	安達知子（母子愛育会愛育病院産婦人科部長）	
				Dr.MOM　Nursery School を運営して見えてきた保育の課題	池田美智子（池田耳鼻咽喉科院長）	
				～女性医師を活かせ～医師不足対策の新戦略	春日義生（足利赤十字病院副院長）	
				NPO 法人フローレンスとの派遣型病児保育メディカル版開発の試み	大野京子（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科眼科学分野准教授）	
				女性医師支援について東京都の行政の立場から	大久保さつき（東京都福祉保健局参事）	
			パネルディスカッション講演	女性医師が働き続けられる環境の実現に向けた取組について	伊岐典子（厚生労働省雇用均等・児童家庭局）	
2010 （平成 22） 12.5	第 4 回	東京・女性と仕事の未来館	基調講演 世界に羽ばたく日本の女性医師達！	女性医師支援	小宮山洋子（厚生労働副大臣）	
				世界の医療団について	エフテル・ブリュン（認定 NPO 法人世界の医療団事務局長）	
				英国女性医師事情	川上玲奈（London 大学 King's College 医学部卒）	
			女性医師が仕事をなぜやめる？	学生アンケート分析	前田佳子（日本女医会理事）	
				女性医師が仕事を止める理由～大学病院勤務医の立場から	大谷智子（日本女医会理事）	
				産婦人科クリニック院長の立場から	対馬ルリ子（日本女医会理事）	
				働く女性医師の今と昔（子供の受験など）	小関温子（日本女医会理事）	
			パネルディスカッション講演	女性医師が辞めない職場作りに向けて	石井淳子（厚生労働省雇用均等・児童家庭局少子化対策担当審議官）	
				女性医師がやめない職場とは	清野佳紀（大阪厚生年金病院名誉院長）	
				女性医師が辞めない職場とは～医学生の立場から期待すること～	中島マリア（東京女子医科大学 5 年生）	
2011 （平成 23） 9.4	第 5 回	東京・持田製薬本社ルークホール	各大学における女性医師支援の成果と問題点	東京女子医科大学から	川上順子（東京女子医科大学教授）	
				東邦大学医学部から	中野弘一（東邦大学医学部教授）	
				自治医科大学から	桃井真里子（自治医科大学教授）	
				三重大学医学部から	冨本秀和（三重大学医学部教授）	
			パネルディスカッション講演	医学界における男女共同参画	福下雄二（内閣府審議官）	
				大学等の女性医師支援から医学界における男女共同参画社会へ	小笠原真澄（日本医師会男女共同参画委員会委員長）	
				報道の立場から	岩田公雄（読売テレビ特別解説委員）	
2012 （平成 24） 10.14	第 6 回	東京・持田製薬本社ルークホール	男性医師から言いたいこと	男性医師の立場から	高久史麿（日本医学会会長）	
				医学を志す女性に望むこと－男性医師から	溝口秀昭（東京女子医科大学名誉教授）	
				男性医師から言いたいこと	小森貴（日本医師会常任理事）	
				男性医師から言いたいこと	福田敏雅（日本眼科医会常任理事）	
				男性医師から言いたいこと	久保田英（東京女子医科大学救急医学講座非常勤講師）	
				男性医師から言いたいこと	宮田満（日経 BP 社特命編集委員）	
				男性医師から言いたいこと	八木澤隆史（東京女子医科大学病院泌尿器科医師）	

開催年月日	回	開催場所	メインテーマ	講演名	講師名（肩書）	備考
2013 （平成 25） 10.20	第 7 回	東京・主婦会館プラザエフ	羽ばたく女性医師とともに考える―将来の夢に向かって	基調講演	横倉義武（日本医師会会長）	
				夢を育む学生生活	高橋成奈（昭和大学医学部４年生）	
				ママさん研修医として働くこと	平山真奈（東京女子医科大学病院研修医）	
				これまでの仕事を振り返って	上石晶子（社会福祉法人日本心身障害児協会嶋田療育センター）	
				集団の健康を考える医師の仕事	泉陽子（厚生労働省労働基準局労働衛生課長）	
				将来の夢に向かって　ー Passion, Mission そして Vision をもってー	山内英子（聖路加国際病院ブレストセンター長）	
				女性はもっと活躍できる　ーより社会を元気に、より人生を豊かにー	岩田喜美枝（公益財団法人 21 世紀職業財団会長、元厚生労働省雇用均等・児童家庭局長、元資生堂代表取締役副社長）	
					南砂（読売新聞東京本社編集局次長、医療情報部長）	
2014 （平成 26） 11.2	第 8 回	東京・持田製薬本社ルークホール	男女共同参画の現状と今後の目標	日本医師会の男女共同参画の取り組み	笠井英夫（日本医師会常任理事・男女共同参画担当）	
				男性医師からみた男女共同参画	岩中督（東京大学小児外科教授）	
				女性医師が活躍するために必要な策：外科において	冨澤康子（東京女子医科大学心臓血管外科）	
				泌尿器科学会における男女共同参画の現状と今後の目標	高橋悟（日本大学医学部泌尿器科学系泌尿器科学分野教授）	
				ロールモデルとネットワーキング	大隅典子（東北大学大学院医学系研究科発生発達神経科学分野教授）	
2015 （平成 27） 11.15	第 9 回	東京・持田製薬本社ルークホール	ワークライフバランスについて先輩たちに学ぼう！	外科医の育児、一年生	清水由実（東京女子医科大学　第二外科）	
				「私のワークライフバランス？人生はいつも予想外、必要なのは想像力と適応力 -」	瀬戸口志保（至誠会第二病院　泌尿器科）	
				ワークライフバランス　本音とコツ	高橋夕芙子（東京女子医科大学附属青山病院循環器内科）	
				私の履歴書	石井史（いしい内科クリニック）	
				日本医師会の男女共同参画・女性医師支援と私のやってきたこと	保坂シゲリ（日本医師会　女性医師支援委員会委員長）	
2016 （平成 28） 10.30	第 10 回	東京・持田製薬本社ルークホール	変革は女性リーダーから	リサーチマインドのある医師になる	金井弥栄（慶応大学病理学教授）	
				彌生塾がリーダーを創出するために必要なこと	内田啓子（東京女子医科大学　保健管理センター教授）	
				痛み治療に従事してー麻酔・ペインクリニック・緩和医療ー	樋口比登実（昭和大学病院緩和医療科教授）	
				女性医師支援への日本医師会の取り組み	今村定臣（日本医師会常任理事男女共同参画担当）	
2017 （平成 29） 10.28	第 11 回	東京・持田製薬本社ルークホール	ポジティブ・アクションのススメ	日本大学の男女共同参画におけるポジティブ・アクション	石毛　美夏（日本大学医学部小児科専任講師）	
				ポジティブ・アクションにむけて―聖マリアンナ医科大学の女性医師支援の現状と課題	髙田礼子（聖マリアンナ医科大学　予防医学　教授）	
				ビッグボスと共に取り組むキャリア支援　～ TOHO Style ～	片桐由起子（東邦大学医学部産科婦人科学講座教授）	
				女性医師を育てるために：発展途上の立場で考えること	三澤園子（千葉大学医学部附属病院神経内科准教授）	
				日本医師会における男女共同参画への取り組み	温泉川梅代（公益社団法人日本医師会常任理事）	
2018 （平成 30） 10.20	第 12 回	東京・持田製薬本社ルークホール	我が国の男女共同参画―隣の芝生は青いですか？―	政治分野における男女共同参画	薬師寺みちよ（参議院議員）	
				武田薬品のダイバーシティ＆インクルージョン～人事制度拡充から両立支援のその先へ～	萩森耕平（武田薬品工業株式会社 JPBU 人事部）	
				日本医師会の男女共同参画の現状と今後の女性医師支援	平川俊夫（日本医師会男女共同参画担当理事）	
2019 （令和元） 10.12	第 13 回					台風 19 号直撃のため中止
2020 （令和 2） 10.23	第 13 回	オンライン	国際基準で考える男女共同参画―SDGs 5. ジェンダー平等を実現しよう―」	女性記者と考える民主主義～政権とメディア～	望月衣塑子（東京新聞社会部記者）	日本女医会として初のオンライン開催
2021 （令和 3） 10.29	第 14 回	オンライン	あきらめない	あきらめない～女性のキャリアを考える	村木厚子（津田塾大学 客員教授）	

●長寿社会福祉委員会講演会

開催年月日	回	開催場所	メインテーマ	講演名	講師名（肩書）
2013（平成 25）2.9	第 1 回	東京・主婦会館プラザエフ	高齢者医療を考える〜急性期から在宅医療まで〜	医師の立場から／高齢者救急医療の立場から	曽我幸弘（東京女子医科大学救急医学客員教授）
				療養型医療の立場から	山本纊子（並木病院院長）
				訪問診療の立場から	高瀬義昌（たかせクリニック院長）
				看護師の立場から／老健の立場から	佐々木てい子（ホスピア三軒茶屋副施設長）
				訪問看護の立場から	秋山正子（ケアーズ白十字訪問看護ステーション統括所長）
2014（平成 26）2.8	第 2 回	神奈川・崎陽軒会議室	高齢者医療を考える	高齢者の救急搬送の現状と問題点	曽我幸弘（東京女子医科大学救急医学、宮古島・鎌倉 Dr.Gon 診療所所長）
				訪問診療の現場から	佐野順子（医療法人順黎会あさお百合クリニック理事長）
				高齢者が望む医療に向き合って	町屋千鶴子（東京女子医科大学附属八千代医療センター医療支援室看護師長）
2015（平成 27）2.28	第 3 回	東京・新宿住友ホール	認知症を考える	地域における認知症の現状	山本纊子（公益社団法人日本女医会会長）
				認知症の診断、原因疾患、薬物治療〜アルツハイマー型認知症への血管危険因子の関与を含めて〜	北川一夫（東京女子医科大学神経内科主任教授）
2016（平成 28）2.28	第 4 回	愛知県医師会館	認知症を考える	認知症をよく知って、上手に付き合うには？	山本纊子（藤田保健衛生大学名誉教授並木病院院長）
				家族・地域で認知症をみるには	若尾すえ子（認知症の人と家族の会世話人）
2017（平成 29）1.29	第 5 回	東京・アルカディア市ヶ谷私学会館	加齢と視角―見える幸せ―	加齢に伴う眼の病気	須藤史子（東京女子医科大学東医療センター教授）／高齢者の視機能ー安全で健やかに生活するためにー・中野匡（東京慈恵会医科大学准教授）
2018（平成 30）3.18	第 6 回	東京・アルカディア市ヶ谷私学会館	健康寿命をのばすために	認知症の早期発見と進行予防	吉澤浩志（東京女子医科大学神経内科講師）
				高齢者の難聴と向き合う	小川郁（慶應義塾大学医学部耳鼻咽喉科教授）
2019（令和元）3.17	第 7 回	東京・アルカディア市ヶ谷私学会館	目指せ！健康長寿	握力は健康の指標：―食生活改善でフレイル予防を！	西山緑（獨協医科大学地域医療教育センター教授）
				日常のトレーニングでいつまでも快適に〜サルコペニア予防のために〜	古市照人（獨協医科大学名誉教授、介護老人保健施設ホスピア宇都宮施設長）
2020（令和 2）2.16	第 8 回	東京・アルカディア市ヶ谷私学会館	そのシミにご用心〜皮膚の老化と皮膚がんについて〜	いつまでも若々しい皮膚を保つために知っておきたい事！	船坂陽子（日本医科大学医学部皮膚科教授）
				あなたの知らない皮膚がんの世界ーその、しみ、ほくろは大丈夫？ー	岩澤うつぎ（東京都立広尾病院皮膚科部長）
2021（令和 3）2.21	第 9 回	オンライン	あなたと共に歳をとる腎臓の話〜慢性腎臓病（CKD）にならないために〜	腎臓のことをもっと良く知りましょう！	内田啓子（東京女子医科大学腎臓内科教授）
				腎臓を老化から守る生活習慣が大切です	佐藤尚代（東京女子医科大学腎臓内科 講師）
2021（令和 3）11.27	第 10 回	オンライン		高齢者の睡眠障害について〜以前に比べて寝付けない、長く眠れないのは歳のせい？〜	降矢芳子（東京女子医科大学東医療センターリハビリテーション科教授）

●十代の性の健康支援ネットワーク事業ゆいネット講演会

開催年月日	開催場所	メインテーマ	講演名	講師名（肩書）
2013（平成 25）3.17	東京・主婦会館プラザエフ	〜女性や子どもの視点に立った支援我々にできることは何か？〜	24 時間ワンストップセンター「性暴力救援センター大阪」の活動から	加藤治子（阪南中央病院産婦人科医）
2013（平成 25）10.13	ゆいネット岐阜とゆいネット名古屋合同講演会岐阜・じゅうろくプラザ		〜24 時間対応病院拠点型レイプクライシス・ワンストップセンター〜「大阪の SACHICO から伝えたいこと」	加藤治子（性暴力救援センター大阪（SACHICO）代表、阪南中央病院産婦人科医）
2014（平成 26）10.25	沖縄県男女共同参画センターてぃるる		子どもたちを被害者にも加害者にもさせないために今！できること〜10 代の性暴力被害の早期発見・支援・予防〜／子どもたちの生と性の健康を守るために	対馬ルリ子（対馬ルリ子女性ライフクリニック銀座院長）
2017（平成 29）3.11	東京・アルカディア市ヶ谷私学会館	今、若い女性の心と身体の健康について何を支援すべきか	十代の妊娠の現状と課題	金子法子（針間産婦人科院長）
			岐阜県における犯罪被害者支援センターの取り組み	朝倉純子（岐阜県こども家庭課）
2018（平成 30）1. 20	東京・アルカディア市ヶ谷私学会館	若い女性の心と体のケアを考える	女性アスリートの身体と心のケア	宮﨑千恵（日本女医会理事）
			性犯罪被害にあうということ	小林美佳（性犯罪被害者支援活動「みかつき」）
2019（令和元）3.3	東京・アルカディア市ヶ谷私学会館	ダメ、ゼッタイ！十代の薬物乱用・依存―忍び寄る違法薬物から若者を守る―	十代における危険ドラッグ・薬物乱用の実態	奥野直人（麹町警察署生活安全課少年係係長）
			薬物中毒・依存―青少年を中心に―	松本俊彦（国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部部長、病院薬物依存症センター長）

●女性の健康支援事業講演会

開催年月日	回	開催場所	メインテーマ	講演名	講師名（肩書）
2020 （令和２） 1.25	第１回	東京・アルカディア市ヶ谷私学会館	一緒に学びませんか？―子宮頸がんワクチン（HPVワクチン）について―	子宮頸がんはなぜ予防できるのか？	上坊敏子（JCHO 相模野病院婦人科腫瘍センター顧問）
				HPV ワクチン：名古屋スタディとその反響	鈴木貞夫（名古屋市立大学医学部公衆衛生学教授）
2021 （令和３） 2.7	第２回	オンライン	新型コロナウイルス感染症〜私達はどう向き合うか〜	感染症の備えとしての健康づくり	黒澤一（東北大学大学院医学系研究科産業医学分野教授）
				新型コロナウイルス感染症が我々にもたらしたもの	賀来満夫（東北医科薬科大学医学部感染症学教室特任教授、東北大学名誉教授・客員教授／東京都参与）
				感染症「COVID-19」の実態から考える予防策〜途上国での感染症 現場での経験から〜	岩﨑惠美子（日本女医会宮城支部支部長、宮城県女医会会長）
2022 （令和４） 2.5	第３回	オンライン		コロナ禍における予期せぬ妊娠を考える―緊急ピル等も含めて―	安達知子（社会福祉法人恩賜財団母子愛育会総合母子保健センター愛育病院院長）

●軽井沢セミナー

開催年月日	回	テーマ	講師	所属	会場
2007.11	第１回	懇談会			ホテル鹿島の森
2008.11.8	第２回	女性の排尿障害 ―尿失禁と過活動膀胱―	前田佳子	青山病院講師	〃
2009.10.31	第３回	めまいとは目がまわること	新井寧子	前東京女子医大東医療センター耳鼻科教授	軽井沢プリンスホテル
2010.10.30	第４回	皮膚のアンチエージング―しみ、しわの原因と対策―	溝口昌子	聖マリアンナ医大名誉教授	〃
2011.10.29	第５回	音楽療法	馬場　存	慶應大精神科	〃
2012.10.28	第６回	アンチエイジングクリニックの臨床の実際―予防医学検査と治療を中心に―	上符正志	銀座上符メディカルクリニック院長	グランドエクシブ軽井沢
2013.10.26	第７回	女性のQOLの向上を目指して―子宮頸がんとヒトパピローマウィルス―	安達知子	愛育病院副院長	軽井沢プリンスホテル
2014.10.25	第８回	適切な血圧コントロールで血管年齢を若く保つ	田邊晶代	国際医療センター	万平ホテル
2015.10.24	第９回	長寿社会を明るく生きる	山本纊子	日本女医会会長	〃
2016.10.22	第10回	最近の乳がん検診事情	磯貝晶子	聖マリアンナ医大東横病院	〃
2017.10.21	第11回	緩和ケアとは	間宮敬子	信州大学教授	〃
2018.10.27	第12回	繰り返すむくみ(血管浮腫)の原因は？―遺伝性血管性浮腫の原因と治療―	大谷智子	東京女子医大講師	〃
2019.10.5	第13回	糖尿病治療における最近の話題	岩﨑直子	東京女子医大教授	〃

●ブロック（別）懇談会

開催年月日	回	支部	開催地	会場	出席者数		
					支部	理事	計
1998（平成 10）11. 7	第 1 回	神奈川	横浜市	大雅飯店	20	12	32
1999（平成 11）11.13	第 2 回	愛知県	名古屋市	愛知県医師会館	36	16	52
2000（平成 12）11.12	第 3 回	宮　城	仙台市	仙台国際ホテル	14	10	24
2001（平成 13）6.17	第 4 回	岡　山	岡山市	ホテルニュー岡山	29	11	40
2001（平成 13）10.14	第 5 回	富　山	富山市	富山第一ホテル	10	19	29
2002（平成 14）11.10	第 6 回	鳥　取	米子市	米子国際ホテル	7	5	12
2003（平成 15）11.9	第 7 回	岩　手	盛岡市	そば会席「東家」	15	7	22
2005（平成 17）3.6	第 8 回	京　都	京都市	京都東急ホテル	22	15	37
2005（平成 17）11.19	第 9 回	群　馬	前橋市	マーキュリーホテル	22	6	28
2007（平成 19）4.22	第 10 回	三　重	津市	ホテルグリーンパーク津	28	6	34
2009（平成 21）3.1	第 11 回	奈　良	橿原市	奈良県医師会館	18	6	24
2009（平成 21）9.6	第 12 回	福　島	福島市	福島ビューホテル	20	7	27
2009（平成 21）11.15	第 13 回	兵　庫	神戸市	兵庫県医師会館	10	7	17
2010（平成 22）1.17	第 14 回	石　川	金沢市	石川県医師会館	21	8	29
2011（平成 23）2.27	第 15 回	岐　阜	岐阜市	じゅうろくプラザ	30	8	38
2012（平成 24）2.25	第 16 回	佐　賀	佐賀市	ホテルニューオータニ佐賀	44	11	55
2014（平成 26）3.15	第 17 回	富　山	富山市	富山国際会議場	18	16	34
2014（平成 26）11.16	第 18 回	岩　手	盛岡市	岩手県医師会館	12	7	19
2015（平成 27）10.11	第 19 回	鹿児島	鹿児島市	鹿児島県医師会館	5	8	13
2017（平成 29）2.19	第 20 回	長　野	松本市	松本市中央公民館（M ウイング）	16	9	25
2018（平成 30）2.18	第 21 回	長　崎	長崎市	長崎県医師会館	20	5	25
2019（平成 31）2.24	第 22 回	大　阪	大阪市	ホテルグランヴィア大阪	17	10	27
2019（令和元）6.16	第 23 回	山　梨	甲府市	常盤ホテル	14	7	21
2022（令和 4）1.30	第 24 回	鳥　取	オンライン		7	13	20

日本女医会関連の受賞者一覧

●吉岡彌生賞

回	年	受賞者氏名
第34回	2002（平成13）	関根みよ
第35回	2003（平成14）	安達恵美子
第36回	2004（平成15）	該当者なし
第37回	2005（平成16）	津田喬子、高原照美、野澤良美
第38回	2006（平成17）	松本文繪、清水夏繪、嶋崎紀代子
第39回	2012（平成18）	石原幸子、湯澤美都子、加藤竺子
第40回	2007（平成19）	竹内静香、伊藤千賀子、今野信子
第41回	2008（平成20）	川田喜代子、溝口昌子
第42回	2009（平成21）	青井禮子、酒井シヅ
第43回	2010（平成22）	中山年子、後藤節子
第44回	2011（平成23）	橋川ふさ子、安達知子、小田泰子、清島眞理子

回	年	受賞者氏名
第45回	2012（平成24）	該当者なし
第46回	2013（平成25）	市田蕗子
第47回	2014（平成26）	岩本絹子、野村芳子
第48回	2015（平成27）	黒﨑伸子
第49回	2016（平成28）	生野照子
第50回	2017（平成29）	山本明美
第51回	2018（平成30）	岩﨑直子
第52回	2019（令和元）	西山　緑
第53回	2020（令和2）	該当者なし
第54回	2021（令和3）	該当者なし

●荻野吟子賞

回	年	受賞者氏名
第19回	2001（平成13）	安藤まさ子、稲葉美佐子、亀崎善江
第20回	2002（平成14）	該当者なし
第21回	2003（平成15）	該当者なし
第22回	2004（平成16）	該当者なし
第23回	2005（平成17）	該当者なし
第24回	2006（平成18）	稲生　襄
第25回	2007（平成19）	吉本ミチ、緒方文江
第26回	2008（平成20）	該当者なし
第27回	2009（平成21）	石岡弘子、菅野喜與、大野照子
第28回	2010（平成22）	上野壽子、清水五百子
第29回	2011（平成23）	該当者なし
第30回	2012（平成24）	加藤治子
第31回	2013（平成25）	該当者なし
第32回	2014（平成26）	長柄光子
第33回	2015（平成27）	野崎京子
第34回	2016（平成28）	村田　郁
第35回	2017（平成29）	深井登紀子
第36回	2018（平成30）	堀本江美
第37回	2019（令和元）	小関温子
第38回	2020（令和2）	該当者なし
第39回	2021（令和3）	山崎トヨ

●学術研究助成（山﨑倫子賞）

回	年	受賞者氏名
第21回	2000（平成12）	小野昌美、永野千代子、藤井美穂
第22回	2001（平成13）	榎本京子、大西礼子、田辺晶代
第23回	2002（平成14）	荻田桂子、飯島尋子
第24回	2003（平成15）	竹宮孝子、田村悦代、矢口有乃
第25回	2004（平成16）	平井みさ子
第26回	2005（平成17）	上田嘉代子、塚田弥生、増子佳世
第27回	2006（平成18）	大屋敷純子、中神朋子、柳町　幸
第28回	2007（平成19）	大久保由美子、藤巻わかえ
第29回	2008（平成20）	上野惠子、小川葉子、吉田穂波
第30回	2009（平成21）	池田啓子、大家理恵、佐藤加代子
第31回	2010（平成22）	市川順子、野呂瀬一美
第32回	2011（平成23）	土屋　惠、服部典子、細谷紀子
第33回	2012（平成24）	齋木由利子、窪田泰江、坂根亜由子
第34回	2013（平成25）	岡野純子、小川葉子
第35回	2014（平成26）	入村　泉、黒瀬理恵、皆川智子
第36回	2015（平成27）	田中智子、三木明子
第37回	2016（平成28）	林　香、山崎理絵、筒井　幸（第１回山﨑倫子賞）
第38回	2017（平成29）	中司敦子、藤野志季、上田香織（第２回山﨑倫子賞）
第39回	2018（平成30）	覚道奈津子、山本和子、山原真子（第３回山﨑倫子賞）
第40回	2019（令和元）	向山順子、二口亜希子、野口　玲（第４回山﨑倫子賞）
第41回	2020（令和2）	藤井紀恵、水品佳子、加藤有加（第５回山﨑倫子賞）
第42回	2021（令和3）	藤岡真知子、津田さやか、佐々木槙子（第６回山﨑倫子賞）

●溝口昌子賞／山本纊子賞

溝口昌子賞		
回	年	受賞者氏名
第1回	2015（平成27）	野村幸世
第2回	2016（平成28）	清水優子
第3回	2017（平成29）	飯嶋　睦
第4回	2018（平成30）	蓮池由起子
第5回	2019（令和元）	市川弥生子
第6回	2020（令和2）	中川由紀
第7回	2021（令和3）	宮川　史

山本纊子賞		
回	年	受賞者氏名
第1回	2018（平成30）	皆川智子
第2回	2019（令和1）	平松　綾
第3回	2020（令和2）	鎌田ことえ
第4回	2021（令和3）	該当者なし

功労会員・永年会員一覧

功労会員　会長経験者または役員を５期（通算10年以上）務めた、75歳以上の会員（支部別、五十音順）

2017（平成 29）年度

会長経験者

氏名	支部	氏名	支部
小田泰子	宮城	橋本葉子	東女内

通算 10 年以上の役員経験者

氏名	支部	氏名	支部	氏名	支部	氏名	支部	氏名	支部	氏名	支部
山本蒔子	宮城	山崎トヨ	栃木	稲生　襄	神奈川	中濱昌子	神奈川	森川由起子	足立	青井禮子	葛飾
鹿田儀子	北	栗原久子	新宿	大坪公子	世田谷	石原幸子	練馬	澤口彰子	港	松井比呂美	目黒
橋川ふさ子	愛知県	川田喜代子	大阪	加藤竺子	福岡						

2018（平成 30）年度

会長経験者

氏名	支部
津田 喬子	愛知県

通算 10 年以上の役員経験者

氏名	支部
古賀詔子	宮城

2019（平成 30・令和 2）年度～ 2021（令和 3）年度

該当者なし

永年会員　日本女医会の会員歴が30年以上、75歳以上の会員（支部別、五十音順）

2017（平成 29）年度

	氏名	支部	氏名	支部	氏名	支部	氏名	支部	氏名	支部
北海道・東北	河瀬珍実	北海道	佐久間和子	北海道	金田八重子	青森	髙木雅代	青森	髙松むつ	青森
	藤盛尚子	青森	横内幸子	青森	秋山まり子	秋田	金子ミサヲ	秋田	髙階　髙	秋田
	高橋和子	秋田	小田泰子	宮城	菅野喜與	宮城	佐々木和子	宮城	長谷川桂子	宮城
	山本蒔子	宮城	渡部光子	宮城	中島　達	福島	馬場恭子	福島		
関東	石井朗子	群馬	国府田利江	群馬	木暮満す子	群馬	松岡昭子	群馬	青木三重子	埼玉
	秋濱示江	埼玉	市川祥子	埼玉	小沢博子	埼玉	梶原敬子	埼玉	河鍋楠美	埼玉
	関根みよ	埼玉	中内玲子	埼玉	深井登起子	埼玉	多賀谷逸子	栃木	濱田登茂子	栃木
	堀口　文	栃木	山崎トヨ	栃木	芦立かつ	茨城	磯野和子	茨城	岩本淳子	茨城
	内田さく	茨城	延島幸子	茨城	深田チエ	茨城	秋葉則子	千葉	安住眞理子	千葉
	加次井郁子	千葉	清水夏繪	千葉	山本みどり	千葉	和田一恵	千葉	稲生　襄	神奈川
	大竹輝子	神奈川	風間蓉子	神奈川	桂　万寿美	神奈川	川田和子	神奈川	佐伯輝子	神奈川
	佐々木道子	神奈川	髙木久佳	神奈川	中島幹恵	神奈川	中濱昌子	神奈川	村上リョウ	神奈川
	山崎康子	神奈川								
東京	鈴木式子	足立	森川由起子	足立	加藤光子	荒川	林　節子	板橋	加藤香代子	大田
	青井禮子	葛飾	赤松曙子	葛飾	小林喜和子	葛飾	河野芙美子	北	鹿田儀子	北
	船木依子	北	赤塚智香	江東	西川トシ	品川	清水京子	渋谷	武石展代	渋谷
	吉田茂子	渋谷	長田清子	新宿	栗原久子	新宿	太田玲子	杉並	岡本和子	杉並
	木村典子	杉並	榊　多鶴子	杉並	中島桂子	杉並	山住美津子	杉並	甲子萬里子	墨田
	大坪公子	世田谷	林　福子	世田谷	矢後文子	世田谷	米谷美津子	世田谷	冨岡レイ	中央
	足立茂代子	練馬	石原幸子	練馬	岸　澄子	練馬	藤田　禧	練馬	渥美英子	文京
	石原道子	文京	澤口彰子	港	鈴木喜子	目黒	松井比呂美	目黒	今井三喜	東女内
	串田つゆ香	東女内	高橋通子	東女内	橋本葉子	東女内	池澤英子	都下東	伊藤翠子	都下東

	氏名	支部	氏名	支部	氏名	支部	氏名	支部	氏名	支部
東京	鵜川美登里	都下東	大林万知子	都下東	小川昭子	都下東	稚田清珠	都下東	中林瑞穂	都下東
	野々田宣子	都下東	松木耀子	都下東	王　瑞雲	都下西	尾形彰子	都下西	小田桐玲子	都下西
	金子智子	都下西	福岡多美子	都下西						
東海・信越・北陸	磯部弥生	山梨	上野美代	山梨	小田切澤子	山梨	苅部和子	山梨	早川操子	山梨
	北村佐千子	静岡	小林成子	静岡	土川知香枝	静岡	服部壽々代	静岡	伊藤貴子	愛知県
	伊藤美智子	愛知県	大橋和紀子	愛知県	加藤佳子	愛知県	苅谷　愛	愛知県	岸　清子	愛知県
	鈴木有紀子	愛知県	髙柳泰世	愛知県	田中くに	愛知県	中西綾子	愛知県	橋川ふさ子	愛知県
	長谷川恒子	愛知県	山田恵美子	愛知県	山本和子	愛知県	中西文子	長野	松尾智子	長野
	毛利泰子	岐阜	佐藤栄美子	新潟	永野　薫	新潟	鳴河みどり	富山	小山善子	石川
近畿	伊丹千寿子	大阪	岩崎和佳子	大阪	大矢明子	大阪	川田喜代子	大阪	河田富佐栄	大阪
	髙畑豊子	大阪	子安佳子	大阪	笹川美年子	大阪	野崎京子	大阪	保坂智子	大阪
	松岡和子	大阪	丸山優子	大阪	南　路子	大阪	渡辺良子	大阪	石崎富子	京都
	越智京子	京都	大石宏子	兵庫	斧　壽美子	兵庫	神澤光江	兵庫	北畠千賀子	兵庫
	木村久美子	兵庫	宮地民子	兵庫	森鼻麗子	兵庫				
中国・四国・九州	大淵淑子	岡山	延藤文子	岡山	浅田清子	広島	荒木寿枝	広島	大原靜子	広島
	桑原明子	広島	行武　民	広島	山本　節	山口	西山登紀子	愛媛	窪　斐子	高知
	加藤竺子	福岡	太田記代子	佐賀	緒方文江	佐賀			福島順子	佐賀
	諸井ミサヲ	佐賀	和田静江	佐賀	石井伸子	長崎	伊藤圭子	長崎	伊野照子	長崎
	河合紀生子	長崎	哲翁富士子	長崎	向井貴美江	大分	柳田喜美子	宮崎		

2018（平成 30）年度

	氏名	支部	氏名	支部	氏名	支部	氏名	支部	氏名	支部
北海道・東北	渡辺幸枝	北海道	古賀詔子	宮城						
関東	太田美つ子	群馬	養田芳子	埼玉	杉村茂子	栃木	船越由美子	栃木	松永幸子	茨城
	金子壽子	千葉	東山都紀	千葉	堀野雅子	千葉				
東京	堀之内八千代	品川	白浜優美子	杉並	小林玲子	世田谷				
東海・信越・北陸	本多和子	静岡	大橋照美	愛知県						
近畿	生野照子	大阪	杉本睦子	大阪						
中国・四国・九州	庄司眞喜	鳥取								

2019（平成 30・令和 1）年度

	氏名	支部	氏名	支部	氏名	支部	氏名	支部	氏名	支部
関東（東京除く）	伊藤洋子	群馬	鈴木　弓	群馬	細谷靖子	群馬	山田邦子	群馬	吉浜　敦	群馬
	新井寧子	栃木	清水いはね	栃木	野末悦子	神奈川				
東京	髙野加寿恵	渋谷	桂　アグリ	杉並	大塚貞子	都下西	若山喜久子	都下西		
東海・信越・北陸	藤巻篤子	富山								
近畿	米田桂子	大阪								
中国・四国・九州	門田正枝	岡山	天児　都	福岡						

2020（令和2）年度

	氏名	支部	氏名	支部	氏名	支部	氏名	支部	氏名	支部
関東（東京除く）	遠藤顕子	群馬	根岸和子	群馬						
東京	竹下寿子	新宿	土岐尚子	新宿	西嶋公子	都下西	本田正志	東女内		
東海・信越・北陸	渡辺のり子	愛知県								
近畿	阪口昌子	大阪	宮本治子	大阪						
中国・四国・九州	西山　苑	愛媛	町田照代	高知	宮本珪子	高知	遠山杏子	長崎	定　律子	熊本

2021（令和3）年度

	氏名	支部	氏名	支部	氏名	支部
関東（東京除く）	長谷川厚世	埼玉				
東京	山口いづみ	葛飾	花岡和賀子	中野		
東海・信越・北陸	上條節子	長野				
近畿	西嶋攝子	大阪	和田純子	大阪	石川知子	京都
中国・四国・九州	檜谷鞠子	広島				

国際女医会議開催一覧

●国際女医会議

開催年月日	回	開催国（開催都市）	テーマ	参加国・参加者数（日本からの参加者数）	備考
2004（平成16）7.28～8.1	第26回	日本（東京）	「Medicine in a New Life Style Medicine in a New Life Style」	30カ国･520名（233名）	元国連難民高等弁務官緒方貞子氏による基調講演「人間の安全保障と保健医療」、オープニングレセプションパーティーには皇后陛下（現上皇后美智子様）がご臨席。1日目【学術講演会】大森安恵「女性と糖尿病」、ランチョンレクチャー「子宮がんの画像について」、「関節リウマチの最近の薬物治療」、「痴呆の最前線」など、2日目【学術講演会】中村佳代子・齋藤加代子「遺伝子診断と治療」、ランチョンレクチャー「国際的な感染症に対する対処法」、「片頭痛の最前線」、「乳癌の画像診断」、3日目【学術講演会】津田喬子「女性と医学」、「思春期の性」、ランチョンレクチャー「ヘルスプロフェッショナルとしての私の新しいフィールド、―アフガン難民との日々―」、「高血圧症　最新の治療戦略」、「孤立性肺結節・高解像度 CT を用いた悪性の可能性」など。
2007（平成19）7.31～8.4	第27回	ガーナ（アクラ）	「Women in the World of Medicine」		初のアフリカ開催。最終日の総会で平敷淳子理事が国際女医会会長に選出される
2010（平成22）7.28～7.31	第28回	ドイツ（ミュンスター）	「Globalisation in Medicine-Challenges and Opportunities」	（27名）	
2013（平成25）7.23～8.3	第29回	韓国（ソウル）	「Medical Women Advance Global Health」	（50名）	招待講演 3 題、一般講演 23 題：口演 2 題と学生ポスター 3 題が受賞
2016（平成28）7.28～31	第30回	オーストリア（ウィーン）	「Generation Y Challenges of the Future for Female Medical Doctors.」	（13名）	
2019（令和元）7.25～29	第31回	アメリカ（ニューヨーク）	「Ambassadors of Change in a Challenging Global World」	1000名以上（30名）	創立 100 周年記念会議。国際女医会会長に Clarissa Fabre（イギリス）が就任。崎山比早子が優秀演題 3 位に入賞。100 年史映像では MWIA 元会長の小野春生、平敷淳子、元西太平洋地域担当副会長の山本纊子が紹介された。【演題口演発表】藤川眞理子「Tackling diabetes at national and local level in Japan」、前田佳子「Nationwide survey results on working environment of the woman doctors in Japan」。100 周年記念企画として日本女医会作品がアーカイブになった。

●国際女医会西太平洋地域会議

開催年月日	回	開催国（開催都市）	参加者数	備考
2002（平成14）5.10～13	第7回	台湾（台北市）		
2005（平成17）11.10～12	第8回	フィリピン（マニラ）	7名	
2008（平成20）10.17～18	第9回	オーストラリア（メルボルン）	13名	
2011（平成23）	第10回	日本（東京）		東日本大震災のため中止
2015（平成27）4.24～26	第11回	台湾（台北市）	10名	
2017（平成29）8.25～27	第12回	中国（香港）	10名	
2021（令和3）8.20～21		韓国（ソウル）		初のオンライン開催

日本女医会　支部活動の概要

●日本女医会の支部一覧

●北海道支部
●青森支部
●秋田支部
●山形支部
●岩手支部
●宮城支部
●福島支部
●群馬支部
●埼玉支部
●栃木支部
●茨城支部
●千葉支部
●東京都（五十音順）
足立支部　荒川支部　板橋支部　江戸川支部
大田支部　葛飾支部　北支部　江東支部
品川支部　渋谷支部　新宿支部　杉並支部
墨田支部　世田谷支部　台東支部　中央支部
千代田支部　豊島支部　中野支部　練馬支部
文京支部　港支部　目黒支部
東京女子医大学内支部　都下東支部　都下西支部
●神奈川支部
●山梨支部
●静岡支部
●愛知県支部
●長野支部
●岐阜支部
●新潟支部
●富山支部
●石川支部
●福井支部
●三重支部
●滋賀支部
●奈良支部
●大阪府
Ⅰ班　Ⅱ班
Ⅲ班　Ⅳ班
Ⅴ班
●京都支部
●兵庫支部
●和歌山支部
●岡山支部
●広島支部
●鳥取支部
●島根支部
●山口支部
●香川支部
●愛媛支部
●徳島支部
●高知支部
●福岡支部
●佐賀支部
●長崎支部
●熊本支部
●大分支部
●宮崎支部
●鹿児島支部
●沖縄支部

●支部概要および2002年～2021年の支部活動（役職、所属等は当時のもの）

北海道支部　■設立　1959年　■会員数　21名

北海道支部は 1959（昭和 34）年に故今鸞子を初代支部長として、57 名の会員で創立。2003（平成 15）年第 18 代支部長の藤井美穂が協力会員と北海道女性医師の会を設立し、現在は約 250 名の会員と第 21 代支部長の元活動している。

北海道各地の女性医師のサポートネットワーク構築、育児支援、就労環境調査、これからのキャリアを語る医師と学生の会の開催、性暴力の被害者支援と共に子供の健やかな成長を守る活動を行い、2012 年 NPO 法人の認定を受けて性暴力被害者支援センター北海道「SACRACH」を開設して相談、医療支援等を行っている。会報を毎年発刊し、ホームページ（https://www.hmwa.info/）や 100 号となるメールマガジン発刊、YouTube コラボ等で会員外にも発信している。

2019 年 5 月には故濱田啓子の尽力で日本女医会総会を札幌市で行い、多くの会員にご協力、ご参加いただいた。2018 年 5 月山本明美が吉岡彌生賞を受賞、2019 年 5 月堀本江美が荻野吟子賞を受賞した。

今後もダイバーシティを意識した支援、情報交換、研鑽を行ってきたいと考えている。　（文責：新谷朋子）

青森支部 ■設立 1957年 ■会員数 22名

青森支部は1957（昭和32）年10月、日本女医会会長佐藤やえを迎えて、青森市「芝楽」にて「研鑽と親睦」「権利の擁護」「社会への貢献」を理念として発足。

初代会長三上ホフは34年間会長を務め、30周年記念誌「やまぶき」を発刊。

二代目前田慶子は、NHK大河ドラマ「いのち」の主人公のモデルであり、15年間会長を務め、平成16年5月「第49回日本女医会総会」を青森市で開催。

三代目木村あさの（2008～2012）は本部や他県の支部訪問、各種会議にも積極的に参加し、女医会の存在意義を再確認し、学術に力を入れ「温故知新」の精神から「創刊号・復刻版」と55周年記念誌「やまぶき2」を発刊。

四代目金田八重子（2012～2015）は「青森県女医会だより」を創設、定期発行し各地区会員の連携を強化した。初めて市民公開講座を開催し「やまぶき3」を発刊。

五代目高橋英子（2015～2020）は「青森県女医会の発展」「県と県医師会の男女参画事業との連携」「日本女医会との関係強化」を三本柱として若手会員の獲得に努め、事務局の整備をした。「研鑽」「社会貢献」の理念から「日医生涯講座単位付の市民公開講座」など教育講演会を毎年開催し「やまぶき4」を発刊。

六代目村岡真理（2020～2022）はCOVID19感染拡大のなか、例年通り総会や講演会を対面開催する一方で、Web会議、公開講演会のハイブリッド開催など新たな活動形式を確立した。2021年の教育講演会「ジェンダーギャップやリプロダクティブヘルスライツについて」の内容を深く掘り下げ、「女性の健康を守るための取り組み」を新たな活動方針とした。

この講演会の演者である齋藤美貴（産婦人科）が今春七代目会長に就任した。理事も若返り新たな活動が更に発展していくことが期待される。

本州最北端の青森県だからこそ、全国、本部の皆様との活発な交流が必要だと考えている。今後若手の会員を増やし、時代に即した活動を続けて行くつもりである。

（文責：髙橋英子）

山形支部 ■設立 1969年 ■会員数 3名

2002年は介護保険が開始され3年目であり、医療が大きく変わる時期であった。

2007年には「痰の吸引を安全に行うための講習会」を開催した。

当時、人工呼吸器装着患者の訪問診療を行っていたところ、日本女医会から地方での『痰の吸引を安全に行うための講習会」の企画が立ち上がり、執行部の諸先輩方と一緒に、開催されたことは山形支部の誇りである。10月、すでに寒い日であったが、寒河江市の施設内でヘルパーなど専門職ばかりでなく、患者さんのご家族の参加も得て、地元の女性医師や耳鼻咽喉科の理事の先生が講師となり、講習会が開催された。挨拶をされた、当時の支部長の齋藤俊子も鬼籍に入り時間の流れを感じている。

その後、豊岡に支部長が変更してからは、会員は少ないが、総会への参加と女医会への年始の挨拶文を書くことを継続している。また、宮城支部からは毎年、総会にご招待され、宮城県内の勢いのある女性医師の活動に刺激を受けている。2020年から山形女性医師ネットワークのメンバーとして山形の女子医学生との懇親を深めるオンラインミーティングを定期的に開催し、若い世代との交流を重ねている。

山形には山形女性医師ネットワーク（YJIN）、医師会の男女共同参画委員会など女性医師のための会がいくつかあり、特に日本医師会で唯一の女性理事、神村裕子は山形県医師会の所属である。

今後は他の女性医師の会と連携して女性医師の活躍の場を広げていきたい。

（文責：豊岡志保）

宮城支部 ■設立 1958年 ■会員数 23名

宮城支部は昭和3年6月に、関清子を初代会長として設立された。昭和61年3月、臨時総会にて「宮城県女医会」と名称を変更している。現在、会長以下多くの日本女医会宮城支部会員が役員として活動しており、車の両輪のような状況にある。

昭和60年5月には松山京子が、昭和63年5月には長池博子が日本女医会吉岡彌生賞を受賞した。また、平成18年5月に小田泰子が日本女医会会長に就任した。

支部活動としては、若手女性医師支援事業として平成3年より研究助成金の授与、平成14年4月より女性健康相談室を立ち上げ、その成果が評価され、平成15年より、宮城県からの助成事業となった。同9年からは仙台市の委託事業として活動を継続している（コロナ禍の中、県からの助成金は中止）。また、女性の就業支援として、平成13年に設立されてから現在まで東北大学病院に病児保育施設の補助を行っている。また、東北大学病院に勤務する子育て中の女性医師の就業状況調査等を通して平成19年より宮城県、宮城県医師会と協力して、若い女性医師に対するキャリアデザイン支援事業を開始した。更に平成22年より県から地域医療再生事業の一環として助成を受け、宮城県女性医師支援センターを設立し、相談事業、講演会の開催ならびに子育てを支援できる情報の提供等に取り組んでいる。平成6年より日本女医会

からの助成金により、市民への健康啓発を目的に市民公開講演会を現在に至るまでほぼ毎年開催している。令和元年には宮城県女医会創立 60 周年記念「令和元年記念公開講演会」に順天堂大学医学部心臓血管外科、天野篤教授をお迎えして『心臓外科医一視同仁～長寿社会と心臓手術～』というタイトルで開催した際には約 300 人の市民が参加した。令和 3 年 10 月には感染対策を徹底したうえで、「認知症専門医の父が認知症になって感じたこと、気が付いたこと」の演題で故長谷川和夫氏のご子息の長谷川洋先生にご講演を頂いた。コロナ禍の中、状況次第では中止も見据えての講演会であったが、84 名と多くの方が参加し、市民の健康啓発に大切な事業で、私共の使命であることを再認識した。

（文責：岩﨑惠美子）

群馬支部 ■設立 1957年 ■会員数 33名

群馬支部の前身である群馬県女医会は、1947（昭和 22）年に群馬県女医第 1 号の真中すずを会長に会員 90 余名で発足し、1957（昭和 32）年より日本女医会群馬支部としても活動している。現在の会員数は 150 名となっている。会の目的である会員相互の親睦、学術の向上、地域医療への貢献の達成のため、毎年、講演会や公開セミナーを開催してきた。会員の専門科が多岐にわたっており種々の話題となっている。

最近の演題は、

- 群馬大学医学部救急救命センター開設に伴い「救急医学の現状」（2017 年）
- 「医療の質・安全の国際基準」（2018 年）
- 「女性のライフステージに応じたホルモン療法」（2019 年）
- 「明日からの診療に使える漢方薬」（2021 年）

2022 年は、群馬大学医学部初の女性教授、小和瀬桂子氏による「ダイバーシティ推進の取り組みと総合診療医の育成」という web 講演会を開催した。

2002 年以降の活動としては、第 5 代会長の田所浪子（2004（平成 16）年就任）は、2010（平成 22）年にそれまでの群馬県女性医師たちの歩みを記した「群馬県女医会 60 年史」を発刊した。それまで散逸していた写真や文章などを集め、また歴代の会長にも原稿を書いてもらい、貧しかった戦後の日本が復興し、発展していく中で女性医師たちが試行錯誤しながら自分たちの活動の場を模索し活躍する姿をはっきりと認識できるものとなっている。また、山田邦子が第 6 代会長であった 2015（平成 27）年 5 月には、日本女医会定時総会が高崎市で開催された。

日ごろの活動としては、医師不足が叫ばれる昨今、医師の働き方改革を前提にした女性医師支援に力を入れている。群馬県医師会、群馬県と協力して保育サポーターバンクを立ち上げ、女性医師の出産・育児にかかわる生活支援の取り組みを始め、順調に活動が進んでいる。また、群馬大学と共催し「医学生・研修医などをサポートするための会」を開いている。群馬県女医会として、女性医師のライフステージに合わせてキャリアを積める環境を整備していくことが喫緊の課題と考え、実現のための活動を目指している。

（文責：山下由起子）

埼玉支部 ■設立 1958年 ■会員数 69名

埼玉支部は 1958 年、故・東よりを初代支部長として発足した。

2001 年第 7 代支部長が深井登起子に代わり 2002 年日本女医会創立 100 周年を迎えた年に第 4 代支部長の関根みよが吉岡弥生賞、安藤まさ子が荻野吟子賞を受賞した。その後、2016 年に第 8 代支部長の村田郁、2017 年に第 7 代支部長の深井登起子が荻野吟子賞を受賞した。

埼玉県からの委託事業として女性医師支援センターの立ち上げに協力し相談業務を担った。現在は、埼玉県医師会の総合医局機構に移行した。9 つの埼玉県行政審査会、埼玉県医師会協力事業へ参加協力をしている。2000 年代以降は総会、講演会、懇親会を 7 月第 2 週の日曜日に開催している。懇親会は、公益社団法人日本女医会会長、埼玉県知事、埼玉県医師会長、副会長等を招き、会員が音楽好きなこともあり毎回埼玉県に縁のある音楽家に歌や楽器の演奏をお願いしている。また秋の学術講演会を 11 月の土曜または日曜に開催し、演者、会員の情報交換会を行っている。2017 年には第 62 回公益社団法人日本女医会定時総会、懇親会を埼玉支部主催で開催し小江戸川越観光、懇親会には雅楽師の東儀秀樹氏に演奏していただいた。

新型コロナウィルス感染症の影響で当支部の活動も制限されていたが、2022 年 7 月 10 日、第 64 回総会、懇親会を 3 年ぶりに来賓を招いて開催することができた。毎回、埼玉県医師会から出席していただいていた松本吉郎先生が今年は日本医師会長としての出席となり大変盛り上がった。その他の変化としては埼玉支部理事のほとんどが各地区の医師会の役員になっていたことである。今年は秋田県医師会、岐阜県医師会で女性会長が誕生した。今後、埼玉県医師会の女性役員も増加する事を予感した。

（文責：竹並　麗）

栃木支部 ■設立 1957年 ■会員数 50名

栃木支部は、1957（昭和32）年に発足。2002年当時の支部長は第3代目の大平民子（1997年～）、2003年より第4代：大野照子、2012年より第5代：船越由美子、2018年より第6代：山崎トヨ、2022年より馬場安紀子が第7代支部長を務めている。会員数は50名。

2003（平成15）年、日本女医会からの要請で第3回「十代の性と健康」指導者要請講座が宇都宮市で開催され186名の出席者があった。これを契機に、翌2004年より毎年の栃木支部総会時に学術講演会を開催しているが、2020、2021年は新型コロナ感染拡大のため中止となった。2012年に日本女医会が公益法人化して以降は、市民公開講演会として一般の方にも案内している。講師は主に県内の女性医師にお願いすることで、女医同士の交流拡大、医療連携にも役立っている。

2016（平成28）年には、栃木支部初のバス旅行「荻野吟子をめぐる旅」を企画実施した。旅程は、雑司ヶ谷霊園のお墓参りと生誕地の熊谷市俵瀬にある荻野吟子記念館見学。支部会員11名と家族1名の計12名が参加し、楽しい旅行となった。今後も、支部会員の交流を目的に旅行を企画する。

また、2021（令和3）年には、栃木支部会誌「野路」創刊号を発行した。創刊記念の特集として、国内及び栃木県の「女医の歴史」についてまとめ、栃木支部の活動の歴史、支部会員22人のエッセイを収録した。続刊を計画している。

2021年5月16日に第66回日本女医会定時総会を栃木県宇都宮市で開催することになり、2020年に実行委員会を結成し準備していたが、コロナ禍にて現地開催は中止となり、会員の望月善子による市民公開講演会「思春期からはじまる女性の健康update」をオンラインで配信した。なお、栃木開催の定時総会は、2023年5月21日に延期となり、現在準備中である。

2019年に支部会員の西山緑が栃木県2人目の吉岡彌生賞を受賞し、大きな喜びだった。今後も栃木支部の活性化を図り日本女医会の発展に寄与したい。　（文責：馬場安紀子）

東京都支部連合会 ■設立 1984年 ■会員数 257名

東京都支部連合会は26支部に分かれて活動していたが、1984（昭和59）年に当時会長であった三神美和先生が、各支部の連携を強くし、さらに強い活動力を持つように合併を希望し発足した。翌年1985年のつくば科学万博では、約1万人の医療救護に協力し、大きな社会貢献をした。初代会長には今野信子が選出され、2代目は斉藤歌子、3代目は中山年子が会を纏め発展させた。この間「十年の歩み」や、「創立20周年記念誌」が発行されている。

支部連合会では、これまで引き継がれてきた「会員相互の親睦、学術研修、社会貢献」をモットーとして活動しているが、東京で本部総会が開催される際のお手伝いを、かつては3年ごとに、近年は隔年で行っている。特に先輩諸姉の時代には、全国から出席の会員をどのようにおもてなしするかに心を砕いていた。会員が集まる機会として、当初は1月新年会、5月本部総会、7月納涼会、11月支部総会であったが、それまでは役員のみの集まりであった3月、9月を例会と位置づけ、会員が隔月で集まる機会を設けた。会ごとに、前半は最新で興味深いテーマのミニレクチャー（学術部の竹宮敏子が始め、現在も脈々と受け継がれている）、または学術講演会などが、さらに後半は卒業大学の垣根を超えた会員相互の情報交換に充てられる。それが何とも楽しいのである。コロナ禍でWebによるリモートでの集まりとなり同じ部屋の空気を吸うことは出来ないが、職場からでも自宅からでも、参加する場所を選ばないという利点は捨てがたい。

久しぶりに、美しい紅の表紙の「日本女医会百年史」を紐解いた。女医100年のあゆみの“凄さ”に感動するとともに、重鎮の先生方による2つの座談会、「できたこと、できなかったこと」と、「どうする、今とこれから」は興味深い内容である。語られていた悩みは、女医会がどのように認識され、さらに会員を増やすにはどうすべきか、国際的な感覚や活躍をどのように養い推進するか等々、それらは20年後の今もって私達の悩みであり、解決されてない問題である。

支部連合会会員数は創立100年には597名であったが、20年を経て半分近くに減少してしまっている。新規会員をいかに増やし魅力ある女医会として活発化するか、課題山積であるが、会員と共に努力していきたい。　（文責：渡邉弘美）

神奈川支部 ■設立 1957年 ■会員数 39名

神奈川支部は1957年に中村きぬを初代支部長として発足し、2022年で65周年を迎えた。これまでの支部長は第2代 野中久子（1970～74）、第3代 稲生襄（1974～85）、第4代 中濱昌子（1985～88）、第5代 加藤七五三子（1988～94）、第6代 森田和子（1994～2000）、第7代 大竹輝子（2000～2009）、第8代 山崎康子（2009～2016）、第9代 小関温子（2016～現在）である。

神奈川支部の会員で日本女医会の賞を受賞したのは、吉岡弥生賞は佐伯輝子、荻野吟子賞は養老静江、稲生襄、小関温子、サファイヤ賞は中濱昌子、功労会員は稲生襄、中濱昌子、永年会員は大竹輝子、風間蓉子、桂万寿美、川田和子、佐伯輝子、佐々木道子、髙木久佳、中島幹恵、村上リョウ、山崎康子である。

1967年より「神奈川支部だより」（題字 中濱昌子）を発行

しており、No.14 は 30 周年記念、No.19 は 40 周年記念、No.22 は支部設立 60 周年、支部だより発刊 50 周年記念であった。内容は学術、エッセー、短歌、俳句、書、絵画、刺繍、旅行記などで、会員の多彩な才能による充実した内容となっている。

神奈川支部が担当した日本女医会定時総会の開催はこれまでに、1984 年の第 29 回と 2007 年の第 52 回の 2 回である。第 52 回定時総会は「21 世紀に羽ばたく女性医師を目指して」をテーマにパシフィコ横浜会議センターで開催し、116 人が参加した。講演は橋本葉子前会長、斎藤加代子、平敷淳子次期国際女医会会長の 3 名、特別公演は田中康夫前長野県知事にお願いした。田中康夫氏の講演会には会場から溢れるほどの聴衆が集まった。

支部総会は年 1 回 7 月頃に開催し、総会に続いて学術講演で勉強し、その後は懇親会で親睦を深めてきた。残念なことに COVID-19 パンデミックの影響で対面での集会が困難となり、2020 年以降は支部総会が開催出来ていない。本部の総会や講演会はオンライン化しており、会員増強のためには支部においても IT 化の必要性を強く感じている。

（文責：小関温子）

山梨支部 ■設立　1957年　■会員数　20名

山梨支部はその前身である山梨県女医会として 1947 年に結成され、清水友代、小林梅子、古屋節子、他会員の活躍で 1957 年に日本女医会山梨支部となり現在に至っている。

日本女医会百年史に記載したように現在も年一回の総会に講師の先生方（詳細は下記に記す）の講演を拝聴し、その後和やかに情報交換の懇談会を持っている。その他に、ここ数年はコロナ禍で中止しているが有志が月末の日曜日に昼食を共にする親睦の会を行っている。

2003 年以降の活動としては支部規約の変更がある。2007 年に支部長及び役員の任期は 2 年、卒業年度による順番制とした。2006 年には嶋崎紀代子が日本女医会の吉岡弥生賞を受賞している。2017 年に永年会員をおき会費免除とした。2019 年に日本女医会第 23 回ブロック懇親会を行い、原まどかが山梨県の女性医師の勤務体制について講演した。

《2003 年からの総会講師と所属（当時の支部長名）**》**

- 2003 年　内藤いずみ　ふじ内科クリニック（嶋崎紀代子）
- 2006 年　河野浩二　山梨大学医学部（上野美代）
- 2007 年　山下晴夫　山梨県立中央病院（小尾契子）
- 2008 年　薬袋健　山梨県医師会
- 2009 年　飯田龍一　社会保険山梨病院（苅部和子）
- 2010 年　川口哲男　甲府市立病院院長
- 2011 年　川上順子　東京女子医科大学（山西律子）
- 2012 年　吉岡正和　吉岡医院
- 2013 年　古屋好美　甲府保健所（小澤みや子）
- 2014 年　尾花和子　山梨県中央病院
- 2015 年　武者稚枝子　稚枝子おおつきクリニック（中込洋子）
- 2016 年　山本纊子　日本女医会
- 2017 年　露木里恵　訪問看護ステーションつゆき（内田成子）
- 2018 年　赤須玲子　赤須医院
- 2019 年　第 23 回ブロック懇談会（高野美紀子）

（文責：山西律子）

石川支部 ■設立　1957年　■会員数　6名

金沢医科大学の女医会“水月会”は 1996 年より活動を開始していた。水月会会長 1 代目は廣瀬優子、2 代目は鈴鹿有子、3 代目は土島睦が務めている。

私の関係した 2006 年の金沢医科大学水月会総会の講演の後援依頼や 2007 年総会時に女性総合医療センター開設もお祝いくださり、当時の小田泰子会長に総会に参加していただき祝辞をいただいたことがついこの間のようである。

山本纊子会長を偲ぶ会では、金沢医科大学の榎戸芙左子大先輩にもお会いでき、悲しみのお席であったが人間のご縁を感じることができた。

2018 年には日本女性会議を金沢で開催することになり前田佳子会長にも金沢の歌劇座の総括発表会にご参加いただき女性への熱いエールをいただいた。

現在のところ石川支部としての活動はできていないが大学の行事の時や、石川県女性医師支援センターの会の開催時など日本女医会の後援をいただき本当に感謝している。

日本女医会の活動を通して得た沢山の方々とのご縁を今後も大切にしていきたい。（文責：赤澤純代）

長野支部 ■設立　1956年　■会員数　13名

長野支部は、日本女医会の中でも初期の 1956（昭和 31）年に結成され、今に至っている。初期の活動については、記録がないが、2005 年 1 月 23 日日本女医会公開講座“「十代の生と性と死」を考える”が長野市で開催されている。当時の橋本葉子会長、山崎トヨ理事にご臨席いただき、一般の方 150 名以上の参加があった。思春期の相談を長く受けている精神科医、現場の高校教諭等の講演やピアカウンセラーとして活動をされている大学生の寸劇等があり、薬害エイズと戦っている川田龍平氏がコメンテーターとしてご参加くださり、命の大切さを知る公開講座であった。

2017（平成 29）年 2 月 19 日には、松本市で第 20 回日本女医会ブロック懇談会が開催された。総合司会は馬場安紀子理事で、前田佳子副会長（会長代行）に日本女医会の歴史と活動の報告、諏訪美智子副会長が事業紹介を行った。長野県では平成 19 年から長野県女性医師ネットワークがあり、長野県医師会としての取り組みを県医師会飯塚康彦理事に、長野県としての取り組みを、山本英紀健康福祉部長に、信州大学としての取り組みを医学教育センター黒川由美助教、小児科中沢洋三教授に紹介していただいた。日本女医会からは理事 10 名、長野県支部 3 名のほかに、女性医師 4 名、医学部学生 4 名（うち 2 名は男性）、松本市医師会長、事務長の参加があり、昼食をはさんで、活発な意見交換が行われた。

日本女医会の同好会である「軽井沢セミナー」のお手伝いもしている。毎年 10 月末頃に開催され、講演会、懇親会、翌日のゴルフや観光等を行っている。コロナウィルス感染症拡大を受けて 2020 年からは行われていないが、会員の有志が会費と寄付金を出して行っている会で、年齢序列関係なく素晴らしいお話が聞ける会であるので、再開を期待している。

（文責：河野直子）

大阪支部 ■設立　1955年　■会員数　61名

大阪支部は 1955（昭和 30）年に設立された。地域の医療活動に従事し親睦を深めてきたが、1970（昭和 45）年に開催された大阪万国博覧会で救急医療を担当し、大阪の女医たちが活躍し大きな成果をあげた。それを機に大阪支部の会員が急増し、大阪には 10 の支部が出来て約 100 人の会員となりその後 200 人ほどまでになった。2007（平成 19）年から 2008（平成 20）年の頃大阪で「病児保育シンポジウム」や「たんの吸引講習会」などが開催され全国から多くの先生方が参加された。さらに 2009（平成 21）年 に大阪で第 54 回日本女医会総会が開催された。その後 2012（平成 24）年に日本女医会は公益社団法人へ移行した。それに伴って地域各支部は組織的には日本女医会と分離されたが、名称を使うことは可能であった。その機会に日本女医会大阪支部は従来の 10 支部を整理して、Ⅰ からⅤ班までに分けた。それから今日まで 10 年、大阪支部として特色ある活動はしていないが、本部理事選挙時には大阪から理事を推薦し、また以前同様、定期的な活動として毎年 4 月、各班が順次当番を担当し、支部総会・講演会・懇親会を開催してきた。2020（令和 2）年、2021（令和 3）年はコロナ禍のため会合を中止した。これまでの講演会のテーマは「病児保育」、「性暴力被害の救済」、「老人福祉施設における看取り」など、その時代の社会的関心の高いものを選んできた。なお大阪支部における吉岡弥生賞受賞者は昭和 43 年以来今日まで 13 名、荻野吟子賞受賞者は平成 3 年以来今日まで 3 名である。さて大阪支部では 2022（令和 4）年度総会に於いて杉本睦子を支部長として選出した。ポストコロナ時代の大阪支部の活動については、これから議論していくところである。現在会員数は 61 名となり、最盛期の三分の一位である。若い先生方が魅力ややり甲斐を感じるような会に発展していくことを願っている。

（文責：野崎京子）

岡山支部 ■設立　1957年　■会員数　7名

岡山支部は 1957 年 2 月に、故・井口与志子を初代支部長として 66 名の会員で創立された。1974 年には会員数が 28 名程になっていたが、その頃は毎年岡山支部会が開催されていたようである。1983 年 5 月には、日本女医会定時総会が岡山で開催された。2001 年 6 月には、日本女医会中四国ブロック会が岡山で開催され、23 名の参加があった。

2003 年 12 月、日本女医会「十代の性と健康」指導者養成講座第 7 回を金重恵美子先生を中心に岡山で開催し、教育関係者も多く参加し好評であった。その後、2008 年に日本女医会十代の性の健康支援ネットワーク作り事業に協力し、「ゆいネット岡山」ができて現在 13 年目となる。この活動は、日本女医会が 2008 年に札幌、岡山、名古屋、盛岡の 4 モデル地区で連絡協議会を開催したのがきっかけとなった。性被害への支援としてのワンストップセンターの開設、DV 被害者への支援、情報化におけるネット関連被害、社会的ハイリスク妊婦の持つ課題、学校における LGBT 支援、児童虐待などさまざまな課題に向けて協議会や講演会を開催してきた。

2017 年 6 月に支部長を延藤文子より大野広子に引き継いだ。2019 年 6 月に岡山支部会を行い、6 名の参加があった。その後コロナ感染のこともあり、集まれていない状態である。岡山支部は会員数が減少し、現在 7 名である。岡山には、岡山県医師会女医部会、倉敷女性医師の会などがある。女性医師を支援するという目的は同じなので、今後は他の女性医師の会と連携して女性医師の活躍を支援していきたいと考えている。

（文責：大野広子）

愛媛支部 ■設立　1957年　■会員数　7名

高知で第16回総会が開催の折に、他の四国3県の会員が集まり、これを機に四国女医会が誕生し、毎年持ち回りで続けていたが、2001（平成13）年を最後に解散した。当時の支部長は高岡明生、その後、岸澄子、2009（平成21）年から大野弓子が務めている。現在の会員数は7名で、何とか先輩の進まれた道を閉ざさないようにと思う。

本年度のオンラインでの支部・本部連絡会にも、会員数が減ってきている、特に地方において顕著であり、会員数をどう増やすかが、これからの課題であるとあった。

一県一医大構想が閣議決定され、愛媛大学に医学部が併設された。その後は医学部内に「地域のマドンナドクター養成プロジェクト」制度が創られ、女性医師の絆を深めるだけではなく、男女共同参画としての役割も兼ね、県医師会や同女性支部会と連携しながら活動が見られる。

中央とのつながりを保つために、総会は極力参加し、会員に総会の内容を報告するという形を続けてきたが、コロナ禍でままならず、お役目にお答えできないここ数年である。

（文責：大野弓子）

福岡支部 ■設立　1957年　■会員数　23名

福岡支部は掛札タキ初代支部長のもと、1957（昭和32）年に結成された。斎藤ハツエ第2代支部長、加藤竺子第3代支部長、水田祥代第4代支部長、坂本雅子第5代支部長、樗木晶子第6代支部長、そして2015年から加藤聖子が第7代支部長となっている。福岡支部の会員は40名である。設立後しばらく活動していなかったが、1992（平成4）年に再発足し、1995（平成7年）に第9回日本女医会ワークショップ、1996（平成8）年に第41回日本女医会定時総会を福岡支部の担当で開催した。その後は女医会としての大きな活動はしていない。福岡県も女性医師の数が増え、産休・育休後の復帰支援が求められている。この点に関しては福岡県や医師会、県内の大学病院が連携して女性医師支援の活動を定期的に行っている。今後は女医会のメンバーの交流などを行い、女性医師支援活動の情報交換の場をつくっていきたいと考えている。

（文責：加藤聖子）

佐賀支部 ■設立　1957年　■会員数　21名

佐賀県女医会は1950年7月1日に発足し、日本女医会佐賀支部としては1957年7月28日に19人で結成され、会長に古賀ハマが就任した。その後は、千住冬子会長、緒方文江会長、横須賀麗子会長、現在の浅見豊子と繋がり、会員の細やかで献身的な協力により活動が成り立っている。とくに、佐賀市で開催した2001（平成13）年の第46回日本女医会定時総会は佐賀支部全員が一丸となれた素晴らしい事業であったが、その後も地道に活動を継続している。

2007年には日本女医会との共催で小児救急講演会を佐賀市で開催した。2009年には佐賀県女性三師（医師、歯科医師、薬剤師）交流会を発足させ、それを現在は佐賀県女性三師・女性弁護士交流会に発展させ、年に1回、8月に開催している。この交流会は懇親を深めるだけではなく、持ち回りで教育セミナーを企画し、医学・医療以外についての知識や情報も収集できる場となっている。日本女医会佐賀支部（佐賀県女医会）総会は、年に1回1月に開催しているが、若手女性医師への啓発セミナーも同時に行い、若手女性医師と楽しく親睦を図っている。また、2011年には、念願であった佐賀県女医会誌「佐賀県女医会のあゆみ」を発刊し、佐賀県で活躍された女性医師たちの足跡を記録にとどめることができた。これは支部の大きな財産となっている。

現在、長引くコロナ禍により、会員同士が直接交流する機会が減っていることは寂しいことであり、新しい交流の形を模索する必要があると考えている。しかし、このように閉塞感のある世の中ではあるが、時代はクオータ制やパリテ制の時代となってきている。佐賀県出身の吉岡荒太先生と彌生先生の出会いが、日本初の女医養成機関である東京女医学校（現在の東京女子医科大学）の設立、そして女性医師の育成に結びつくことになったわけだが、その佐賀県の支部としては、これからも会員一同手を携えて、新しい時代に則した女性医師の活躍の場の新たな展開を目指していければと思っている。

（文責：浅見豊子）

公益社団法人日本女医会　定款

第１章　総　　則

（名　称）
第１条　この法人は、公益社団法人日本女医会という。
（事 務 所）
第２条　この法人は、主たる事務所を東京都渋谷区に置く。

第２章　目的及び事業

（目　的）
第３条　この法人は、医学に関する調査研究、医療の普及及び女性医師相互の連携を図り、もって女性医師の社会的使命の遂行、公衆衛生の向上及び国民福祉の増進に寄与することを目的とする。
（事　業）
第４条　この法人は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。
（1）医学に関する諸般の調査研究及び助成
（2）医学に関する研究会及び講演会の開催及び後援
（3）医療の普及（医療奉仕を含む。）及び助成
（4）公衆衛生の向上のための講演会の開催、相談業務及び啓発並びに助成
（5）医療及び公衆衛生の向上並びに女性を取り巻く課題に取り組む関係団体との連携
（6）国際女医会及び海外関係者との連携活動
（7）女性医師支援事業
（8）子育て支援事業
（9）その他この法人の目的を達成するために必要な事業
2　前項第６号の事業については、本邦及び海外で、それ以外の各号については日本全国において行うものとする。

第３章　会員及び準会員

（会　員）
第５条　この法人は、次の会員をもって組織する。
（1）正会員　日本の医師免許を有する女性でこの法人の目的に賛同して入会したもの
（2）特別会員　外国の医師免許を有し日本に在住する女性で、この法人の目的に賛同して入会したもの
2　この法人に対し特に功労があった正会員に対して、総会の決議により名誉会員の称号を与えることができる
3　第１項の正会員及び特別会員をもって一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（以下「法人法」という。）上の社員とする。
（準 会 員）
第６条　この法人に、次の準会員を置くことができる。
（1）賛助会員　この法人に対し特別の協力援助のあった者で理事会の承認を得たもの
（2）学生会員　女性の医学生で、この法人の目的に賛同して入会したもの
（入会手続き）
第７条　この法人の会員又は準会員になろうとするものは、理事会の定めるところにより申込みをし、その承認を受けなければならない。
2　入会は、会長が本人に通知するものとする。
（会員及び準会員の義務）
第８条　この法人の事業活動に経常的に生じる費用に充てるため、会員になった時及び毎年、会員は、総会において別に定める会費を支払う義務を負う
2　学生会員は、総会において別に定める会費を支払う義務を負う。
3　会員及び準会員は、この法人を政治的又は私益のために利用してはならない。
（退会手続）
第９条　会員及び準会員で退会しようとするものは、退会届を会長に提出することにより、退会することができる。
（除　名）
第10条　会員及び準会員が次のいずれかに該当するときは、総会の決議によって当該会員を除名することができる。
（1）この定款その他の規則に違反したとき。
（2）この法人の名誉を傷つけ、又はこの法人の目的に反する行為したとき。
（資格喪失）
第11条　前２条の場合のほか会員及び準会員は、次の事由によってその資格を喪失する。
（1）第８条の支払義務を３年以上履行しなかったとき。
（2）総会員過半数の同意があった時
（3）当該会員が死亡したとき。
（4）後見又は保佐開始の審判及び失踪宣告
（5）学生会員が学生の資格を喪失した時
（既納会費）
第12条　既納の会費は、いかなる理由があってもこれを返還しない。

第４章　総　会

（総会の構成）
第13条　総会は、すべての正会員及び特別会員をもって構成する。
2　前項の総会をもって法人法上の社員総会とする。
（会議の権限）
第14条　総会は、次の事項について決議する。
（1）会員及び準会員の除名
（2）理事及び監事の選任又は解任
（3）貸借対照表及び正味財産増減計算書の承認
（4）定款の変更
（5）解散及び残余財産の処分
（6）その他総会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項
（7）理事及び監事の報酬額
（8）会員会費の額
（総会の開催）
第15条　総会は、定時総会として毎年度５月に１回開催するほか、必要がある場合に開催する。
（総会の招集）
第16条　総会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき会長が招集する。
2　総会員の議決権の 10 分の１以上の議決権を有する会員は、会長に対し、総会の目的である事項及び招集の理由を示して、総会の招集を請求することができる。
（総会の議長）
第17条　総会の議長は、当該総会において、出席した会員の中から選任する。
（総会の決議）
第18条　総会の決議は、総会員の議決権の過半数を有する会員が出席し、出席した当該会員の議決権の過半数をもって行う。
2　前項の規定にかかわらず、次の決議は、総会員の半数以上であって、総会員の議決権の３分の２以上に当たる多数をもって行う。
（1）会員及び準会員の除名
（2）監事の解任
（3）定款の変更
（4）解散及び残余財産の処分
（5）その他法令で定められた事項
（議決権の代理行使）
第19条　総会に出席できない会員は、他の会員を代理人として議決権の行使を委任することができる。
2　前項の場合において、議決権の行使の委任者は、総会に出席したものとみなす。
（総会の議事録）
第20条　総会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。
2　議長及び当該総会で選出された２名の議事録署名人がこれに記名押印する。

第５章　役　員

（役　員）

第 21 条　この法人に次の役員を置く。

（1）理　事　12 名～ 25 名以内

（2）監　事　２名以内

2　理事のうち１名を会長とする。

3　会長以外の理事のうち副会長を３名以内置くことができる。

4　前項の会長をもって法人法上の代表理事とし、副会長をもって同法第 91 条第１項第２号の業務執行理事とする。

（理事、監事、会長及び副会長の選任等）

第 22 条　理事及び監事は、総会の決議によって選任する。

2　会長及び副会長は、理事会の決議によって理事の中から選定及び解職する。

3　理事及び監事は、相互にこれを兼ねることができない。

4　この法人の理事のうちには、理事のいずれか１人及びその親族その他特殊の関係がある者の合計数が、理事総数（現在数）の３分の１を超えて含まれることになってはならない。

5　この法人の監事には、この法人の理事（親族その他特殊の関係がある者を含む。）及びこの法人の使用人が含まれてはならない。また、各監事は、相互に親族その他特殊の関係があってはならない。

6　理事又は監事に異動があったときは、２週間以内に登記し、登記事項証明書を添え、遅滞なくその旨を行政庁に届け出なければならない。

（理事の職務及び権限）

第 23 条　理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。

2　会長は、この法令及びこの定款で定めるところにより、この法人を代表し、その業務を執行する。

3　副会長は、会長を補佐し、この法人の業務を執行する。また、会長に事故がある時又は会長が欠けた時は、理事会が予め決定した順序によって、その業務執行に係る職務を代行する。

4　会長及び副会長は、３か月に１回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。

（監事の職務及び権限）

第 24 条　監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。

2　監事は、いつでも、理事及び職員に対して事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

（役員の任期）

第 25 条　理事及び監事の任期は、選任後２年以内に終了する事業年度のうち、最終のものに関する定時総会の終結の日までとする。ただし再任を妨げない。

2　補欠として選任された理事又は監事は、前任者の満了する時までとする。

3　理事又は監事は、第 21 条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任されたものが就任するまで、なお理事又は監事としての権利義務を有する。

（解　任）

第 26 条　理事及び監事は、総会の決議によって解任することができる。

（報 酬 等）

第 27 条　役員にはその職務執行の対価として報酬を支給する事ができる。

2　役員には、その職務を行う為に要する費用の支払いをすることができる。

3　前２項に関し必要な事項は、総会の決議を経て、別に定める役員の報酬及び費用に関する規程による。

第６章　理事会

（理事会の構成）

第 28 条　この法人に理事会を置く。

2　理事会は、すべての理事をもって構成する。

（理事会の権限）

第 29 条　理事会は次の職務を行う。

（1）この法人の業務執行の決定

（2）理事の職務の執行の監督

（3）会長及び副会長の選定及び解職

（理事会の招集）

第 30 条　理事会は、年６回以上会長が招集する。

2　会長は、必要と認めたとき、又は理事又は監事から法令に基づき請求があったときは臨時に理事会を招集する。

3　会長が欠けたとき又は会長に事故があるときは、各理事が理事会を招集する。

（理事会の決議）

第 31 条　理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

2　前項の規定にかかわらず、この法人が保有する株式（出資）について、その株式（出資）に係る議決権を行使する場合には、あらかじめ理事会において理事総数（現在数）の３分の２以上の承認を要する。

3　第１項の規定にかかわらず、法人法第 96 条の要件を満たしたときは、理事会の決議があったものとみなす。

（理事会の議事録）

第 32 条　理事会の議事録については、法令の定めるところにより、議事録を作成する。

2　出席した会長及び監事は、前項の議事録に記名押印する。

第７章　資産及び会計

（事業年度）

第 33 条　この法人の事業年度は、毎年４月１日に始まり翌年３月 31 日に終わる。

（事業計画及び収支予算）

第 34 条　この法人の事業計画書、収支予算書、資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類については、毎事業年度の開始の日の前日までに会長が作成し、理事会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も同様とする。

2　前項の書類については、主たる事務所に当該事業年度が終了するまでの間備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

3　第１項の事業計画書及び収支予算書については、毎事業年度の開始前に行政庁に提出しなければならない。

（事業報告及び決算）

第 35 条　この法人の事業報告及び決算については、毎事業年度終了後、会長が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を受けなければならない。

（1）事業報告

（2）事業報告の附属明細書

（3）貸借対照表

（4）正味財産増減計算書

（5）貸借対照表及び正味財産増減計算書の附属明細書

（6）財産目録

2　前項の承認を受けた書類のうち、第１号、第３号、第４号及び第６号の書類については、定時総会に提出し、第１号の書類についてはその内容を報告し、その他の書類については承認を受けなければならない。

3　第１項の書類のほか、次の書類を事務所に５年間備え置き、一般の閲覧に供するとともに、定款、会員名簿を主たる事務所に備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

（1）監査報告

（2）理事及び監事の名簿

（3）理事及び監事の報酬等の支給の基準を記載した書類

（4）運営組織及び事業活動の状況の概要及びこれらに関する数値のうち重要なものを記載した書類

4　第１項の計算書類等については、毎事業年度の経過後３か月以内に行政庁に提出しなければならない。

（公益目的取得財産残額の算定）

第 36 条　会長は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律施行規則第 48 条の規定に基づき、毎事業年度、当該事業年度の末日における公益目的取得財産残額を算定し、前条第３項第４号に記載するものとする。

第 8 章　定款の変更及び解散

（定款の変更）
第 37 条　この定款は、総会の決議によって変更することができる。
2　公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律（以下「認定法」という。）第 11 条第 1 項各号に掲げる事項の定款の変更（軽微なものを除く。）をしようとするときは、行政庁の認定を受けなければならない。
3　前項以外の定款の変更を行った場合は、遅滞なく行政庁に届け出なければならない
（解　散）
第 38 条　この法人は、総会の決議その他法令で定められた事由により解散する。
（公益認定の取消し等に伴う贈与）
第 39 条　この法人が公益認定の取消しの処分を受けた場合又は合併により法人が消滅する場合（その権利義務を継承する法人が公益法人であるときを除く。）には、総会の決議を経て、公益目的取得財産残額に相当する額の財産を、当該公益認定の取消しの日又は当該合併の日から 1 か月以内に、認定法第 5 条第 17 号に掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。
（残余財産の帰属）
第 40 条　この法人が清算をする場合において有する残余財産は、総会の決議を経て、国若しくは地方公共団体又は認定法第 5 条第 17 号に掲げる法人であって租税特別措置法第 40 条第 1 項に規定する公益法人等に該当する法人に贈与するものとする。

第 9 章　職　員

（職　員）
第 41 条　この法人の事務を処理するため、若干名の職員を置く。
2　職員の任免は、理事会の決議を経て、会長が行う。

第 10 章　公告の方法

（公告の方法）
第 42 条　この法人の公告は電子公告により行う。
2　事故その他やむを得ない事由によって、前項の電子公告をすることができない場合は、官報に掲載する方法による。

第 11 章　補　則

（名称許諾）
第 43 条　この法人は、地域における女性医師の社会的使命の遂行、公衆衛生の向上及び国民福祉の増進に寄与するため、別に定める基準により任意の団体が日本女医会支部の名称を使用することを許諾する。
2　前項に関し必要な事項は、理事会の決議により別に定める。

規　程

第 44 条　この定款の施行についての規程は、理事会の決議を経て別に定める。

附　則

1　この定款は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律並びに公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第 106 条第 1 項に定める公益法人の設立の登記の日から施行する。
2　この法人の最初の代表理事は、津田喬子とする。
3　一般社団法人及び一般財団法人に関する法律並びに公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第 106 条第 1 項に定める特例民法法人の解散の登記と公益法人の設立の登記を行ったときは、第 33 条の規定にかかわらず、解散の登記の日の前日を事業年度の末日とし、設立の登記の日を事業年度の開始日とする。

索　引　INDEX

あ行

医学を志す女性のためのキャリア・シンポジウム
（～キャリアデザインセミナー）…… 21, 56
NGO日本女性大会（2015）…… 34
Eleanor Nwadinobi（国際女医会会長）…… 7
オンライン化……46, 47

か行

軽井沢セミナー……22, 60
小泉純一郎…… 11, 12
公益社団法人に移行…… 29
公益社団法人日本女医会のFacebookとTwitter …… 41
皇后陛下（現上皇后美智子様）…… 11, 16
国際女医会議（第26回）…… 16
国際女医会議（第28回）…… 26
国際女医会議（第30回）…… 35
国際女医会創立100周年記念会議 …… 43
国際女医会西太平洋地域会議(第８回) …… 18
国際女医会西太平洋地域会議(第11回) …… 33
国際女医会西太平洋地域会議(第12回) …… 39
国際女医会西太平洋地域ビジネスミーティング…… 45
子育て支援委員会…… 15, 20

さ行

「在宅高齢者の栄養管理」講習会…… 23
ジェンダーギャップ指数…… 19
支部・本部連絡会開催 …… 31
十代の性と健康支援ネットワーク委員会…… 15
「十代の性と健康」の支援事業…… 14
女性医師支援委員会…… 21
女性の健康支援委員会…… 15
女性の健康支援事業講演会…… 59
新型コロナウイルス感染症…… 44
STAP細胞騒動 …… 32
創立百周年記念式典・祝賀会 ……11
創立100周年記念事業 …… 10
創立110周年ならびに公益社団法人認定記念式典・
講演会・祝賀会 …… 30

た行

「たんの吸引」を安全に行うための講習会…… 20
長寿社会福祉委員会……20, 23
長寿社会福祉委員会講演会…… 58
東京医科大学の女子受験生一律減点報道…… 41
どうしよう子どもの救急…… 20

な行

日本女医会緊急事態宣言…… 45
日本女医会ロゴマーク…… 13

は行

橋本葉子…… 12
Bong Ok Kim（国際女医会西太平洋地域副会長）…… 8
東日本大震災（東北地方太平洋沖地震）…… 27
平敷淳子…… 2, 17, 21, 26, 35
本部事務所移転…… 42

ま行

溝口昌子賞……34, 62

や行

山﨑倫子賞……34, 62
山本纊子賞…… 37, 62
ゆいネット（十代の性と健康支援ネットワーク）…… 15

ら行

ロシアによるウクライナ軍事侵攻に反対する声明…… 49

編集委員

前田佳子（編集長）
馬場安紀子（副編集長）
青木正美
藤谷宏子
木村友美
塚田篤子
芳川た江子

編集後記

馬場安紀子

菊薫る佳き日、ようやく本書の編集後記に着手できることを嬉しく思います。最後のページを拝借して本書作成の経緯を書き留めることにいたします。

2017 年 1 月、敬愛する山本纊子会長が 2 期目在任中に逝去された大きな悲しみの中、前田佳子副会長が新会長に就任しました。翌 2018 年の定時総会において再任された前田会長は、直後の 6 月の理事会冒頭に「創立 120 周年を迎える 2022 年に『日本女医会百年史』（以後『百年史』と記載）に続く 20 年間の記録を追補版として発刊したい」と表明されました。2020 年 6 月に編集委員会を立ち上げることになり、編集部員は大谷智子会長、花岡和賀子副会長、広報部員の樋渡奈奈子、中田恵久子、木村友美、編集長を馬場が拝命しました。2022 年 8 月発刊の予定で、『百年史』の形式を踏襲する 20 年間の「年表」と「解説」を、外部監事を除く役員全員で執筆しました。2022 年 1 月、本の名称を「日本女医会創立 120 周年記念誌『日本女医会百年史』追補版」と決定。ところが、コロナ禍により対面の編集会議ができない中で大きな働きを担っていた事務局職員が急遽退職したため編集作業は遅れ、定時総会後に再結成された新編集委員会に馬場は残留となりました。その後は、定時総会で 2 年ぶりに再々任された会長・前田佳子新編集委員長の強力なリーダーシップのもと、新事務局員の多大な協力も得て、3 者度々不眠不休の編集作業の日々でありました。

その中で、本来は 2002 年から 20 年間の年表を 2022 年 3 月まで延長しました。その理由は、2 月に始まったロシアによるウクライナへの軍事侵攻について本書に記録すべきと考えたからです。連日報道される戦闘や爆撃の様子、負傷者や避難する人々の映像に、激しい怒りと悲しみを覚えます。多くの罪のない市民が心身ともに傷つき美しかった街並みも大地も破壊されています。日本女医会は抗議の声明文をいち早くホームページに掲載しました。『百年史』には約 140 年前からの女性医師の歴史が綴られていますが、それは女性を取り巻く社会的状況における苦難の道でした。本書においても、そのような視点をもって社会的な出来事と共に日本女医会の年表を読んでいただけると幸いです。

年表の作成にあたっては、『百年史』、過去 20 年分の日本女医会誌、各委員会報告書、定時総会資料、在任中の理事会資料などを繰り返し読み返して正確を期すよう努力しましたが、誤りその他お気づきの点がありましたらご教示ください。この 20 年間に法人格の変更もあって事業内容や用語が年々変化するなど疑問点も多く容易な作業ではありませんでしたが、『百年史』の編纂時には 100 年分でしたからさぞや大変だったのではと想像します。当時編集に携わられた先輩方の計り知れないご努力に敬服するばかりです。

最後に、本書作成のためにご協力いただいた全ての皆様に心より感謝申し上げます。本書が、今後の日本女医会の活動の一助となれば幸いに存じます。

日本女医会創立120周年記念誌
日本女医会百年史　追補版 2002－2022

発行日　2022 年 12 月 11 日
発行者　公益社団法人日本女医会
東京都渋谷区千駄ヶ谷 1 丁目 3 番 19 号　ロワレール千駄ヶ谷 202
TEL 03-6447-0820　FAX 03-6447-0821
e-mail:office@jmwa.or.jp
編集　『日本女医会創立120周年記念誌』編集委員会
制作　あづま堂印刷株式会社

Japan Medical Women's Association

120th Anniversary Commemorative Book

100-Year History Supplement 2002-2022